

高等  
小学全学科表解  
第二学年後期用

教育學術研究會著

高等

小學

修身 國語 地理 歷史 理科  
算術 (筆算 珠算) 圖畫 體

# 全學科表解

第一學年後期用 [修正]

3  
489

交盛館發行

教育學術研究會著修正

高等

小學

全學科表解

第一學年後期用

48.9.15

### 全學科表解改正發行について

小學校生徒諸君の高評歡迎を得たる全學科表解は今學期の初にあつて大改正を加へねばならぬこととなりました。

その改正を要する理由といふのは、國定教科書の大半が、今學期から改正になつた爲であります、されば本會はその改定になつただけの教科書に就いては、直ちに改正を加へて新に發行いたしましたのであります。改正教科書は漢字の數も餘程多くなり、かなづかひも全くかはりまされば、一層この表解の必要を認めることとなつたのであります。全學科表解としての特色は、すでに諸君の知らるる所の如く、簡明な

る表式によつてすべての學科を説明し、字解、挿畫によつてその足らぬところを補ふべく注意を拂つたもので、猶今回大に改訂を加へ、諸君の歡迎にむかざらんことを期したのであります。

終りに特に諸君の注意をねがひたいといふのは、本會の全學科表解と同名目をつけたり、又はまぎららしい表題の出版ものが澤山にありますから、よろしく先づ『教育學術研究會著の全學科表解』たる文字に注目せられて、一層の愛讀あらんことを望むのであります。

教育學術研究會々主のふ

高等小學全學科表解第壹學年後期目次

◎修身科	.....	一
◎國語科	讀書綴	一四
	方方方	五七
◎歷史科	.....	七三
◎地理科	.....	九五
◎算術科	筆算	一二
	珠算	五九
◎理科	.....	一六一
◎圖書科	.....	一八五
◎體操科	.....	一九三

高等小學修身科表解 第一學年後期

第 五十 課 正 直

字 解 自己の虚言 他人を 騒がしむ 興せん 怒を 恐れ 目前の利 益の大き組 悪む

○修身科 第一學年…後

二

目的…社會における心得の九として正直の大切なることを知らしむ

一、正直 己の身としての言ふところその行ふところ正直なるときは人としての言ふところは信用を得る基(もと)となり、社會の人々を直守るものが多くなれば、善良なる社會となりて盛んなることを得べきなり。

二、不正

職人などが他の目をぬすみて仕事を粗末(つろ)にしたり、商人が不正のをはかりやますを用ひて物を賣買したり、受負(うけお)ひたるものをその期日をあやまりたり、表面をよきように見せて内部はあしきものを入れたりするが如き、一時は利あるが如きも決して發達することなきものなり。

三、虚言

根のなきことをいひふらして人を騒がし、己れのあやまちをかきさん、がため又は人の腹立をのがれんがため、己の才能をため、目の前の利益のため、なきことをあるが如くにいひふらして人をだますが如き遂に何事も信ぜぬに至る。

四、格言…正直は一生の寶…人一代の寶は正直にあること。

第 六十 課 約 束

字 解 守るべし 行し難し 行く 約束 目的

○修身科 第一學年…後

三

目的 約束はかるがくしやすべからず、一度約束したることは、法律や徳義にそむかぬ限りは必ず守るべきを知らしむ。

一、約束条件

人と約束せんとするときは、これを行ふことを得べきか、得べからざるかを考へ、次にその正しき事からなるや否やを思案(しあん)して後にはじめて約束すべきなり。

二、約束の心得

たとへば何日には某の地に同行せんと約束するに、その日には差つかひがあるかなきかを考へて後に定むることにて若し行かるとも行かれぬとも知れざるときは、かたく約束すべからず、一度約束して之にそむくは信用をうしなふもととなるなり。

三、約束の場合

すでに人と約束したりとも、その約束した事から法律にそむくとか、徳義にそむくとか、父母などの命にそむくとか、もしは、その日に病氣などやむを得ざることを生ぜしときは、その約束の時間より前にそのわけを知らせてことわるべし、その間に病氣などやむを得ざることを知らせ

量 度 課七十第

字 解  
 度量 ドリュウ 度量の大小をいふこと。度量の大小をいふこと。度量の大小をいふこと。  
 交る マツル 交る。交る。交る。  
 行 ユク 行。行。行。  
 だりに怒 イカガミ だりに怒。だりに怒。だりに怒。  
 るべから スベシ るべから。るべから。るべから。  
 倒せり タラシ 倒せり。倒せり。倒せり。  
 翌日 アシタ 翌日。翌日。翌日。  
 ふべきな スベシ ふべきな。ふべきな。ふべきな。  
 り リ り。り。り。

○修身科 第一學年……後

目的：人としてはその心を大きくもつべきことを知らしめんとす。

一、度量の大人  
 度量の大人は、たとへ他人が己に對して無礼なることを言つたり行つたりするとも、みだりに怒ることをせぬものなり。したがつて喧嘩(ケンカ)口論(コソ)などの生ずることなく、交際の道は平和にあるものなり。

二、度量の小人  
 度量の小人は、少しく己の意にさからふことがあると、すぐ怒り罵(ののし)りなどしてつひに大なる争論(ソソ)を生じ、その人との交際をやぶり、後に悔(ウレシ)ること多し、かくの如きは世間せまき人といふべきなり。

三、例話  
 アメリカにワシントンといへる將校(ジョウコウ)ありしが、一千七百五十五年の南北戦争のときに、一人の將校と大に争論をなせしが、はては他の將校は大に怒つてワシントンをうち倒したりワシントンは別(わか)れにうらみ怒ることなく翌日その將校をたづね、己(おれ)がわるかりしとて改めて親(おや)しく交れり、人はよく堪忍(カンニン)してみだりに怒るべからざるなり。

切 親 課八十第

字 解  
 親切 シンセツ 親切。親切。親切。  
 稀 マレ 稀。稀。稀。  
 知らざると シラザル 知らざると。知らざると。知らざると。  
 救ひ スグ 救ひ。救ひ。救ひ。  
 同情 ドウジョウ 同情。同情。同情。  
 救ひ スグ 救ひ。救ひ。救ひ。  
 親切 シンセツ 親切。親切。親切。  
 接 ツグ 接。接。接。

○修身科 第一學年……後

目的：親切が人と交際するに必要なことを知らしめんとす。

一、その意義  
 親切とはねんごろにすることにて己の真心(マコトココロ)より人の難儀(ナニギ)をいたはりたすけ、人のためをはかることをいふ。

二、良心  
 例へば目の前にいとけなき子供が井の中にはまらんとするのを見るときは、いかにあしき心の人にてこれをたすくるが如きをいふ。

三、關係  
 人には良心あるものなれば、己より親切の心をもつて交るときは、その人はあしき人にてつひに親切を以て交るに至り社會はあつから平和に愉快なることを得べし。

四、例話  
 外國のある所に貧しき兒童が日日馬をひき少しの賃錢(セシ)を得て母を養ひしに一日その兒童大怪我(オホケガ)をしたりある學校の生徒その兒童を見舞ひその翌日より兒童にかはりて牛乳をしぼり又己の靴を買ふ錢を以て藥などを買ひあたへ親切にその兒童と母とをいたはりしかば、學校の校長はこれをほめて名譽ある褒賞をさづけたり。

慈仁と義正 第十二課

字解 正義(せいぎ) 仁慈(にじ) 産名譽(うぶなごころ) 名譽(なごころ) 重んじ(おもむく) 違(ちが) へぬ(へぬ) 施す(ほどこす) 施す(ほどこす) 備ふ(そなへ) 全(まこと) 人(ひと)

○修身科 第一學年……後

目的 人として己が分限を守りて他人を害せず、猶ほ進んで他人の

一、正義 人として必ず盡さざるべからざる正しき道、すなはち己の

二、仁慈 仁慈とは社會における心得の第十一より第十三に至るもの

三、二者の關係 正義も仁慈も人の守る行ひの一つにして、いづれもすつる

善 慈 第九十課

字解 慈善(じぜん) 不具(ふぐ) 厄(やく) 施す(ほどこす) 務(つと) 古(ふる) 孤兒院(こにんいん) 感化院(かんげいん) 設けらる(たてつけらる)

○修身科 第一學年……後

目的 慈善は社會における心得の一にして、人としてこの心なかるべ

一、慈善 慈善は眼の見えぬ人、足のたたぬ人、手のかなはぬ人などす

二、事業 古昔(こせき) 今時(いまとき) 育兒院(こにんいん) 孤兒院(こにんいん) 貧民病院(ひんみんびやういん) 貧民學校(ひんみんがく)



# 衆 公 課一十二第

**字 解**  
公衆の社会の中  
公衆は、社会の中で生活する人々の集合をいふ。社会生活の中心をなす。社会生活の中心に在りては、社会生活の中心となるべきなり。

**字 解**  
衆衆、公共の場、公共の場所、公共の利益、公共の衛生、公共の衛生に注意し、よごれものを道にすてたり、飲水をよごしたり、傳染病をかくしたりするが如きことあるべからず。

**字 解**  
豫防、消毒、妨害、注意、事項

○修身科 第一學年……後

目的……人は多くの人がすなはち公衆に對する心得を知らざるべからず

## 一、義務

人は常に公衆に對して迷惑（ワザイ）となりさまたげとなり又は不便とならぬことを思ひ、公衆の利益をはかるべきなり。

## 二、注意

公園や社寺の境内（カイ）道ばたなどの、樹木を折るが如きことあるべからず。

## 三、事項

道路などにて人の通行のさまたげとなるが如き、大いなるものを持ちあるが如きことあるべからず。

## 四、事項

公衆の衛生に注意し、よごれものを道にすてたり、飲水をよごしたり、傳染病をかくしたりするが如きことあるべからず。

## 五、事項

便所をけがしたり、壇垣（カ）などに樂書（ガキ）などすべからず、その他いたづらごとをなすべからず。

## 六、事項

その他、約束の時刻をたがへたり、舟や車のあがりより又は祭日など、人ごみのところにて人をおしのけたりするが如きことをなすべからず。

# 社 會 課二十二第 序

**字 解**  
秩序、慣習、都合、決行、保つ、権利を侵す、回復

○修身科 第一學年……後

目的……社會の秩序がみだれては、安寧幸福を得ることあはざれば、その秩序を正しくせんことを知らしめんとす。

## 一、一般

社會は多くの人のより合場所なれば己の意見を達せんとするときは必ず紛乱（ラン）の生ずるものなれば、常に慈心（ジョウシン）をおさへて譲（ユル）り合ふことを心がくべし。

## 二、風俗

風俗も習慣もその地方によりてことなることあれば、郷（コウ）に入つては郷に從へといふが如く、その地方の風俗や習慣にはみだりにそむくべからず、しからざれば社交上の非難をうけて紛乱をおこし、秩序をやぶるに至るべし。

## 三、法令

法律命令は社會の秩序を維持（キ）するために、設けられたるものなればよく守りてそむくべからず、若し他人よりこれをやぶりて己の権利をおかすことあらば、その法律の保護によりて訴訟（ソウジ）をおこなすことあり、しかれども訴訟の如きはこれらも秩序を維持することあるべからず。

第二十三課 社會の進歩

字解  
 進歩(シンボ) すすむ  
 衰(オドロ) 衰ふ  
 生活(セイカツ) くらしむ  
 なかるべ  
 からず  
 成功(セイコウ) を  
 期(キ)すべし  
 順序(ジュンジュウ) いた  
 んこと  
 はから

○修身科 第一學年……後

目的

社會の進歩するとせぬとは、社會に生活する人の心得によることなれば、たがひに社會の進歩をはかるべきを知らしむ。

一般の心得

- 一、己が職業をばはるべし、社會はその中に生活する人の進歩にともなひて、進歩し、退歩(タイ)につれて退歩するものなれば、人人各自にそのつとむべき職業を勉強して、己の進歩をはかるべからず、その進歩をはかるには職業の改良發達をはかることをはげまざるべからず。
- 二、社會己が職業をばはるべし、これに改良を加へしときは更に社會公衆のために利益とならんことをはかるべし、これ社會の進歩をうながす道なりとす、すなはち殖産興業(シヨクサン)發明改良の如きこれなり。
- 三、己が職業をばはるべし、社會の利益をはかるべしといへども若し一朝國家に事あるか、又は天災(サン)地變等のために、社會の公衆にかかる大事あるときは己をわすれて社會につくすべきをおもふべし。

第二十四課 外國人

字解  
 外國人(ガイコクジン) せいの  
 内國人(ナイコクジン) せいの  
 言語(ゴンゴ) げんご  
 舉動(キョウドウ) げんご  
 慎(ツツ) げんご  
 しみ(シミ) げんご  
 品(ヒン) げんご  
 位(イ) げんご  
 傷(キツ) げんご  
 言行(ゴンゴ) げんご  
 國家(コク) げんご  
 の名(メイ) げんご  
 譽(ヨ) げんご  
 につぼんの

○修身科 第一學年……後

目的：外國に對する交際のしかたを知らしめんとす。

- 一、外國人との交際  
 外國より來りて營業するものもあり、外國に往きて營業するものも多くなりし今日、その交際法をよく心得おかざるべからず、内國人との交際とはおのづからことなれり。  
 その國によりて風俗もちがひ、言語もことなるものなれば、我國に來りし外國人の不便は多かるべし、さればその言語、習慣等を心得てその不快(イカ)を感せぬようにせざるべからず。
- 二、親切を親しくし、品を大切にす  
 外國人が往來するときに、そのあとよりつきまとい、笑つたり指さしたりするが如き無礼あるべからず。  
 言語通せずして、商品などを高く賣つたり、不正直のことなしたりすべからず。
- 三、不意の災(ハジ)もあらばことさらに保護せざるべからず

己 自 課五十二第

解 字  
 自己 己 自 家 族 有 發 達 自 殺 卑 怯 知 識 義 務 響 行 病 流 影 義 務 響 行 病 流 影

○修身科 第一學年…後

目的…おのれの身と心とに對するつとめを知らしめんとす。

一、理由  
 人は他に對する務ある如く自己に對する務もあるものにして、自己なりとて決して勝手にふるまふべからず、何となれば人の成長するは父母及び他のたすけによるものなればなり。

二、己より他人に及ぼす影響  
 己の身體に對する務をおこたりしたため健康を害して家族に心配をかけ、社會に對する義務をも十分にたくし得ず、又流行病などにかかり、爲に社會に迷惑をおよぼすこと多く又己の徳義心より影響をおよぼすことなしとせず。

三、義務  
 身に對する務…健康の如きをいふ。心に對する務…知識の如きをいふ。

四、自殺  
 これも身に對する務の一なり、おのれの身を己がころすなれば、とがむべきにあらすとなすが如きありと雖も、これ全くその人なるの自分をつくさざるものにして卑怯(ヒキ)のものといふべきなり。

身 課六十二第

解 字  
 身體 健康 困 難 能 力 健 康 ナ ル 精 神 ハ 健 康 ナ ル 身 體 に 宿 事 務 關 係

○修身科 第一學年…後

目的…身體の健康を保つは自己に對する務の一たるを知らしむ。

一、健康  
 身體健康なるときは何事をなすにも困難なること少く、これに反して健康ならざるときは何事にも困難を感ずること多きものなり、されば健康は人たるの務として極めて大切なることなりとす。

二、事實  
 人人の職業によりて健康の注意を怠るものありといへども、いやしくも健康ならざるときは國家に對して軍人たること、またはさるはもとより、その他の官吏學者などならんにもその業にたふるものにあらざるなり。

三、健康と心の關係  
 身體健康ならざれば、その心もまた健康ならざるものなり、いかた才智ありて國家の有用の人物たりとも、健康ならざるときは多く心を勞し多く事務を執ることを得ず、されば健康は心のためにもつと大切なることなり。

格言…健康ナル精神ハ健康ナル身體ニ宿ル(人)のからだの中にあつたり。

字解  
 強壯 キョウソウツウ 強 キョウ 壯 ソウツウ  
 否 イナ 攝生 セツセイ 注 チュウ  
 害 ガイ 虚弱 キョウジャク  
 滋養 シヨウ ありもの  
 をえらふ

修身科 第一學年……後

目的 身體の強壯なる否とは、生れつきばかりによらぬこと、及び食物についての注意を知らんことを要す。

強壯 身體の強壯なると強壯ならざるとは、その人の生れつきによること多けれども、強壯なる人もそのうまれつきの強壯にまかせて飲食物をはじめ、何事にも養生をなさざるときは、終に虚弱(キョウジャク)なる人となるべく、これに反してそのうまれつき虚弱なりとするも、常に養生に注意するとき強壯なる人となることを得べし、その要は養生の如何にあるものなり。

人の身體は飲食物にて養はれたるものなれば、養生の大切なるを知る以上は飲食物に注意せざるべからず、一般に滋養(シヨウ)に富めるものをえらび、不消化(フセウ)のものを避くべし人は常にほどを考へて、いかに害なきものとても程程にせざるべからず、あばれ飲み、あばれ食ひなどするは自らその身をそとなふもとむとなるものなり。

身

(二) 體

暴飲 ボウイン 暴食 ボウシヨク 慎 ツツ ざるべか  
 らず キヲツケ 病ハ口 ヤマヒ ヨリ入ル ヨリイル  
 暴飲 ボウイン 暴食 ボウシヨク 慎 ツツ ざるべか  
 らず キヲツケ 病ハ口 ヤマヒ ヨリ入ル ヨリイル  
 暴飲 ボウイン 暴食 ボウシヨク 慎 ツツ ざるべか  
 らず キヲツケ 病ハ口 ヤマヒ ヨリ入ル ヨリイル

二、飲食

酒

よいほどに用ふれば、養生のたすけとなることあれど多く用ふるときは身體を害するものとす。

酒の 身體を害す。

その害を子孫におよぼす。喧嘩口論(ケンカカガ)の如きもの。不徳の行を生ず、發狂(ハツキョウ)の如きはこの害によるを多しとす。

煙草…少年の時には決して用ふべからず。

腐敗(カカイ)にかたむきしものは食ふべからず。

食物 不消化のもの、食ふべからず。動物のまだ實のいらぬものは食ふべからず。獸肉には、さなだ虫のふくるむしをふくむこと多ければ、生(ナ)にては食はざるをよしとす。

三度の食事の外にはみだりに食ふべからず。

格言…病ハ口ヨリ入ル 病氣の多くは、飲食物をつつしまさるより生ずるものなれば常につつしむべきなり。

修身科 第一學年……後

第二十八課 身體 (三)

字解  
 飲食の運 (イ、シ、ヨ、ク、ミ、ウ、ン)  
 動 (カ、ン、カ、シ、ツ、カ、ム、コ、ノ)  
 肝要 (カ、ン、カ、シ、ツ、カ、ム、コ、ノ)  
 腕 (ウ、デ)  
 脚 (カ、シ、ツ、カ、ム、コ、ノ)  
 新鮮 (シ、ン、セ、ン)  
 各部 (カ、ク、カ、ク、カ、ク、カ、ク)  
 一様 (イツ、ヤウ)  
 効果 (コウ、カウ)  
 清潔 (ケツ、セツ)

○修身科 第一學年……後

目的：運動、新鮮の空氣、身體の清潔の必要を知らしめんとす。

一六

一、運動の利益

腕(ウ)を多くつかふ鍛冶屋(カウ)の腕はよく發達し、脚を多くつかふ郵便飛脚(ヘキ)の脚はよく發達するが如く、常に運動して手足をはたらかしむるときは身體の各部おのづから發達して強壯なる人となるべし。運動は學校における體操、野外の散歩等をよしとす、しかれどもあまりに度にすぎるときは、却て害を生ずるものなれば、よく注意せざるべからず。

二、空氣

空氣はつねにわたらしきを要す、住居は勿論(モト)運動するときはにも成るべく新らしき空氣の中においてすべし。

三、光線

光線は必要のものなり、住居はもとより運動するときにも光線の十分にさしこむところをえらぶべし。

四、清潔

身體の不潔(ツク)は病のもととなるものなれば、常に清潔にして皮膚を強壯にすべし、衣服の如きも常に垢(カ)つかりないようにすべし、品位にも關するものとす。

高等  
 小學

國語科讀方表解

第一學年  
 後期

○國語科讀方 第一學年……後

大意 動物と植物とは密接の關係の有するものにして、その作用はいかなるものなるを知らしめんとす。

字 關係 昆虫

蜜の吸ひ

花粉の好む

傳達 熟し

散布 密生

存上 密生

接合 呼吸

酸素の体内から

化合 一般生

密接の關係

一例の 春の花の間に蝶蜂などの集りて、花の蜜をすひ花粉をからだにつけて、花より花に飛びまふは蜂や蝶が植物より食物をとり、植物はそのために花粉を他の花に傳へて果實を結ばしむるなり。

動物の呼吸作用

動物は空氣中の酸素をすひ、その酸素は體內にて化合して炭酸(サニ)ガスとなり呼吸や皮膚(ヒ)により體外に出さる、この作用はしばらくの間もやむ時なく炭酸ガスの發生は實に大なり。炭酸ガスは炭火、動物物の腐敗等よりも起る、動物は炭酸を多く含める空氣中にては死す。

動物と植物との關係

物 燃焼 腐敗 消費 比例 平均 蕃殖 葉面 葉 緑体 分解 供給 細口の瓶

植物の同化作用

植物の葉面の氣孔(キコウ)によつて呼吸作用をいと植物の葉の裏に於いて、その葉よりすひたる炭酸ガスと根より吸ひたる水を合して、植物體を構成する原料の澱粉(デンプン)を作るものなり、これを同化作用といふ身體は同一の者に行はれ、綠色の部に限る呼吸作用は葉莖根等において晝夜ともに行はる。

關係

動物のはき出す炭酸ガスを消費する、途がなければ地球の表面の空氣は、炭酸ガスをふくむ量がますます地球の動物は、つひに死にたえるならん又植物は炭酸ガスを供給する途がなければ、つひに地球上の植物は枯(カ)るならん、これ動物と植物との間に行はるゝ微妙(ヒョウミ)のはたらきなり。

三、例

瓶の中の金魚を三四日も水をかへずしておけば死すべし若し青青とせし水草を入れれば割合に長く生きるなり。

第一學年……後

第二編

太古の洞穴 養殖の栽培 工夫の粗略 穀草の多量 開墾の改良 耕種の状態 漁獲の嗜好 占め

○國語科讀方 第一學年……後

大意 農業のおこりより進歩のありさま、日本と西洋とくらべし、その種類、改良の必要等を知らしめんとす。

一、農業の沿革  
起原 太古は人口も少く、人智も進まずして鳥獸魚貝、木の實をとり食物とし今日の如き、農業の必要なかりしが、その後天然(天)物不足となり植物をうえて衣食住の材料を供給する工夫(ウ)をなせり。

改良 田畑や山林の栽培などの法が粗略なるより、土地はもとより、收穫(ウ)は減ずるため、肥料や農具等を改良して今日の如く進歩するに至れり。

二、農業の國  
わが國氣候順にして土地肥えよく農業に適して「瑞穂國」の稱あり、米は食物の主なるものとなり農は國の本といはれ海外に輸出することも多きに至れり。

三、養蚕の製茶  
養蚕はわが國に早くより開けて輸出中の第一となり茶もまた盛に栽培せられ、貿易品の重きものとして國家を利すること實に大なり。

わが國の農業

位價格 牧草 飼料 原料 美田 固守 健全 馬匹 急務 長壽 四肢

○國語科讀方 第一學年……後

四、製産の額  
作付 米二百八十五万町歩 收穫 三千九百万石  
反別 麥百八十万町歩 收穫 千九百万石  
茶五万町歩 收穫 六百七十万貫  
明治三十九年

五、家畜の改良  
從來四面海にして、魚肉多く國民の食料にあまりありしと衣服は綿、繭にて毛織なかりしより、この風づから家畜(ウ)をかふことも開けざりし。

改良 近來肉食開けたるがために、原野海岸等に牛豚を、かひ、食料又は農用とし、軍馬の改良も行はれ、乳牛をやしなふことも大に行はるに至れり。

六、農業の勸奨  
わが國の農業はこれを西洋に比して未だ満足(ウ)すべからず、ますます土地をひらき方法を改良して盛大ならしめざるべからず、殊に農業は身體をすこやかにするものにして、いやしむべきにあらず、ワシントンも大統領をやめて後は農耕をなして樂みたりと。

二二

第三課 船津傳次平

**字解**  
 近世の老農 近世の老農は、性質勤儉にして忍耐の力に富めり。幼より父につき和漢(ワカ)の學をおさめ殊に數學に達したり。父の教を守り農具をとりて耕作に従事す。村民の請により大總代名主となり村を治むること親切にして村民の徳に服す内務卿大久保利通に知られ駒場農學校の農場監督となり全國の農事改良に任ず。後に農務省に入り農事試験所の技師となり、明治三十一年六月、六十六歳にて死せり。

○國語科讀方 第一學年……後

二三

大意：船津傳次平の農業改良の先導たりしことを知らしむ。

一、性行 略

天保三年上野國富士見村に生る、性質勤儉にして忍耐の力に富めり。幼より父につき和漢(ワカ)の學をおさめ殊に數學に達したり。父の教を守り農具をとりて耕作に従事す。村民の請により大總代名主となり村を治むること親切にして村民の徳に服す内務卿大久保利通に知られ駒場農學校の農場監督となり全國の農事改良に任ず。後に農務省に入り農事試験所の技師となり、明治三十一年六月、六十六歳にて死せり。

二、農事改良

昔は農事には學問は必要なきものと考へ、老農といはるるものも學理の力なく工夫(ウツ)の力とぼしかりしが傳次平は實驗と學理とによりて農業を改良し世人の目をさまし大功をあらはしたり。

第四課 人力車の發明

**字解**  
 輦臺 輦臺は、人力車の前身。輦は、乗るもの。臺は、のり。凌ぐ 凌ぐは、越す。武器 武器は、防具。馬具 馬具は、馬の具。機敏 機敏は、機敏。動搖 動搖は、動揺。乗る 乗るは、乗る。内側 内側は、内側。販賣 販賣は、販賣。交通機關 交通機關は、交通機關。名譽 名譽は、名譽。褒賞 褒賞は、褒賞。

○國語科讀方 第一學年……後

大意：人力車がわが國の人に發明せられしことを知らしむ。

一、發明

明治二年東京の人高山幸助、和泉要助、鈴木徳次郎によりて發明せらる。輦臺の上に柱を立て左右に簾をはり屋根を設け車をつけしものなり。後に内田勘左衛門が母衣(ボ)の工夫をなせり。

二、改良

明治二年に東京の人秋葉大助が西洋より馬車をかひ入れたるを手本として、改良せんとし、蹴込(キキ)をつくり、ハネを設け、内側に革などを張り、黒ぬりとする。ことをしたり、實に明治八年のことなりし。

三、流行

明治四年に大坂に支店を設け、盛んに賣れて大助車といはれ、明治八年ころよりはイギリス、フランス等にも輸出せり。

四、名譽

明治十年第一回内國勸業博覽會にて、賞牌(ハイヨウ)を得しをばじめとして多くの褒章を得たり。

二三



第五課 なば

遠征 革命 鋒先 領土 外の敗亡 強敵 尖塔 閣 狂火 惨状  
 エンゼイ かくメイ トウク ほんサキ リョウド がいノバイボツ けうてき せんとう かく くるわ ざんじョウ  
 遠征とほくにでかけて 革命黨のくをあらた 鋒先はくさのい 領土のちち意 外の敗亡は 強敵のつよ 尖塔のたが 閣のたが 狂火のいひのつよ 惨状はまのこをいよ

○國語科讀方 第一學年……後

大意 (なばれおんのかこりしこと、その全盛、ろしやの遠征、その大敗等の事から知らしめんとす。

出所 西曆千七百六十九年、日本の明和六年に地中海の

父は、ちやーるすばなばると(法律家) 母は勇氣に富める人。

少時 幼より戦争を好み遊ぶにも戦のまねをしたり。 十歳兵學校に入り五年にしてばりーに赴く。 數學はその長所たり。

壯時 ふらんすの革命黨に加はり砲隊副長となる。 二十歳えじふたりや出征軍の主將となる。

三十歳大統領となり千八百四年、推されて皇帝の位につく、時に年三十五。

いざりす、おーすととりや、ろしやの三國同盟し

おんのろしや遠征

延焼 退軍 和議 嚴寒 吹雪 勢の險易 凍死 追撃 餓死 聯合 紅炎 天を焦し  
 エンシヨウ たいぐん わぎ げんかん ぶせつ せいノケンイ とうじ ずいげき げうじ けんごう べんえん ぜんをせうし  
 延焼はつづける 退軍は 和議は 嚴寒は 吹雪は 勢の險易は 凍死は 追撃は 餓死は 聯合は 紅炎は 天を焦し

○國語科讀方 第一學年……後

ろしやの遠征

同盟 軍の 戦争 原因 最盛 時代 結果  
 どうめい ぐんノ せんそう げんいん さいせい じだい けいこ  
 てふらんすを攻めんとするや、二十万の兵士をひきあつて、これをやぶり一万五千人をころし二万人を捕虜(とら)とし大砲二百門をとる。  
 千八百十一年のころにして、北はおらんたより南はねーふるすまでその領土となる。  
 いざりすをくるしめんとし、諸國にいざりすとの交通を絶(た)たしめしに、ろしやはその同盟に加はりしも間もなくその約束をやぶりたり。  
 千八百十二年五月四十五万の大軍を以て、ろしやの都もすこーに入る、ろしやの軍火を市中にはなちてこれをくるしむ、ふらんす軍は家なく食なく大にくるしみ、つひにろしや軍におはれ十二万五千人は戦死し、十三万人はうえ死にせり。  
 なばれおん身を以てのがれ、帝位よりおとされえろば島に流さる。

第六課

字 解  
 直徑 たいしやう  
 速度 さいど  
 有ス あり  
 最高 さいこう  
 高温 こうおん  
 火球 たいしやう  
 反射 はんしゃ  
 観測 かんそく  
 火口 たいしやう  
 噴 げん  
 密接 みつせつ  
 自轉 じてん  
 公轉 こうてん

○國語科讀方 第一學年……後

大意……太陽、地球、月の大きさ、距離、その關係等を知らしむ。

一、太陽

體質 非常の高温度を有する、ガスにつつまれし火球にしてつよき熱と光とを地球にわたす、地球上の生物はこれによりて生育す。

直徑……二十五万里餘、地球の百九倍、月の四百倍。

地球との距離……平均三千八百万里（冬の方ちかく）差百三十万里

軌道……二億三千万里（夏の方遠し）一日……六十四万里

體質……もと太陽と一かたまりなりしが、水星火星等とおなじく太陽よりわかれしが、ガス體なり。

直徑……三千二百二十三里、東西は南北より少し長し。

赤道……一万二百里、自轉の速……度一時間……四百二十五里。

周囲……度一時間……四百二十五里。

體質……地球より更に分れしもの。

二、地球

直徑……八百八十六里。  
 地球との距離……九万七千八百里。  
 光……太陽より受けし光を反射す。

晝夜 地球は一日に一度自轉し、太陽にむかふところは晝となり太陽にそむくところは夜となる。

四季 地球が太陽の軌道を公轉するとき、北極の方が太陽に向ふときは北半球は暑くして夏となり、南半球は冬になる、春と秋とはその中間にむかふ時なり。

變化 地球は太陽の軌道を公轉するとき、北極の方が太陽に向ふときは北半球は暑くして夏となり、南半球は冬になる、春と秋とはその中間にむかふ時なり。

月の位置……月は二十七日七時にして地球の周囲をめぐり、地球の位置により新月と満月とをなす。

日蝕……太陽と月と地球が一直線をなすによりて生ず、讀本の圖にてわけはよくわかるべし。

潮……海水の月に對する部と、その反對は満潮となり中間は干潮となる月の引力によれり。

太陽と月

○國語科讀方 第一學年……後  
 垂直 ちゆうじき  
 新月 しんげつ  
 満月 まんげつ  
 普通 ぷつぽう  
 一直線 いちじくせん  
 反対 たいはん  
 日蝕 じじく  
 位置 ちゐ  
 満潮 まんしほ  
 干潮 かんしほ

○國語科讀方 第一學年……後

三、月

四、關係

直徑……八百八十六里。  
 地球との距離……九万七千八百里。  
 光……太陽より受けし光を反射す。

晝夜 地球は一日に一度自轉し、太陽にむかふところは晝となり太陽にそむくところは夜となる。

四季 地球が太陽の軌道を公轉するとき、北極の方が太陽に向ふときは北半球は暑くして夏となり、南半球は冬になる、春と秋とはその中間にむかふ時なり。

變化 地球は太陽の軌道を公轉するとき、北極の方が太陽に向ふときは北半球は暑くして夏となり、南半球は冬になる、春と秋とはその中間にむかふ時なり。

月の位置……月は二十七日七時にして地球の周囲をめぐり、地球の位置により新月と満月とをなす。

日蝕……太陽と月と地球が一直線をなすによりて生ず、讀本の圖にてわけはよくわかるべし。

潮……海水の月に對する部と、その反對は満潮となり中間は干潮となる月の引力によれり。

第七課

造見天良明微望  
 造見天良明微望  
 造見天良明微望  
 造見天良明微望

○國語科讀方 第一學年……後

大意

望遠鏡と顯微鏡との効用、その發明改良および人生に利益をあたふることを知らしむ。

構造

長き筒に幾枚かの凸形のれんずを組立てて作り、筒の中はどのねじにてのびちぢみせしむ。

効用

遠きところの物體を近く明かに見せしむ。千六百年の頃おらんだの人めちらす。

改良

千六百年いたりやの星學者、がりれおこれを改良す。

望遠鏡

見のれが  
發おり

太陽の表面に圓形の黒色あるは大なる孔(ク)にしてこれよりガスのふき出ること。月の表面に山あること。木星の衛星。銀河(ガ)の無數の星なること。

構造

すこぶる緻密(ツツミ)にして、凸形のれんずより成る、肉眼にてみとめがたきこまかなるものを、大

望遠鏡と顯微鏡

造見天良明微望  
 造見天良明微望  
 造見天良明微望  
 造見天良明微望

○國語科讀方 第一學年……後

大意

望遠鏡と顯微鏡との効用、その發明改良および人生に利益をあたふることを知らしむ。

構造

長き筒に幾枚かの凸形のれんずを組立てて作り、筒の中はどのねじにてのびちぢみせしむ。

効用

遠きところの物體を近く明かに見せしむ。千六百年の頃おらんだの人めちらす。

望遠鏡

見のれが  
發おり

太陽の表面に圓形の黒色あるは大なる孔(ク)にしてこれよりガスのふき出ること。月の表面に山あること。木星の衛星。銀河(ガ)の無數の星なること。

構造

すこぶる緻密(ツツミ)にして、凸形のれんずより成る、肉眼にてみとめがたきこまかなるものを、大

第八課 びらみご

字解  
面影(オモカゲ) 影(カゲ) 影(カゲ) 影(カゲ)  
こち(オチ) ち(オチ) ち(オチ) ち(オチ)  
と(オチ) ち(オチ) ち(オチ) ち(オチ)  
方錐形(ホウスイケイ) 錐(スイ) 形(ケイ)  
石(イシ) 錐(スイ) 形(ケイ)  
下の(カ) ひる(ヒル) ろ(ロ) の(ノ) 地(チ)  
み(ミ) い(イ) ら(ラ) の(ノ) 地(チ)

○國語科讀方 第一學年……後

大要……えじぶとのびらみごのことを知らしめんとす。

一、えじぶ(えじぶとは今より五千七百年前の建國、世界にて最と建國も古き國なり。

構造(花崗石(イシカク)又は煉瓦(レン)にてきづく世界七奇の一その數七十餘、三千二三百年前の築造なり。

二、びらみごの最大(高さ八十間一尺、基礎の一邊百二十七間二尺、四千餘年前のもの、十万人の工夫が三十餘年を費して成せしもの。

内部(内部に地下に設けし室あり、長さ七間四尺幅四間三尺高一間五尺、基礎よりななめに五十三間の下にあり、その他猶大小の室あり。

三、らみい(死人の腐敗(ワ)せずしてそのままに在るをいふ、その國の風俗として人死すればかばねに藥をぬり布につつり、地にうづめ年久しく乾き枯れたるものなりといへり、文字に木乃伊と書く。

第九課

(一) すさへゆんずんりりんすた  
おをくのどぐび

字解  
暗黒(アンクワ) 探検(タンケン) 隊商(タイショウ)  
毒草(ドクソウ) 貨物(カモノ) 疫病(イキヤウ)  
ひ(ヒ) なる(ナル) 會長(ケイヂョウ) 迂(ウ)  
廻(クハ) 心(シン) 勞(ロウ) 勇(ユウ) 勇(ユウ)  
白人(ハクジン) 勇(ユウ) 勇(ユウ)  
立ち(タチ) 立ち(タチ) 立ち(タチ) 立ち(タチ)  
だ(ダ) つ(ツ) だ(ダ) つ(ツ)  
な(ナ) が(ガ) い(イ) ら(ラ) の(ノ) 地(チ)  
礙(アイ) り(リ) 礙(アイ) り(リ)

○國語科讀方 第一學年……後

大意

一、あふりかの地勢五十年前には暗黒の大陸といはれたり。  
二、いざりすの人、地理學の博士。  
三、前後三回探検に従事せしが、第三回には更に音信なきより、世間にはりびんぐすとんは既に死せりとおもふに至れり。

出發(あめりかの、にゅーよるく新聞社よりたのまれてりびんぐすとんのゆくへをさがしに出たり。

さんじばる島……あふりかの東海岸にある市街。  
ばか(さんじばるの對岸にあり、あふりか内地をさぐるよも)にはこの地より内地に入るを常とす。  
準備……旅行には隊をつくりてわけ入らざるべからず。

第十課

(二) すたへゆんすんりんすた  
がをくのどぐびりた

字

馬 眼 家 國 齊 胃 承 困 貴 謝  
馬 眼 家 國 齊 胃 承 困 貴 謝  
馬 眼 家 國 齊 胃 承 困 貴 謝  
馬 眼 家 國 齊 胃 承 困 貴 謝

○國語科讀方

第一學年……後

三二

三、んすた  
のりた

搜索

途 困 難  
未開の地にしてしかも熱帯の地なれば困難と危  
険(キケン)はいふまでもなく毒蛇、猛獸(マウ)にあひ、流  
行病(キョウビョウ)にかかり、盗難(トウナン)にかかり、ために旅行もは  
かどらず、多くの日數を費せり。  
いかに湖(ミヅ)などむらがり樹木もしげりてよき景色なり。  
ゆく 山にのぼりて、あめりかの國旗をかかけ鎗砲を  
知る とうちのうじに居るをさがし得たり。  
二人 なたんりーはその持ち來る手紙などを見せ、そ  
の歸國をすすめしむ、りびんぐすとんは聞かず  
別 して種々なる報告をもたらし、すたんりー一人  
歸國(キョク)すたんりー國にかへり、いざりすの女皇より貴  
き紀念(キネン)物(モノ)をたまはりて賞せられたり。

第十課 熱帯植物

雨量 無数 幹枝  
直立 堅さ 殻  
液 達スル  
染料 變  
培養 變  
果肉 果  
實 甘  
香氣

○國語科讀方

第一學年……後

三三

大意：熱帯植物の種類その成長のさまなどを知らしめんとす。

- 一、熱帯 熱帯とは赤道の南北にして氣候極めてあつくその植物  
の種類の多く成長繁殖も盛にめぐらしきものも多し。  
二、榕樹 熱帯植物も珍奇なるもの、幹の高き所より根を生じて  
地中に入る大なる柱の如く小なるはひもの如し一本  
の木の下に一聯隊以上の兵士をたむるせしむべし。  
三、椰子 中には百尺の高さとなるあり熱帯地方最も多きもの。  
四、蔓植物 竹の如きものにて長さ五六百尺に達するものあり。  
五、甘蔗 日本のもより長大にして汁多く甘味(アマ)に富む。  
六、こーい 茶の如くにのむものはこの實にて製す。  
七、藍 日本産のものとはかはり大にして汁多し。  
八、あな 形は松の實に似たり大ささ六七寸以上あり鑑詰(カンジツ)と  
なす(なせる)パイナップルのことなり。  
九、ばな 芭蕉(ヨウ)の類にして澱粉(デンプン)に富み味よく食用に適す  
な 花は赤色にして蓮の如し。

第二十課

字解 市占めて都 繁榮 貴重 地方 當時 直接 希望 廻航 だて

○國語科讀方 第一學年……後

三四

大意 西曆千四百年代の終りにおける、ヨーロッパと東洋いんと

一、年四百年前 今より四百年前によろばには盛に海外貿易をいと

出所 千四百三十七年いたりや國せるかに生る。 三十七歳ばるとがるに轉住し、後に同國に歸化せ

(一) すぶんろご

見計らい 線含んで 紀行文 財寶 到る所 満ち 岸 誤唱 卓見 地理學 形状 知

○國語科讀方 第一學年……後

三五

歸化 あり、これ同國にりすばんに航海學校、天文臺など ありてその術に大に進歩せしかためなり。

不幸 功成 去ら 一錢のた 去ら 一錢のた

第三十課

字解 當時その耳を傾けるにふける空想かんがへふける あざけつて主張する 負債の補助 皇后の賢明 紹介の謁見 嘉され

○國語科讀方 第一學年……後

熱心に航路を開かんことを主張したりしが、誰も耳をかたむくものなく、ある教會の前に立ちすくひを請ひしに、教會長のために見出され、その添書をもつて、いすばにや王にひきあはせられたり、これこそんぶすの不幸が成功をひらきしいとぐちなり。

いすばにやのばるす港。 皇后いさべらは、有名の賢人にして、他の人人がころんぶすの説を、空想なりとして、非難す。時にいすばにやの國には、それ等の資本とてなかりしより、皇后はその身の、寶物などを以て、金に換へ、二艘の船をつくらしめ、ころんぶすをやるに決せられ、千四百九十二年四月、契約(ウヤ)をすはる、ころんぶすも、友人のたすけにて、別に一艘の船をつくり、いよいよ實行することとなれり。

こ ろ ん ぶ す (二)

支端 要するにゆう 辨にゆうをた 緒の地線 海原の水 夫の恐をいた 晝夜の物 彫刻のまにま

○國語科讀方 第一學年……後

千四百九十二年八月三日朝。 いすばにやのばるす港。 船員百二十人。 六日にしてあふりかのかなり島に達す、當時よりるばる人の往來はこの島に限りしなり。 かなり島にて舟のしゆふくなどし、いよいよ大なるのひるびるたる、大海にのり出せしに、風は順なり氣候はよし、いづれも勇氣みちみちて、前途をいそぐばかりなりしが、追追と山の影も見ぬこととなり、四方一点の目をさへぎるものなきに至りしより、水夫等も心ばそくなり、故郷を思ふ心の生せしを、ころんぶすはこれをなぐさめ到着地のことより、名譽のことなど説きかせ、猶おもき賞與を出すことを約束して、航海をつづけたり。

第四十課

字 解  
 緑色 リョクシヨク  
 狂せん キョウセン  
 無分別を謝し 無分別を謝し  
 領地 リョウヂ  
 宣言 ショウゲン  
 報告 ホウゴウ  
 歓迎 カンゲイ  
 喝采 カツサイ  
 特權 トクケン  
 與 アタ

○國語科讀方 第一學年……後

大陸發見始末

經過二  
 幾度か雲を見ては山かとあやまり、水蒸氣を見ては煙かとおもひ、流れ来る海草に陸地の近きかと勇みて進み、飛ぶ鳥を見て今にも大陸を見出すかとえざれば、水夫等は、大に失望し、このふ陸地も見ざむかれしとして、このふを海中に投げんとたぐひむものさへありたり。

經過三  
 このふは、いよいよ三日間に陸地を發見せざれば歸航すべきことを約し、その日數に志を達したる日根ごきせし海草や斧(オ)のある板などの流るるを見て一同元氣づきしが、三日目の晩に一つの火のかけを見れば、一同大に喜びし間もななく夜明けごろに先きの船より、銃砲をうちて、ここに始めて新大陸を見出したたり。

こ ろ ん ぶ す (三)

名譽 表彰  
 不幸 渡  
 新殖民地  
 基礎  
 派遺  
 使節  
 晩年  
 涙の歴史  
 數回

○國語科讀方 第一學年……後

第一回 第一  
 ころんぶすはその成功を謝しその島をサンカルハトルと名づけたり、これ西印度といふ島なり。

第二回 航海…千四百九十三年、ジャマイカ諸島發見。  
 第三回 航海…千四百九十八年、ころんぶす大にねたまる。  
 第四回 航海…千五百二年、破船(ハセ)して漸く本國にかへる。

晩年 家まづしく身老いてかへりみるものなさも猶航海をなさんことを口にせり。

其死…千五百六年、六十歳にて死せり。

遺言 その遺言により前年録のくさりにてしばられしさまにて棺の中におさめらうづめしめたり。

紀念 アメリカの名はイタリヤ人アメリカによりて傳へらるころんぶすはかく不運におはりしもその名はアメリカの新大陸と共に終にくちざるなり。



第十課

万雷 万雷 万雷 万雷 万雷 万雷 万雷 万雷 万雷 万雷  
 水煙 水煙 水煙 水煙 水煙 水煙 水煙 水煙 水煙 水煙  
 深淵 深淵 深淵 深淵 深淵 深淵 深淵 深淵 深淵 深淵  
 義壁 義壁 義壁 義壁 義壁 義壁 義壁 義壁 義壁 義壁  
 絶壁 絶壁 絶壁 絶壁 絶壁 絶壁 絶壁 絶壁 絶壁 絶壁  
 一躍 一躍 一躍 一躍 一躍 一躍 一躍 一躍 一躍 一躍  
 接せる 接せる 接せる 接せる 接せる 接せる 接せる 接せる 接せる 接せる  
 鑊瀑 鑊瀑 鑊瀑 鑊瀑 鑊瀑 鑊瀑 鑊瀑 鑊瀑 鑊瀑 鑊瀑  
 瀑布 瀑布 瀑布 瀑布 瀑布 瀑布 瀑布 瀑布 瀑布 瀑布  
 湖 湖 湖 湖 湖 湖 湖 湖 湖 湖  
 東北部 東北部 東北部 東北部 東北部 東北部 東北部 東北部 東北部 東北部  
 解 解 解 解 解 解 解 解 解 解

○國語科讀方 第一學年……後

大意：世界の奇觀たるナイヤガラ瀑布を知らしめんとす。

一、位置 北アメリカ合衆國の東北部、ナイヤガラ河にかかるといふ。

二、水源 スペリオル湖、エリー湖、ナイヤガラ河。

三、ナイヤガラ河 右アメリカ瀑 幅千六十呎、高百六十七呎、一名馬蹄瀑、左カナダ瀑 幅三千十呎、高百五十八呎、蹄鑊瀑。

四、水勢 ナイヤガラ河はオンタリオ湖にそそぎ長さ三十六哩にすぎず、河口と河源とは三百三十呎の差ありといへば、水勢のいかにけしきかを知るべし、その水量の多きこと實におとるべく一分間に千五百万立方呎にいたるといふ。

落ち下る水は万雷のひびくが如く、水けふりは空をお  
 ぼして白雲の如く、とばしりは四方に散り、日光は水  
 煙にうつりて虹(シ)をなし、實に天下の美觀といふべき  
 なり。

なやがら瀑布

映じ 映じ 映じ 映じ 映じ 映じ 映じ 映じ 映じ 映じ  
 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹 虹  
 美觀 美觀 美觀 美觀 美觀 美觀 美觀 美觀 美觀 美觀  
 限なし 限なし 限なし 限なし 限なし 限なし 限なし 限なし 限なし 限なし  
 周囲 周囲 周囲 周囲 周囲 周囲 周囲 周囲 周囲 周囲  
 利用 利用 利用 利用 利用 利用 利用 利用 利用 利用  
 運河 運河 運河 運河 運河 運河 運河 運河 運河 運河  
 穿ち 穿ち 穿ち 穿ち 穿ち 穿ち 穿ち 穿ち 穿ち 穿ち  
 遊覽 遊覽 遊覽 遊覽 遊覽 遊覽 遊覽 遊覽 遊覽 遊覽  
 大工事 大工事 大工事 大工事 大工事 大工事 大工事 大工事 大工事 大工事  
 装置 装置 装置 装置 装置 装置 装置 装置 装置 装置  
 導く 導く 導く 導く 導く 導く 導く 導く 導く 導く

○國語科讀方 第一學年……後

五、狀況

この瀑布の奇觀を賞せんがために年年ここに集り來るもの四十万人以上に達せりといふ。

六、觀賞

この瀑布の奇觀を賞せんがために年年ここに集り來るもの四十万人以上に達せりといふ。

七、水力

上の右岸に運河を通じ、ナイヤガラ町の地下に一マイルのトンネルをうがち、瀑の水力を利用して水車をし、力かけ、十五万馬力の水力をもつて各種の工業の機械動力となし、一大工業の地となさんとす、ナイヤガラ町はこの瀑布を觀る客のため成れり。

八、附説

あめりかは近むる工業の術大に進歩をなしたるに、その原動力たる水力電氣をおこし來りて各種の工業に用ふることゝなれり、その將來ますます盛なること見るべきなり。

第六十課

地震の原因、震源、震動のつよい、よはいとゆり方、地震が人生および財産におよぼす、災害等のことを知らしめんとす。

大意

一、昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。

二、地震の昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。

三、地震の昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。

四、地震の昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。

五、地震の昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。

六、地震の昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。

七、地震の昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。

○國語科讀方 第一學年……後

地震

地

空所 震源 震動のつよい、よはいとゆり方、地震が人生および財産におよぼす、災害等のことを知らしめんとす。

線 遠近 強弱

關スルモチ

地形

地質

強回 軟弱

低地 復

難トツセン

古來

破損 稱

セラ

○國語科讀方 第一學年……後

- 一、地震の昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。
- 二、地震の昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。
- 三、地震の昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。
- 四、地震の昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。
- 五、地震の昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。
- 六、地震の昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。
- 七、地震の昔の人は地震は大鯰(オビ)が地下にありて動くものと地震説(考)へ東京はその頭にあたるより最も甚しとなせり。

第七十課 第八十課

字

みるみるみるみる 倉庫  
 崩る。いくばく  
 泣き叫ぶ。老若 ことわり  
 なるかなる。め。さなきだに  
 さながら。炎。無  
 漸。余あり。死にざまり。万死  
 議のほか。

○國語科讀方

第一學年……後

四四

大意：安政二年江戸の大地震のありさまを知らしめんとす

一、地震

安政二年十月二日亥の刻（今の午後十時）地すべり地震、震源江戸（東京）死者およそ十万人。

二、一般の状況

江戸百万の人家、倉庫、神社、佛寺など一時にふるひうごき、その倒るる音のすさまじき、天落ち地さけるかとおもはれたり。震動中人家のくづれたはるるひびき、男女老幼のなきさけぶ聲と共に悲惨（ヒキ）なりしが、やや定まりて子をよぶ親の聲と親をもとむる子のなき聲とは、永くのこりて、そのかなしくわはれなることたとふるに物なし。

三、死傷者

梁（か）におさるるもの、柱にはさまるるもの、土中にうづまるもの、壁（か）にしかるるもの、うでを折り足をくじき、そのさまさまなるが中に不思議の

忘れられた

最中。護り。枕。邊。臥し。有る。まじきこと。あつてはらば危かりし。あまな。潰。れぬ。おもひ。か。す。身の毛のよだつ。潰れもし。たらんたらは。死し。たらんには。たらんには。誰が知るべき。母の愛。天災。

○國語科讀方

第一學年……後

四、火災

運にて命をひろひしものも、親兄弟に死別れ、夫をかへて死せる母、祝の席、悲の最中にこの災にあひしもの一として涙（なみ）の種ならざるはなし。

地震ややしづまれば火災おこり天をこがさんばかりにて、身うごきのならぬものが生きながら火にとりまかれくるしむそのさまを見ても助け出すべきようもなく、見る見る死するものも少なからず

五、母の愛

子をいだきてねたりし乳母（うば）はその大變ときくや否やうろたいて自分ばかり戸外に飛び出して、其の實母は末の子をいだき、他の子供をゆりおこして漸くにその難をのがれたり若し不幸にしてその家もつぶれしならば母も死すべかりしならんこの時母一人ならば命をもうしなふことあるべしこの可愛さにおのれの命をもうしなふことあるべし

四五

紙 手 第九十課

字 解 盲啞 發音 略 指頭 金屬製 點字盤 工合 常 聖代 恩澤 存せられ

○國語科讀方 第一學年……後

四六一

大意 盲啞はてもあはれなる不具者にして、これをすくふために

一、盲生 觸感 訓盲學を用ふ、一箇より六箇までの凸点を位置と

二、啞生 置等ににより、何の音なりといふことを知らしむ。

三、盲啞 昔は盲啞生は教育の途なしとせしも、今はこの教育法

この課は盲啞教育のことを聞かれ返事の體につづりしなり。

第十課

字 解 外交 通 振 現 通商 關稅 適用 對等 居留 處分 不完 全 外交官

○國語科讀方 第一學年……後

四七

大意 わが國古來の外交、現今の外交、外交の必要と利益、國民

一、外交の利…知識を交換し有無を通じ國勢の進歩をはかる。

二、古の外交…支那、朝鮮、應神天皇より天智天皇の時盛なり。

三、室町時代…自由に外國貿易を營み、外國人も盛に往來せり。

四、徳川時代…支那、朝鮮、オランダの外は入ることを許さず。

五、今の外交…浦賀に來りて交通を求めし以來國民のゆめさめて外交

六、條約…國と國との交際には條約をひすびて互に權利をおかさ

この條約には對等と不對等との二ありて、不對等はそ

外

交

○國語科讀方 第一學年……後

主權者

自

國代表

主要保護

危難

國民

親切

待遇

寬大

資格

舉動

「は不對等條約國なり。」

ア、シヤ……清國、韓國(保護國) シヤム國。

ヨ、オーストリア、ホンガリー、イタリヤ、

ロ、スエーデン、ノールランド、ベルギー、

パ、デンマルク、ギリシヤ、

イギリス(攻守同盟國)

ア、北米合衆國、メキシコ、ペリユー、

リ、ブラジル、アルゼンチン、コンゴ、

七、條約

八、外交

九、國民の心  
國民條約國民はわが權利をまげぬよう又まげられぬよう、  
國民の間丁寧親切(丁寧イ)にして信用をおもんに敬意を  
得しなはぬようにすべきなり。

大使、公使……一國の主權者を代表す。  
領事……貿易事務をつかさどり居留民を保護す。

高等  
小學

國語科書方表解

第一學年  
後期

# 書

## 一、用具

### イ、硯

硯石には、よしあしいろいろあれど、はじめよりよき硯石をえらぶにはおよばぬことなり、その形(チカ)もさまさまあれど平生手習(テナ)するには、幅(カ)二寸五分ばかり、長さ四寸より五寸ばかりあるをよしとす。

### ロ、墨

墨にもよしあしがあれば、よいものをつかふにこしたことはなけれど、つねにはほどほどのものにて、あまりにねばらぬものを用ふるをよしとす。

### ハ、筆

筆は大字と小字とにより、又楷書(カイ)と行書(ギョウ)とによりつてちがふこともあれば、心づけて用意すべし、筆のあまりあしきは、かへつて損(シ)となるものなり。

### ニ、扱ひ

硯はつねにあらひてきれいにすべし、墨をするには習ふ字の大小によつて、水をよいほどに入れ、海より岡に水をあけてすり、こくなりし墨汁(シ)は海へおくり、又水をあげてすべし、その間かならずわき見をせず、左の手の指先(ササ)にて硯の前の方をおさへて、そろそろとするべし墨はたびたび

# 方

## 二、姿勢

姿勢とは文字を書くときの身体(カラ)のようすかたなり、先づ体の上方をすこし前にかたむけ、下腹に力を入れ、腰(コ)かくるときは腰を十分に腰かけにかけて足をまつすべし。

両方の肩(カ)をなるべくし、右の臂(ヒ)にて机の上をおさめることなかるべし、左の手は机の上におくとも、力を入れず、又臂には左右とも力を入れすぎることなかるべし。

目は机の上にかよらしむべからず、大てい机と目との間を一尺二寸はなすべし。腹を机につけるものあれど、これはよく氣をつけてやめねばならぬことなり、又女の子は頭(カ)をかたむくるくせのあるものなれば、よく氣をつくべし。

きをかへてするをよしとす、あまりこくなりすぎては、書(カ)にくさむのなれば、よく加減すべし。筆はつかひおはらば、すぐにあらふか、又はよくふきて穂先(ホサ)のみだれぬようになしおくべし。

# 書

## 三、筆の持ちかた

イ、**單鈎** タンコウ をやゆびと、ひとさしゆびにて筆をもち、あとの三本のゆびを筆の内がはにかくるなり、この法は筆に力の十分に入らぬものなれば、多く小き字を書くときはもちゆ。

ロ、**双鈎** ソウコウ をやゆびと、ひとさしゆびと、中ゆびとの二本にて筆をもち、あとの二本のゆびを筆の内がはにかくるなり、この法は筆に力の入るものなれば、大字をならふにもちゆ。

## 四、字体

イ、**楷書** カインショ 楷書とは**礼服** レイフク をきたと同じく、むやみに足をのばしたりねころんだり、横になつたりすることなく、四角ばつておるやうに、**一點** イチテン **一畫** イチカク も正しくせざるべからず。

ロ、**行書** ギョウショ 行書とは楷書の少しく略式 リョクシキ なるものにて、たとへば**羽織** ウヰ のきながしで、**袴** ハカマ もはかぬと同じく、何となく手がかるく見ゆるものなり、されば**行儀** ギギ はくつすべからず。草書とは前の二つとちがひ、時としては横にはふこともありねころぶこともあるといふが如く、すべてを略式にすることとなり、されど行儀をみだして字体をうしなふべからず。

## ハ、草書

# 方

## 五、字の書方

イ、**大字** 大字を書くには、**双鈎法** によるべし、右の手はどこも机につけず、**指先** ササキ に力を入れて書くべし、筆はまつすぐにもつをよしとす。

ロ、**小字** 小字を書くには、**單鈎法** によりて、左の手を右の手首 テウ の下におき、これを**枕** マク として書くべし、字も早く書くことを得るものとす。

## 六、字形

文字の形に氣をつくべし、文字の形とはその字のくみだてかたにして長し、短 ミジカ し、大なり、小なり、廣し、狭 セ し、畫 カク の多き少きはあまりひろがらぬやうに、かつこうをよく書かんことを要す。

## 七、字配

文字のくばりも大せつなることなり、一字一字見れば配も入らぬやうなものなれば、**美術** ビョウブツ の一つなれば、まがつたりしては見ぐるしきことなり。

## 八、筆勢

文字は早く書くばかりをよしとはせず、よく**丁寧** テイネイ に書いてその間に筆勢があり美しくあるをよしとす、勢なくては死せる字となる。

書

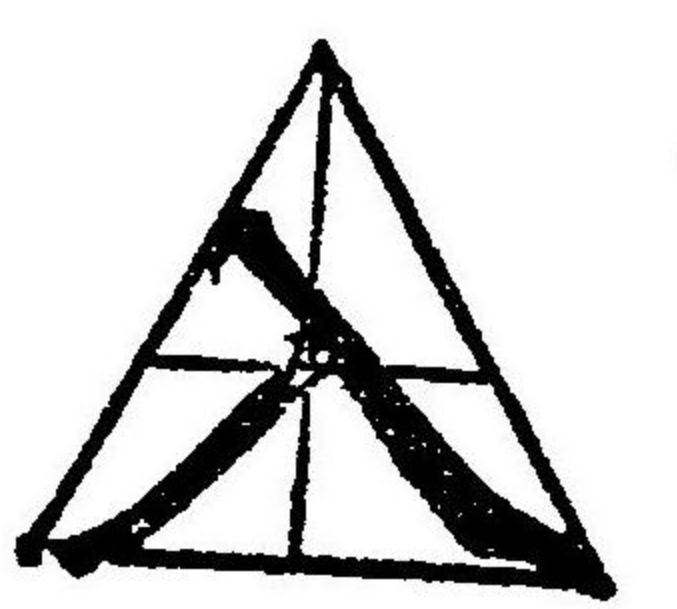
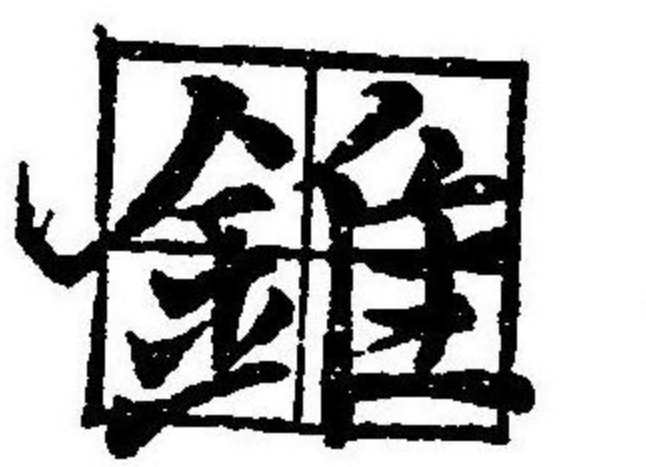
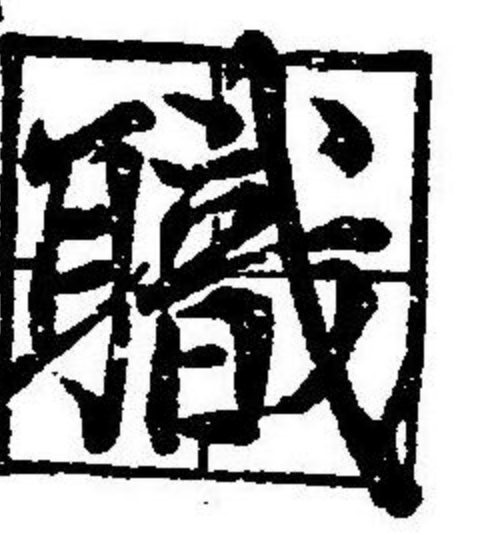
九、  
ひりの文  
あつ字

○國語科書方 第一學年……後

文字を書くには長さ字にても、廣さ字にても、四角形の字にても、三角形の字にても、すわりをよよく書かねばならぬことなり、も、その字がたをれんとするがごときことありてはならぬことにて、つまりつりあひをよよく書くことなり、その一例(例)をしめさんとせば

龍とせいふ 龍とせいふ 龍とせいふ

あることを知らるべし、畫(カ)の多き字や、長さ字や、へんの畫が多くてつくりの畫が少なく、又はへんが長くて、つくりの短きものなど、その字、その字によつて、一方が長ければ一方はひろくするといふようにつりあひをとらざるべからず次に二三の例を示しおくべし。



方

十、  
たの文  
組字

○國語科書方 第一學年……後

イ、  
横畫

よこの畫のかさなりし文字は、その畫と畫との間を同じようにするに氣をつくべし。

費。量。墨。皇。貴。富。屋。胃。壽。

ロ、  
縦線

まんなかのたてのすじをもととして書く字は、そのまんなかの心(心)をうしなはぬように氣をつくべし。

業。出。氣。筆。采。幸。庫。事。手。

ハ、  
左上下  
右及び  
波筆

上下左右のつりあひをとるものは、一方がちさきとき一方から力をそへる、上がおもいときは下はたかるといふようにし、また波筆(カ)としてノ(カ)のどとき字や、勾(カ)としてはねることのある字などは、ことに氣をつくべし。

味。裁。基。譽。聳。考。崩。起。檢。

その他は、手本によつてよく注意(カ)すべし。



十 運筆順序

運筆とは筆のはこびかたで、字を書くにもそのはこび方の順序がらなるもの、見ぐるしいものなれば、本學年後期の書方手本の中にて、おもなるもの、まちがひやすきもの一二三つをしめすべし。

○國語科書方 第一學年……後

區一品し。發ツベら又。  
啞ーローヨクコー。極ーオースし。  
密ーハシシノ山。

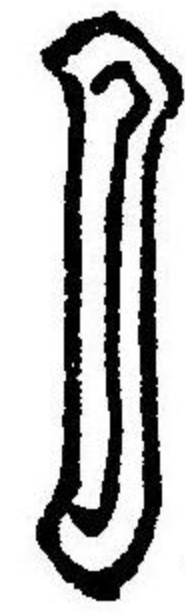
二十 實習

筆のつけかた、筆のとめかた、勢(イキ)のあるなしにかかる大切のことなれば、次の字の中にあるすじによりて、その意をとるとるべし。

畫カ横



線キ縦



筆波



勾大



高等  
小學

國語科綴方表解

第一學年  
後期

(目題)  
動物と植物との  
關係

法作

春に蜂や蝶が花の中に遊び、秋に鳥が木の實をついばむことについで動物と植物との關係はいかなるものかを、讀本にて習へしことがらに文語體に綴るべし。

用 語

美しき蝶や○  
蜂○ 飛び遊ぶふはひ  
蜜○ 花粉  
他の花の植物  
木の實○ 熟  
するやみのるや  
種子 地上○ 虫  
生活 草木  
動物

例 文

春の花の美しき中を、蝶や蜂やの飛び遊ぶは花の中の蜜をすふがためなれども、その間に花粉を其体につけて他の花の雌しべにおくるなり、植物はやがて實を結ぶことを得るなり、秋に至りて木の實の熟するや鳥の來りて、これをついばむは、ただその甘き實を食ふのみにあらずしてそのかたき種子を地上に落すより、やがて種子はそのところより芽を出し、漸く長じて又花を開くに至るなり、鳥や虫は花の蜜を吸ひ實を食ふて生活し、草木はこれが爲めに實を結び種子を散布す、その動物と植物との關係の密なるや知るべきなり。

(目題)  
暴風雨の  
見舞の  
状

法作

手紙の文體にて暴風雨の見舞をうけし礼の口上、その風雨の様子、被害のありさま、無事なりしたため安心せよといふことを敬語をつかつて綴るべし。

用 語

暴風雨 連  
日○ 交通相絶え  
欣喜  
當地は水害○  
甚だしく流  
失 勿論もなく  
家屋 異状  
無事なく

例 文

貴書拜見仕候、連日の暴風雨に諸川出水交通も相絶え候ところ、貴家何等の御變りもなく候由欣喜の至りに候、御承知の如く當地は大川にはさまれしところにて水害も甚だしく、流失の家屋も少なからず、死傷者さへこれあり勿論田畑の作物等はのこりなく流失致し、實にあはれることに候、しかし拙家は少し高所にあるだけに家屋には異状これなく、一同無事にまかりあり候間、憚りながら御休神下さるべく候、先は取りあへず御禮のみ申上候拜具。

(四) 日本農業

法作

わが國の一名はひかし何といひしか、米穀の美なる所以、米と生糸、牧畜業の盛なるわけなどを書き、今より後はいかにせば可なるべきや、その思ふところを話語體にて書け。

用 語

ひかしから瑞穂の國。米穀はこつておる。養蚕。生絲。牧畜。肉。た。だ。ま。す。ま。す。進歩はかる。

例 文

わが國はひかしから、瑞穂の國といつて米穀の美なることをはこつた。くのであつた、その地味は肥え、氣候は順にあつて農業に適するからである。米は年々四千万石もでき、養蚕も盛んになつて、生絲の産出も毎年七千万圓におよぶといふことである。たは牧畜の業は西洋各國に比べては大におとつて居る、これは我國では毛織物を用ひぬのと肉食すること、少かつたからであらう、これからは大に牧畜も盛んして農業と共にますます、進歩せんことをはからねばならぬことである。

(三) 正直

法作

修身科にて習ひし正直といふことについて、その缺くべからざるわけ、虚言をいふことよからぬわけ、正直は一生の寶といふことについて文語體に綴るべし。

用 語

人トシテ。缺クベカラザル。虚言。誇ラン。至ルベシ。記憶。

例 文

人トシテ缺クベカラザルモノハ正直ナリ、苟クモ正直ナラザルトキハ他人ノ信用ヲ得ルコトアタハズ、シタガツテ身ヲ立テ家ヲ興スコト得ザルベシ、人ノ虚言チイフヲ見ルニ或ハアザムカレテ人ノアハチ騒グヲ笑ハントスルアリ、或ハ人ノ怒ヲ恐レテ言逃レントスルアリ、或ハ己ノ利益ヲムサボランガタメニスルアリ、此ノ如キハ終ニ人ニ悪マレテ捨テラルルニ至ルベシ、正直ハ一生ノ寶ナリト云フ、ヨク記憶シテコノ寶ヲ失ハザランコトヲ心ガクベシ。

(目題) 人力車

交通の機關は西洋の發明なるが、人力車だけはわが國の發明なること、その發明のありさま、流行せし様子など、讀本にて習ひしことによりて文語體に綴るべし。

用法 現今はるる汽車電氣車自働車汽船等の交通機關はすべて、西洋の發明を舶來せしものなるが、ただ人力車のみはわが國の發明にして、明治の初年高山幸助、泉要助、鈴木徳次郎がはじめて製造したるものなり、その當時は輦臺の上にて四本の柱を立て左右と後とに簾を下げ、蓋を設けて車をつけたるものなりしが、その後東京の人秋葉大助の工夫により、種種の改良を加へて今日の如きものとなり、如何なる山間にてもほとんどこれを見ざる所なきに至り、ただ國內のみならず東洋の大都會、開港場などには盛にこれを用ひることとなれり。

用語 今行はるる汽車電氣車自働車汽船等の交通機關はすべて、西洋の發明を舶來せしものなるが、ただ人力車のみはわが國の發明にして、明治の初年高山幸助、泉要助、鈴木徳次郎がはじめて製造したるものなり、その當時は輦臺の上にて四本の柱を立て左右と後とに簾を下げ、蓋を設けて車をつけたるものなりしが、その後東京の人秋葉大助の工夫により、種種の改良を加へて今日の如きものとなり、如何なる山間にてもほとんどこれを見ざる所なきに至り、ただ國內のみならず東洋の大都會、開港場などには盛にこれを用ひることとなれり。

例文 現今行はるる汽車電氣車自働車汽船等の交通機關はすべて、西洋の發明を舶來せしものなるが、ただ人力車のみはわが國の發明にして、明治の初年高山幸助、泉要助、鈴木徳次郎がはじめて製造したるものなり、その當時は輦臺の上にて四本の柱を立て左右と後とに簾を下げ、蓋を設けて車をつけたるものなりしが、その後東京の人秋葉大助の工夫により、種種の改良を加へて今日の如きものとなり、如何なる山間にてもほとんどこれを見ざる所なきに至り、ただ國內のみならず東洋の大都會、開港場などには盛にこれを用ひることとなれり。

(目題) 奈良朝 美術工藝

奈良朝で美術工藝の進歩せしわけ、今にのこつて名高きもの、その外に進歩せしもの、正倉院の御物のことなど、歴史科にて聞きしあらましを話語體にて短かく書けよ。

用法 奈良朝で美術工藝の進歩せしわけ、今にのこつて名高きもの、その外に進歩せしもの、正倉院の御物のことなど、歴史科にて聞きしあらましを話語體にて短かく書けよ。

用語 奈良朝で美術工藝の進歩せしわけ、今にのこつて名高きもの、その外に進歩せしもの、正倉院の御物のことなど、歴史科にて聞きしあらましを話語體にて短かく書けよ。

例文 奈良朝で美術工藝の進歩せしわけ、今にのこつて名高きもの、その外に進歩せしもの、正倉院の御物のことなど、歴史科にて聞きしあらましを話語體にて短かく書けよ。

作「冷氣になりし時候のあいさつ、某の私立學校に薄記と英語との缺け居ること、轉校せんと思ふこと、それには然るべき學校はなきや」と

(四) 私立學校の尋ねる文

○國語科綴方 第一學年……後

「尋ねる意味を手紙の文體につづるべし。」

六四

用 語

秋冷相催し候處、彌御多祥欣喜の事に候  
 拜啓候に如く、今春以來某の商業學校に通  
 學致し候へども、肝心の目的とする簿記英語の  
 二科が當時教員の都合により、休課に相成居何  
 日ごろより始まるも未だ見込もこれなく、失  
 望仕候、就ては望ましからぬことに候へども何  
 れにか轉校仕度と存じ候、尊兄にはその邊の消  
 息はよく御承知に候へば、然るべき學校及び入  
 學の手續などを御示教を煩し度、勝手ながら書  
 中を以て相伺ひ候、都合によりては専門の夜學  
 校にてもよろしくと存じ候、右御尋ねまで早  
 以てお返すべく候

例 文

拜啓候に如く、今春以來某の商業學校に通  
 學致し候へども、肝心の目的とする簿記英語の  
 二科が當時教員の都合により、休課に相成居何  
 日ごろより始まるも未だ見込もこれなく、失  
 望仕候、就ては望ましからぬことに候へども何  
 れにか轉校仕度と存じ候、尊兄にはその邊の消  
 息はよく御承知に候へば、然るべき學校及び入  
 學の手續などを御示教を煩し度、勝手ながら書  
 中を以て相伺ひ候、都合によりては専門の夜學  
 校にてもよろしくと存じ候、右御尋ねまで早  
 以てお返すべく候

「前の書面を受けたる返事の挨拶(オビ)、問合せのことからを承知した  
 といふこと、自分の知つて居ることについての文句をならべよ。」

(四) 返 事

用 語

花墨拜見致候命の如く、冷氣日に加はり候へど  
 も御壯健にて御勉強の由大慶に存候、さて目下  
 御通學の某校は体課これあり、御轉校なされ度  
 につき御尋ねの趣承知仕候、小生の知る所にて  
 は商業としての學校は某某の二校と存じ候、同  
 校は別に入學の手續とて、むつかしき事はこれ  
 なくと存じ候、猶夜學校と二三承知は致し候へ  
 ども御通學遠隔にて却て不都合と存じ候、某校  
 と御定めにも相成り候はば、知人も御座候間何  
 時にも御紹介申すべく候、先は御回答まで餘  
 は拜眉に譲り候拜具。

例 文

花墨拜見致候命の如く、冷氣日に加はり候へど  
 も御壯健にて御勉強の由大慶に存候、さて目下  
 御通學の某校は体課これあり、御轉校なされ度  
 につき御尋ねの趣承知仕候、小生の知る所にて  
 は商業としての學校は某某の二校と存じ候、同  
 校は別に入學の手續とて、むつかしき事はこれ  
 なくと存じ候、猶夜學校と二三承知は致し候へ  
 ども御通學遠隔にて却て不都合と存じ候、某校  
 と御定めにも相成り候はば、知人も御座候間何  
 時にも御紹介申すべく候、先は御回答まで餘  
 は拜眉に譲り候拜具。

法 作

讀本にありしナポレオンのことについて、その性質、ロシヤにて大  
 敗(ハイ)せし時の有様、ワテラルローの戦につき、なるべく短うてわ  
 かるように綴れ(文語體)

○國語科綴方 第一學年……後

六五

(目題) ナボレの傳

用 語

將となりたいしよ征  
し皇帝てん諸國  
のくに遠征するに  
あたりて  
大に敗れ  
大に敗れ  
大に敗れ

例 文

千七百二十九年にユルシカ島に生る、二十七歳にして革命黨の將となり、イタリヤ及びエツプトを征し、三十歳にして大統領となり、三十五歳にして皇帝となる、諸國を征服しロシアを遠征するにあたりて、大に敗れエルハ島に流されしが、再び立つて皇帝の位につけり千八百十五年にワートルローの大戦に敗れて、セントヘレナ島に流され年五十三にして死せり。

(目題) 慈 善

法 作

人としては慈善心の必要なること、世にあはれむべき人はいかなるものか、その人に對してつとむべき道はいかんとわが國のそれに對する設備は如何と、修身科にて習ひしことをつづれ。

慈善ノ心ハナカルベカラズ

人トシテハ慈善ノ心ナカルベカラズ、何トナレハ世ニハ生レナガラニシテ不具ナル者アリ、病氣又ハ災厄ノ爲ニ、不幸ニ陥ルモノ等少ナカラ

用 語

なぐてはユレニ對シ  
テこれらのも救助ス  
ベキハたすは人  
ルモノノひとの云  
フベカラズ  
發達

例 文

ザレハナリ、之等ノ人人ハモトヨリアハレムベキモノナレハコレニ對シテ、應分ノ力ヲ盡シユレナ救助スベキハ人タルモノノ務ナリトス、近年我國ニハ孤兒院、慈善病院、貧民學校、感化院等ノ設ケ漸ク盛ニナリタリト雖モ、未ダ以テ十分ナリト云フベカラズ、吾等ハマスマスコレ等ノ事業ヲ、發達セシメンコトヲ期セザルベカラザルナリ。

法 作

秋季の庭球(スチ)會を催すこと、その日は何日にすること、例年より盛なるべきこと、君も飛入りに平生の腕(ウデ)を見せよといふ意味を手紙の文體にて綴れ。

(目題) 庭球會  
に案内  
する文

嘉辰  
例年

拜啓來る十一月三日  
天長節の嘉辰をトシ、當校において秋季庭球大會これあり候本年は例年とは違ひ、他區の學校

語用

よりも來會の筈  
かかねて  
評判の高き  
御來車  
平素

例文

よりも來會の筈にて、一同殊の外勇み居候、客員の競争としてはかねて評判の高き、京都の某校選手と、當地の某校選手との決勝もこれあり候間、御縁合せの上御來車下さ度待ち上げ候、飛入り競争に御加はりなされ、平素の手腕を御ふるひなされ候も然るべくと存じ候、先は御案内まで此の如くに候拜具。

法作

太陽とはいかななるものか、その光と熱とは地球に如何なる關係ありや、月は如何なるものにしてその光は如何など及び地球との關係を讀本にて習ひしことによりて綴るべし。

(問題) 太陽及地球と地

高温度の火球  
生物の蕃息  
反射す  
同じ

太陽は高温度を有する火球にして、強き光と熱とを地球に送り、地球上の生物はこの光と熱とをうけて蕃息するものなり、月は太陽より受けたる光を地球に反射す、其大さは太陽と同じ

語用

見ゆれども  
比し  
關係  
活す

例文

さが如く見ゆれども、その月は地球に近きかためにして、大さは太陽と比し四百三十六分の一といふ、太陽と月とは地球と密接なる關係を有するものにして、吾人が生活するを得るもの全くその力によるといふべきなり。

法作

修身科にて教へられし、朝起のことについて、衛生のためなり、又家をおこすの基なることを、あまり長くならぬやうに、數字を入れ文語體に綴るべし。

(問題) 朝起

語用

朝早く起  
心身  
衛生上  
故に得べし  
即ち

例文

朝早く起き出ることとは、心身の衛生上によるしさのみならず、時間についても大なる利益あり毎朝五時に起きる人は、七時に起きる人よりも日に二時間の利あり、故に一年中には七百三十時を得べし、これを五十箇年につもれば、三万六千五百時にして、即ち四年二ヶ月と二十時間

(目題) かるた 招文

法作 冬期の休みも残りも少なくなつたから、今日何時から御越しくださいといふことを話語體に綴りなさい。

楽しい 冬期 過ぎました

休業 過ぎました

面白く 察し

今晩の 午後

是非 御出でを待ちます、右

例文

利することを得るなり、この長さ年月にはずいぶん大なる事業をも成し得ることを思へば、古の人が「早起は家を起すもと成なり」といひしも、實に宜なることといふべし。

樂しい冬期休業も、もはやなかばを過ぎましたが、あなた様には、日日面白くおくらしなされることと御察し申してゐます、さて今晩私方にてかるた會を催したいと存じます、冬子さま、雪子さま、春子さまなどもお越しになるはずですから、あなた様にも、どうぞ御繰合になりまして午後五時頃より、是非御出でを待ちます、右

(目題) 徳川 宗川

法作 徳川吉宗のことは歴史にてすでに習ひたれば、次の事項にかかげたることが入れ、次の用語の文字により、その概略を文語體に綴るべし。

家康 曾孫

賢明 政治

改革 實用

虚礼 儉

柔弱

租税 貨幣

鑄造 物産

増加

事項

徳川吉宗は家康の曾孫で、紀伊より入りて將軍職をついだ人なること。

賢明にして政治の才に長じ、改革を行つて天下の大いに治まりしこと。

その政治は實用を主として、虚礼をさけたること、儉約をつとめおごりをいましめしこと。

武事をあげまし柔弱の風をあらためしこと。

租税の取立方を改めしこと。

あしき貨幣を鑄なほして、財政をととのへしことと産業をおこし物産を増加せしこと。

案内。

御案内かたがた、あらあら。



(目) 死去を知らす

作(祖母の病氣でありしに、養生がかなはずして死せしことを知らす手紙を話語體にてつづれ。

語用

祖母は病氣の養生  
生○死○死亡の葬式  
明後日

例文

祖母ことかねて病氣のところ、養生相かなはず本日午後一時に死亡いたしました、このだん取りあへず御知らせ申します、葬式は明後日午後二時に本願寺でいとなみます。

法作

死去の知らせを聞いて驚きしこと、見舞とくやみとの言葉、香料をおくること、葬式までには参上することを手紙の文にて作れ。

(目) 悔の文

語用

御病中○療養  
甲斐○死去の驚  
惣傷の靈

例文

拜啓御祖母様には御病中のところ、御療養の甲斐もなく御死去なされ候段驚き入り候、御一同様御愁傷の御事と察し申候、御香料一封、御霊前へ御供へ下さるべく候、御葬式までには参上御悔み申上ぐべく候以上。

高等 第一學年  
小學 後 期  
日本歴史科表解

字解

紊乱アンラン 興起コウキ 擅權センケン 管絃クワンケン 耽りタンリ 在朝サイチウ 干渉カンセツ 私利シリ 修シュ 腐敗フバイ 謳歌オウカ 蜂起ホウキ 徴力テイリキ 援エン

○日本歴史科 第一學年……後

要旨

藤原氏の勢極まり朝政紊乱し武士起りて地方の騷擾にいたるさまを知らしめんとす。

一、朝政紊亂

イ、莊園 班田授受の法破る…開墾田、功田、賜田。賦税調庸を免る…權有家の土地併有。奸民(カニ)さふそて權政家による。

ロ、朝臣 邸宅を華美にし衣服におごれり。榮華 詩歌、管絃の遊をなし集りて酒宴にふける。

ハ、延喜の治…醍醐帝政治をばげまざる。

二、武士の起

莊園の増加、流浪民増加す、盜賊横行す。政府の百官は武力なし。地方の豪族黨與を集め國司を世襲して勢力を得…武士 藤原氏に不平なるものは地方に下るもの多し。

三、統御

平氏…桓武天皇—萬原親王—高望—平氏。源氏…清和天皇—貞純親王—經基—源氏。

四、平氏東國にはびこる…國香、良兼、良持、良茂。

起興の士武と乱紊の政朝

爪牙ソウガ 土着ドチヤク 蔓延マンエン 偽キ 宮ミヤ 掠めカス 追討ツイトウ 顯アラ 據りカサ 鎮定チンテイ 來寇ライカウ 擊退キキタイ 後後ノチノチ 種ソユ

○日本歴史科 第一學年……後

五、天慶の亂

イ、將門の反 檢非違使を求む、忠平許さず、國香を攻む、興世王とむす、猿島の偽宮。藤原忠文征東大將軍としてこれをほろぼす。これより先き貞盛と秀卿とこれを滅す。

ロ、純友の反 南海諸國に盜起る、純友伊豫椽となりこれを討つ、將門に應ず、山陽四國を荒す。小野好古、源經基これを平ぐ。

六、源氏の現る

滿仲…鎮守府將軍となる、源氏の實力鬚切(ヒゲ)藤丸。賴光…五朝に任ふ、大江山の賊を退治(タイ)す。賴信…平忠常を征す、鎮守府將軍。賴義…父と共に忠常を征す—前九年の役。義家…父と共に安倍氏を討つ—前九年、後三年。東國の武士源氏の恩に感ず。

七、刀伊の賊

韓土の北方の種族、後一條の朝に九州沿岸をおかす。藤原隆家等力をつくしてしりぞく。

第二十

字解 日本歴史科 第一學年...後 七六

要旨 平安朝には天下の政治がみだれしも、文物は進歩して、藤原時代のいふ一つの時代のあこりしごと、國文學の發達、和歌の隆盛、漢文學の衰退および建築、繪畫、彫刻のさか

一、藤原時代 藤原氏が威權をほしひままにして、天下の政治は大にみだれしも、文學技藝はよほど進歩して、後世よりは藤原時代といはるる一つの時代が出来たり。

イ、奈良以前 漢文學が傳はりてよりは文學が開けたれども文章は漢文のみにして男子の間に行はれしが奈良朝のころより漢字にて國語をあらはすと、だんだんと多くなれり。

ロ、國文文字 漢字の草體、もししくは、ヘン、ツクリより考へ出せし平假名及び片假名漸く行はれ、國語を記すことも容易となりて、當時これを女文字といへり。

平安朝の文物

立 節 停 止 派 遣 優 劣 督 察 公 卿 緩 急 存 在 邸 宅 壯 麗 華 華 佛 師 彫 刻

一、國學

發達 才女 紫式部...源氏物語をあらはす。清少納言...枕草子をあらはす。

二、建築

藤原道長、法成寺を造りしが東大寺におとらぬ大工事を起し、たとひ公事を緩うすとも此役には怠ることなかれと命せし程なり。

四、彫刻

巨勢金岡...紫宸殿の障子に支那名臣の像を畫く。藤原道長の爲に法成寺の佛像を造る。運慶、湛慶...佛像彫刻によし。

○日本歴史科 第一學年...後

第十 三

○日本歴史科 第一學年……後

**字解**  
 失權 シツケン 権を失ふこと  
 院政 インセイ 院に於ての政治  
 大抵 ダイテイ 大體  
 形勢 ケイセイ 形勢  
 遺詔 イジ 遺詔  
 東宮 トウグウ 東宮  
 英明 エイメイ 英明  
 弊害 ヘイガイ 弊害  
 調査 チヤウサ 調査  
 崩御 ホウゴ 崩御  
 親裁 シンサイ 親裁  
 剃髮 シツパツ 剃髮  
 土木 ドム 土木  
 乏 トホ 乏

要旨  
 後三條天皇、藤原氏の權をおさへて政をみづからせんとし、たまひしこと、白河天皇が後三條天皇の御志をつぎて院内に政をとらせたまふことを知らしむ。

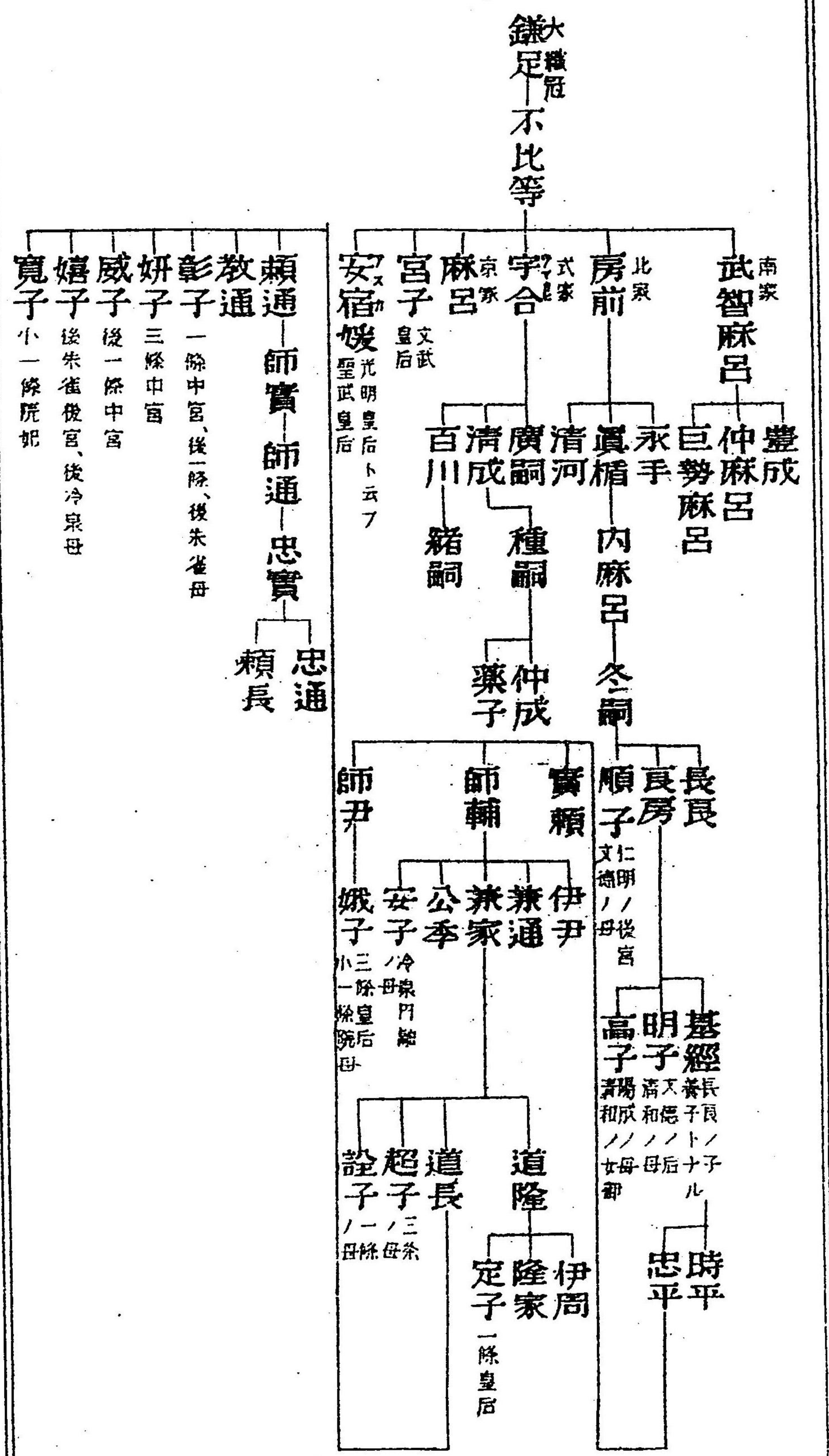
一、御統系  
 村上天皇  
 兼家超子  
 圓融天皇  
 兼家超子  
 三條天皇  
 道長妍子  
 禊子内親王  
 後三條天皇

二、後三條天皇  
 直接に藤原氏に縁なし。  
 御素志：藤原氏をおさへ皇威を回復せんとしたまふ。

三、後三條天皇  
 御親政  
 記録所：御親裁の役所。  
 勤儉をすすめ奢侈を禁じたまふ。  
 國司の再任をやむ。  
 莊園をやめたまふ。

藤原氏は權力を失ひ、關白は名のみとなる。

藤原氏系譜



藤原氏の失権と政院僧兵

しくなく崇敬ソウケイを取トル、  
 僧侶ソウリョの取トル、  
 縮シユムの嚴重ゲンジュウ、  
 無頼ムライの練習レンシユ、  
 著シヨクし、  
 殆ホトクど、  
 強訴ガウソ、  
 横暴ワウボウ、  
 六ロクの采サイ、  
 師シの嘆息タンソク、  
 恣シの原因ゲンイン、  
 掌握カウザク

日本歴史科 第一學年……後

四、白河天皇

御即位：後三條天皇の長子、十二歳にして即位。

御親政：万機をみづからしたまひ、藤原氏權を失ふ。

二十五歳、位を堀河天皇に譲りたまふ。

長官一別當。

院政の始 役所：院司 役人：判官代、主典代、堀河、鳥羽、崇徳三代の間。

奢侈 多く寺院を建てらる、國庫とぼし。行幸多く、官を賣るの弊おこる。

信佛 髪をそり法皇と稱す、佛像をつくる。殺住(ヤクジュ)を禁じ、漁網(モウ)をやく。

僧兵 延曆寺、園城寺(オンジ)の僧亂暴す。寺領の田園増加し、無頼の徒あつまる。

兵權 源氏：東國に勢力あり 平氏：西國に勢力あり 共に京都守護。



源平二氏の盛衰

横ワウ寵ウツ臣シ顯ケン 密ヒツにヒてシ 幽ウしシ 諫ケンめシ 憚ハバらズすリ 出デにシてシ 忍シびス 流リ矢ヤ 脆ヒ 枯コ 機キ 令レイ旨シ 榮エイ 諺セン

○日本歴史科 第一學年……後

四、清盛の専横

太政大臣となる。太政入道。女を宮中に入る。安徳天皇をうむ。一門の公卿十六人。高官三十餘人、領地日本の半分。鹿ヶ谷の會合。平家を亡す相談。後藤原成親、僧西光。白河法皇を幽し、關白大臣を流す。俊寛等。

五、平氏の滅亡

以仁王、源賴政の舉兵。宇治に戦死す。以仁王、源氏。賴朝伊豆に起る。富士川の戦。の令旨。起る。義仲信濃に起る。礪波山の戦。京都をあらす。粟津に戦死す。平氏西海に走る、福原に歸る。一谷の戦。範賴義經平氏をやぶる。屋島の戦。壇の浦の戦。平氏滅亡。安徳天皇の入水。神劔を失ふ。七百二十六年前(紀元千八百四十五年)

第五十第

字解

督せしめ 精通つうつ 基礎を固め 己み 襲ふ 暗ます 周く 奪はる 揮 僻遠 好機 攷

要旨 源頼朝鎌倉幕府をはじめ、政治上に大變動を生せしこと等を知らしめんとす。

一、源氏の幕府 侍所：軍事を掌る。和田義盛別當たり。公文所：庶務をおさむ。政所：大江廣元別當。問註所：訴訟を掌る。三善康信執事。大江廣元の議により各國に守護、莊園に地頭を置く。

二、源氏の正統絶ゆ 頼朝八年の間職に在り能く政治を整へたり。頼朝薨後天下二分の議。東國：頼朝の子。西國：頼家の弟。頼家職をつぎ間もなく廢せらる。頼家の弟實朝職をつぐ、頼家の子公曉(ヤウキ)に殺さる、義時公曉をこるす、源氏の正統はこゝに至りて絶ゆ。

鎌倉幕府

すしぬ 柔弱 鑑み 陸り 質素 休 養 登用 猜忌 羽翼 縁 断ち 血 機 會 振舞 企て 鞏固 探題 警 掌る 繼

三、北條氏の幕府 藤原頼經(頼朝の妹の孫)を迎へて將軍とす、二歳名をすてて實を取る、義時、政子(尼將軍)の政治。將軍成長すればこれを追ひて幼主を迎ひ立つ。

原因 源氏亡ぶも北條氏代りて天下の權を取る。後鳥羽上皇の憤慨政權回復の御志。義時しばしば上皇の命にむく。

四、承入の亂 東軍十九万總大將泰時、時房。官軍、宇治勢多にやぶる、東軍京師に入る。後鳥羽上皇隱岐。順徳上皇佐渡。中御門上皇土佐に遷されたまふ。

結果 中恭天皇位をゆづり後堀河天皇立つ。朝廷威信を失ひ、幕府の威權益加はる。京都南北六波羅探題を置く。朝廷の監視。西國の政治。

○日本歴史科 第一學年……後



第六十

字解  
 影響 影響のきき  
 異にす ちがふ  
 抑え 抑へる  
 運命 運命の成敗  
 跡 跡のあと  
 率 率のひきつれる  
 勵 勵のすすむ  
 尙武 尙武のたつ  
 怯未練 怯未練のたつ  
 狩獵 狩獵のたつ  
 磨 磨のたつ  
 趣 趣のきき  
 抑 抑のちがふ  
 成敗 成敗のせい  
 下 下のしむ  
 遺法 遺法のつづ  
 卑 卑のひきつれる  
 擇び 擇びのたつ  
 練 練のたつ  
 嗜む 嗜むのたつ

○日本歴史科 第一學年……後

八四

要旨

鎌倉時代とはいづれの時であるか、その時代にはいかなることかありしか、風俗より文學、佛教に至るまでのありさまおよび美術工藝はかかることを知らしめ前代と異なるところを示せしなり。

一、鎌倉(鎌倉幕府)がはじまりしはわが國の政治上の一大事變にして、その時代は前代とは趣をことにせり。

二、風俗 儉約(家屋は板屋又は茅葺とし、衣服は身分により制限)を立て、食物は粗食をむねとす。

三、文學 武士(尙武)の風盛にして名譽、廉恥、恩義を重んず。道(遊戯)：笠懸、流鏑馬、犬追物等。

四、宗敎 漢學衰ふ…戦争相つぎ學問のいとまなし。金澤文庫…北條實時、顯時の父子これを建つ。

五、美術 歌集…金槐(クニツグ)集、山家集、新古今集等。軍記…保元物語、平治物語、平家物語、源平盛衰記。文体…和漢混合文。

鎌倉時代の文物

巧 巧のたつ  
 勇壯 勇壯のたつ  
 信仰 信仰のたつ  
 適し 適しのたつ  
 築 築のたつ  
 華麗 華麗のたつ  
 異なり 異なりのたつ  
 手 手のたつ  
 繪卷物 繪卷物のたつ  
 彫刻 彫刻のたつ  
 後裔 後裔のたつ  
 陶器 陶器のたつ  
 宋 宋のたつ

○日本歴史科 第一學年……後

八五

四、宗敎

浄土宗…源空—美作の人—高倉天皇の時。  
 一向宗…親鸞—京都の人—後堀河天皇の時。  
 禪宗…榮西—備中の人—後鳥羽天皇の時。  
 曹洞宗…道元—京都の人—後堀河天皇の時。  
 日蓮宗…日蓮—安房の人—後深草天皇の時。

五、美術

建築 建築は禪宗と共に支那風の寺院建築風傳はる。邸宅は質素にして實用に適する武家風起れり。  
 繪畫 土佐光長、藤原信實、名手と稱す繪卷物多く出づ。  
 彫刻 運慶、定朝の後裔。  
 陶器 加藤景正が宋より支那の陶法を傳ふ。

立分の統皇兩寺覺大院明持 七十第

會てさきた賢明  
 決すきま遺  
 親  
 遺憾  
 失徳  
 踐祚  
 憤り  
 輦  
 終始  
 延い

○日本歴史科 第一學年……後

八六

要旨 後嵯峨天皇位を二皇子に譲りたまひしより、兩皇の黨派闘争を争ひ、終に貞時が兩統更立の議を立てしことを知らしむ

一、後嵯峨天皇（土御門上皇の皇子。泰時迎ひて立つ、上皇が承久の亂を諫めしため。

二、後嵯峨天皇（後深草天皇—長講堂の御領を受けらる。二皇子（龜山天皇—永く皇統をつがることとなる。

三、皇位紛議 後宇多天皇（龜山天皇の皇子。の御即位 後深草上皇の不平。時宗、後深草上皇の皇子を立つ。

伏見天皇 後深草上皇の御子。の御即位 後深草上皇派の幕府に誣告（マコ）す。皇太子—伏見帝の御子を立つ。

後伏見天皇 伏見上皇の御子。の御即位 後宇多天皇の不平。貞時（サダ）兩統かはるがはる立つ議を定む。

第八十第

字解  
 陪臣 畏く  
 威壓 仁慈  
 容喙 公平  
 勤儉 視察  
 行脚 果斷  
 難く 顯揚  
 憎む 稱讚

○日本歴史科 第一學年……後

八七

要旨 北條氏は初め專横なりしが、泰時、時頼精勵して治を圖り時宗は元寇を打ちならひ、國威を海外にかがやかしたりとへども遂に高時に至り亡びしことを知らしむ。

一、專横 時政…政子と共に政權を執り頼家を廢す。義時…源氏を亡し政權をうばひ、三上皇を流す。泰時…大に心を政治につくし節儉を旨としたり。時頼…心を政事につくし、租税をかるくし、刑罰をゆるくす、諸國をめぐりて民情を察す。

二、善政 時宗…執權となる、時頼の子なり。文永…元の使者九たびまで来る返書をあてへず。の役…十一年元兵三万來りて九州に寇す。

三、元兵 弘安…四年、元兵十萬來り寇す、七月一日の夜大風にわかに起り、元兵皆死す、これより元またわが國の役をうかがはず。時宗の處置よろしきを得たるによる。

北條氏の滅亡

○日本歴史科 第一學年……後
財政の暗愚、背き、樂、離叛、耽り、密に與り、追蹤、撓み、追蹤、幸へり、義兵、自殺、郷里へ、覺り、倒る。

四、北條の亡

後醍醐天皇即位…英武にして政權回復の大志あり。
天皇常に北條氏を亡ぼさんとはかりたまふ、正中元年、日野資朝(トモ)源俊基(トシ)等をして諸國の民情を察せしむ、土岐頼兼(トキカネ)多治見國長(タヂミクナトシ)等も身を捕ふ、頼兼、國長自殺し、資朝は佐渡に流され、次で殺さる、俊基はゆるさる、高時天皇を廢せん、とす、事解く。
皇位の論より天皇大に怒りたまひ舉兵に決す。笠置山に遷幸…城おちいり隱岐に遷され給ふ。楠木正成…金剛山。護良親王…吉野。新田義貞…鎌倉を亡す。足利尊氏…官軍に屬し六波羅を陥る。
天皇隱岐より遷幸…名和長年によりたまふ。

第九十第

○日本歴史科 第一學年……後
字解
恢復、提報、記録所、兵乱、訴訟、司、擅權、皇威、内奏、動、功、重、參議

要旨
後醍醐天皇が還幸になりて、中興の新政をはじめたまひしこと、中途にてその業のやぶれたること、新政に弊害がありしこと等を知らしめんとす。

一、後醍醐天皇還幸
天皇、高時のために隱岐にうつされたまふ。義貞鎌倉を亡し、高氏六波羅を陥る(元弘三年)
天皇、隱岐をのがれて伯耆につきたまふ。
天皇伯耆の船上山御出發、名和長年御供す。
光嚴天皇を廢し、京都へ御還幸。

二、中興の新政
中央政府
記録所…御親政の役所。
雑訴決斷所…土地の訴訟を裁判す。
窪所…武士を監督する役所。
武者所…近衛兵のをる所。

地方政治
關東管領…成良親王、足利直義。
奥羽鎮將…義良親王、北畠顯家。
國守…守護地頭の權力をそぐために。

○日本歴史科 第一學年……後

建武の武中興

賞賜 兵 戦乱 陳遠 再興 大望 幽閉 機を窺ひ 勅許 募れり 復分属

○日本歴史科 第一學年……後

九〇

三、新政の弊害

イ、内奏の多く行はれしこと。  
 高氏 尊氏と改む、有功第一とし、武藏、下總、常陸を賜ふ。  
 義貞 上野、播磨をたまふ。  
 正成 攝津、河内をたまふ。  
 長年 因幡、伯耆をたまふ。  
 赤松則村 佐用の一莊のみ。  
 ハ、大内裏を造營したまふ 費用多し。  
 ニ、天皇、やや政治に倦みたまふ。

四、中興の業破る

イ、新政に對する不平 武士の不平 賞罪の不當。人民の不平 裁判の不公平。公卿の不平 武士に權力を奮はる。  
 ロ、京都の混乱 訴訟山の如く、詐偽など多し。將士不規律にして制しがたし。  
 ハ、尊氏鎌倉によりて反す。

第十 二 第

院宣 繼ぎて 勤王の軍 終始 兵 死 行在所 擬器 對抗 討死 叡慮

○日本歴史科 第一學年……後

九一

要旨

尊氏が反逆より南北兩朝の分立せしことおよびその合一に至るまでのことを知らしめんとす。

一、尊氏 東上

イ、多多良 尊氏、光嚴上皇の院宣を得て兵を募る。濱の戦 菊池武敏等の軍を破る 九州尊氏に属す。  
 尊氏、九州、四國、中國の兵を率ゐて東上す。  
 海路 尊氏 七千艘 義貞 これに當る。  
 陸路 直義 二十萬人 正成 これに當る。  
 官軍敗る 正成討死 義貞 京都に歸る。  
 尊氏入京 長年、忠顯等の戦死。  
 天皇比叡山に幸す、尊氏 光明天皇を立つ。  
 尊氏、光明天皇(持明院統を立つ) 皇統兩分の利用  
 尊氏いつはりて和を請ふ。  
 諸將の義貞 恒良親王、尊良親王を奉じて北陸に遣 遣 親房 尊澄法親王を奉じて伊勢に。

南 ● 北 朝

カウキユウ 行宮  
シヨクシヨク 守衛  
シヨクシヨク 盡力  
カヘツテ 威勢  
フセ 拒ぎ  
セイム 政務  
フワ 不和  
ムツマツ 睦から  
シヨクシヨク 内乱  
シヨクシヨク 再興  
シヨクシヨク 柱石  
シヨクシヨク 薨じて承く  
シヨクシヨク 管領

○日本歴史科 第一學年……後

二、兩朝分立

一、諸將の忠勤

後醍醐天皇、京都に御還幸遊ばさる。  
尊氏、花山院に幽し奉る。  
近畿地方に勤王の兵おこる。  
天皇、吉野にのがれたまふ。

二、天皇吉野に行幸

南朝 後醍醐天皇 大覺寺統 宮方。  
北朝 光明天皇 持明院統 武家方。

南朝延元二年、金崎城を陥る、皇太子捕へられ、後、弑せられたまふ。  
義貞、親王と新田義顯とは自殺。  
義貞、藤島に戦死す(延元三年)

足利義詮を鎌倉にやぶる。  
高師直と和泉に戦ひて死す(阿部野)

義良親王を奉じて奥羽におもひく。

後醍醐天皇崩御(延元四年)  
義良親王御即位 後村上天皇

第 二 十

ケマツリコト 輔けて  
ツカサシメ 遣はして  
レウテウ 兩朝の和睦  
ホクテウ 奏  
クワンカウ 許して  
クワンカウ 還幸し給ひ  
シヨクシヨク 神器  
シヨクシヨク 傳へ給ふて  
シヨクシヨク 實に  
シヨクシヨク 分立

○日本歴史科 第一學年……後

三、南朝の盛衰

四、後村上天皇

楠木正行の勤王 南朝の柱石。  
征東將軍 宗良親王。  
征西將軍 懷良親王。  
親房 吉野にかへる。

正行四條畷に討死 南朝の勢衰ふ。

尊氏征夷大將軍となる 室町幕府。

尊氏直義の不和 直義南朝に降る。

尊氏直義の不安心 鎌倉にはしる。

尊氏南朝に降り、直義を討つ。

直義殺され、その黨南朝に降る。

八、足利氏の内訌

二、勢を得

足利義詮、崇光天皇を廢す。  
後村上天皇還幸 兩朝一時合一。  
尊氏、又そむく 後光嚴天皇を立つ。  
東國 新田の一族 義興、義宗おこる。  
伊勢 北畠顯能あり。

南 北 朝

久しきに亘り  
 しがなつたれども  
 此に至りては  
 始めて合一し  
 つに於ては  
 兩統の御  
 争ひも其の  
 終を告げ  
 げたり  
 詔の次  
 新

四、兩朝の合一

- 吉野 || 楠木正儀あり。
- 西國 || 懷良親王、菊池武光(九州を定む)
- 南朝の柱石 || 北畠親房の薨去。
- 長慶天皇と後龜山天皇と皇位の争ひ。
- 楠木正儀、北朝に降る。
- 義満將軍となる。
- 細川頼之たすく。
- 幕府の勢大に振ふ。
- ホ、勢大に衰ふ。
- イ、大内義弘、義満の命をうけて兩朝の和を請ふ。
- ロ、後龜山天皇、和合を許したまふ。
- ハ、條件 父子の禮を以て、神器を北朝に傳ふること。後龜山天皇の皇子を皇太子に立つること。後龜山天皇に太上天皇の尊號を上ること。
- ニ、後龜山天皇京都に御還幸(紀元二千五十二年)
- ホ、三種の神器を後小松天皇につたへたまふ。
- ヘ、兩朝の分立 || 五十七年にして合一す。

高等 小學 地理科表解

第一學年 後期

字解

中央 露西亞、南嶼地利。  
 強國 露西亞、南嶼地利。  
 接す 接する、つぎつぎに。  
 面積 面積、面積。  
 互に 互に、互に。  
 平ら 平ら、平ら。  
 量 量、量。  
 運河 運河、運河。  
 連綿 連綿、連綿。  
 頗る 頗る、頗る。  
 達し 達し、達し。  
 富めり 富めり、富めり。

○地理科 第一學年……後

位置 歐羅巴州の略中央。東…露西亞、南嶼地利。西…ネーデルラント、白耳義、佛蘭西。北…北海、バルチック海、丁抹。

地勢 南部…山脈連亘し高地。北部…一體に低平…歐羅巴大平原の一部。

水系 黒海斜面…ダニユール河の上流。北海斜面…ライン河(國內第一)、オーデル、エルベ。キール運河…バルチック海と北海との交通を助く。

面積 獨逸聯邦二十五洲。三万五千方里。

人口…五千六百五十万人。

氣候 北海沿岸…比較温暖(暖流の影響)。南部高地…寒暑共につよし。

甜菜 甜菜、甜菜。  
 栽培 栽培、栽培。  
 巨額 巨額、巨額。  
 屈指 屈指、屈指。  
 額 額、額。  
 促し 促し、促し。  
 染料 染料、染料。  
 著る 著る、著る。  
 醸造 醸造、醸造。  
 聯邦 聯邦、聯邦。  
 兵制 兵制、兵制。  
 屢々 屢々、屢々。  
 威嚇 威嚇、威嚇。

○地理科 第一學年……後

伯林 首府…ハンブルグの東南、人口二百萬。製鐵、磁器の製造盛大、商工業の中心。伯林大學、日本の大使館あり。

都會

ハンブルグ…エルベ河の右岸、世界屈指の開港場。ライプツヒ…エルベ河の西岸、書籍商業に名高し。ドレスデン…エルベ河の左岸、風景秀麗工藝盛大。ケルン…ライン河の左岸、絹織物盛なり。

産物

鐵、石炭に富み、工業の發達に便、造船業盛なり。穀類、砂糖、麥酒。輸出入總額の多きこと世界第二。

政治

立憲帝國、宗教…新教、教育…世界第一。陸軍精銳、海軍…世界第四位。

沿革

聯邦…四王國、六大公國、五公國、七侯國、三自由市。プロシヤ國の王兼てドイツ皇帝たり、四十餘年前にウイヘルム一世出でビスマルク等を用ひ政治を改良したり。海外にも廣き領地を有し、世界強國の一となる。

第三 奧地利 利牙 洪利

字解 聯合 主 貫流 市街 麗市 府 關 係 君 臨 形成

○地理科 第一學年……後

位置 北西：瑞西、獨逸。北東：露西亞。南西：アドリヤ海、伊

地勢 西部アルプ山脈、北東：カルパチヤ山脈、洪牙利平原。

河流：ダニユール河、ドイッより發す、歐羅巴第一の大河。

面積：四万四千方里、人口：四千七百万人。

氣候：寒暑の差多し、アドリヤ海岸の一部は温和。

都會 維也納：首府、人口：百四十万、ダニユール河に沿ふ。

産物 農産：穀類、砂糖。林産：木材。鑛産：金、岩塩。

政治 立憲君主制、二國同盟して奧地利皇帝をいたたく。

沿革 洪牙利は十七世紀の末に奧地利の附屬國となる。

第四 瑞 西

字解 登 雪 布 風 景 湖 臨 甚 盛

○地理科 第一學年……後

位置 北：獨逸。東：奧地利。西：佛蘭西。南：イタリア。

地勢 南部：アルプ山系の最高部。西部：ユラ山脈。海に面する所なし。

湖水：ジュネーブ湖、コスタン湖、チューリッヒ湖、風景佳美。

面積：二千六千方里。人口：三百三十万人。

都會 ベルン：首府。チューリッヒ同名の湖北にあり、工業の中心。

交通：山を穿ち鑛道を設け交通便なり。

産物 時計、寶石細工、絹布、綿布。

政治 共和政体。



字解

挟りて 偏 位置 東：獨逸、瑞西。西：ビスカヤ灣。南：西班牙、地中海。北：英吉利海峽、白耳義。

○地理科 第一學年……後

地勢 海岸低平。内地：北西部は平野、南部は高し。

山脈 東：アルプ山脈中のモンブラレ 高一万六千尺(歐羅巴第二) 南：ピレネー山脈。

水系 三分(セイヌ河：英吉利海峽。ロース河：地中海。ロアル河：ビスカヤ灣。

面積 三万五千方里。外に殖民地(三百七十四万方里。人口：四千万人。)

氣候 温和。

巴里 人口二百八十万、宮殿より市街の美なること名あり。技術製作品の精妙世界第一、ノートルダム大寺、凱旋門

貿易港 北 有 地 境 名 成功 混 吞 張 回

都會 ルアーアル：英吉利海峽の大貿易港。

マルセイユ：地中海沿岸、世界交通の要地、横濱より(九千三) リヨン：絹織物製造の中心。

産物 農産物：麥、馬鈴薯、葡萄。製産物：絹織物、毛織物、葡萄酒、ホルドー酒、工藝品。

輸入：日本より生糸及び羽二重を輸入す。

政治 民主政體、大統領の任期は七年。陸軍：國民一般に服従す。海軍：世界第二。

氣質 正義、平等を好み、愛國心に富む。社交に巧なり、パリは世界流行品の本場。

沿革 百二十年前ナポレオン第一世出で外征に功あり、國內を鎮めて 皇帝の位に登りしが終に列國聯合軍にやぶらる。 明治三年普魯亞との戦争にやぶれ共和制となる。

○地理科 第一學年……後

字解

概ね平 概ね平 概ね平  
 坦沿海 坦沿海 坦沿海  
 砂岳海面 砂岳海面 砂岳海面  
 防侵入 防侵入 防侵入  
 相連絡 相連絡 相連絡  
 敷設 敷設 敷設  
 普ねくし 普ねくし 普ねくし  
 比類 比類 比類

○地理科 第一學年……後

位置 東：獨逸。南：北海。  
 西：佛蘭西。北：ネーデルラント。

地勢 東：南は高く。北西は低し。

面積 千七百九十一方里。日本の九州より小なり。

人口 六百七十万人。一方里に三千五百八十八人、世界第一の密度。

都會

ブルツセル

國の首府。國の中央。  
 ワーテルローはこの南方。

國內第一の貿易港、堅固の砲臺あり。  
 商業盛なり、一に歐羅巴のリバーブルと云ふ。

日本郵船會社の航路。  
 人口二十八万九千。

政治 立憲王國。

産物 硝子、鑛、（工業發達す）  
 ブルツセル製のレイスは世界第一。

白耳義和蘭

富源 富源 富源  
 屈指 屈指 屈指  
 麗著名 麗著名 麗著名  
 古來 古來 古來  
 屢々 屢々 屢々  
 分離 分離 分離  
 航 航 航  
 掌 掌 掌  
 漸 漸 漸  
 馬來 馬來 馬來  
 領地 領地 領地

位置 東：獨逸。南：白耳義。  
 北及西：海にのぞむ。

地勢 一般に 西部：ライン河の三角洲より成る。  
 ひくし 海岸：堤防にて海水の侵入を防ぐ。  
 北方：グイデル海。陸地の變成。

河：ライン河。獨逸より來る長三百三十里。

都會 ハーグ。政治上の首府、王宮壯麗、人口二十万。  
 アムス 國內最大の都會、九十箇の嶋嶼にまたがる。  
 テルダム 外國貿易の要津、人口五十万、金剛石の細工名高し。

産物 牧畜：牛、馬、羊、牛酪、乾酪（ラカン）  
 海業に熱心なり。  
 製造業：石炭とほしくてあがらず。

政治 立憲王國。

沿革 紀元千六百年代よりわが國と交通す。  
 三百餘年前にイスパニヤより分立す。

○地理科 第一學年……後

第 三

字 解  
 數多の島 嶼 面積 港多し 豊富 無比 接續 都會 軍港 西北 有名

○地理科 第一學年……後

位置 東：北海。西：北：大西洋。南：英吉利海峽。佛蘭西。歐羅巴大陸。

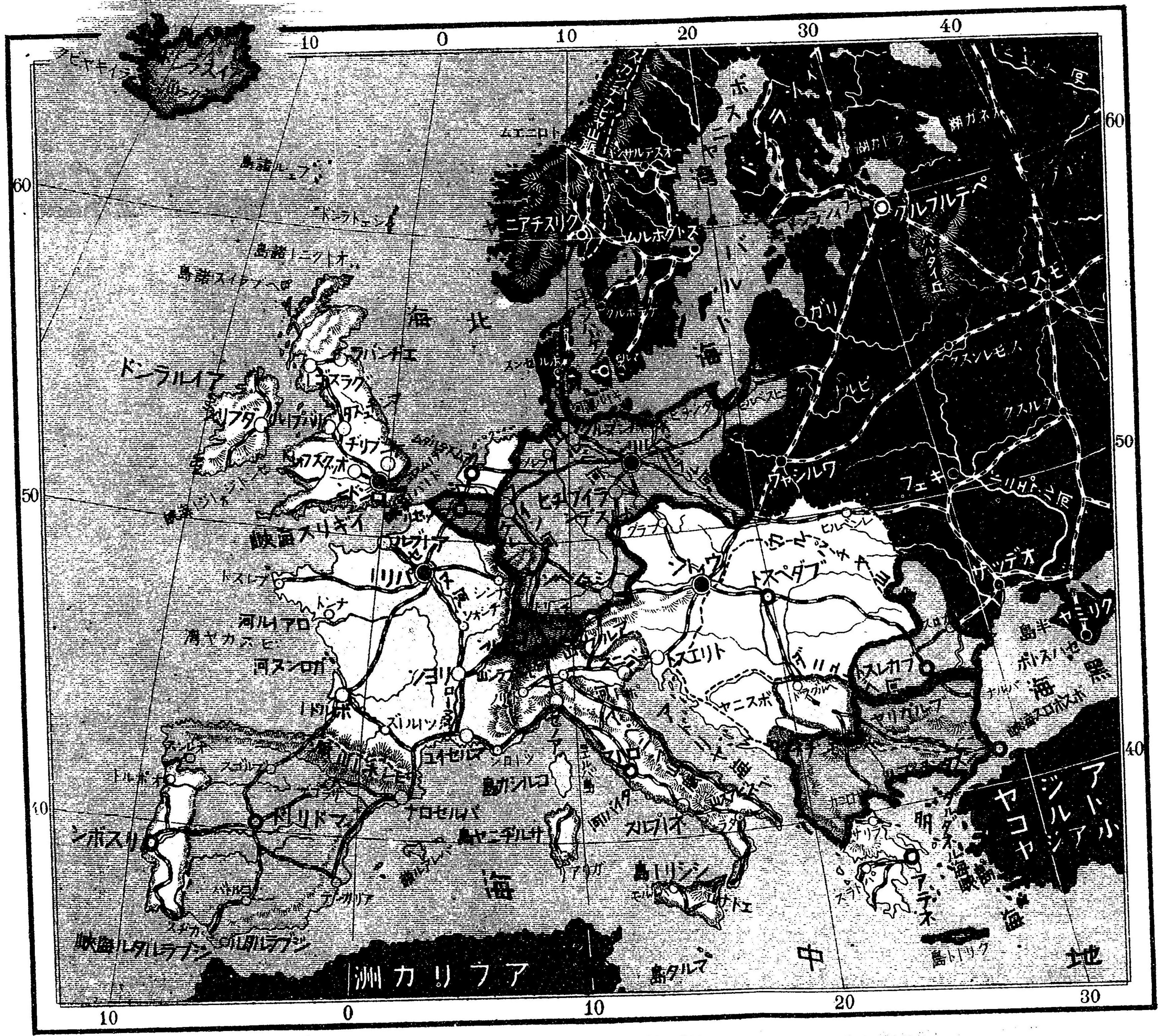
地勢 大ブリテン 一般高原性。スコットランド 南部大部分。ライオンズ 英國の主腦。ウエールズ 西部一部。海岸出入多く、良好なる港灣に富む。

河流 テームス河、セバーン河、シヤンノン河。

氣候 概して温和、雨多し、濃霧(ハッ)多きを缺點とす。

面積 二万方里。海外の領地を合して 千百十四万六千方里。世界陸地の五分の一。

人口 四千五百万人。海外の領地を合して 三億九千八百万人。世界人口の五分の一。



英 吉 利

綿布 モウブ モウブ モウブ  
 中心 チュウシン チュウシン チュウシン  
 鍊工業 レンコウギョウ レンコウギョウ レンコウギョウ  
 造船業 センゴウギョウ センゴウギョウ センゴウギョウ  
 勢力 セキリキョク セキリキョク セキリキョク  
 権力 ケンリキョク ケンリキョク ケンリキョク  
 列國 レツコク レツコク レツコク  
 平和 ヘイワ ヘイワ ヘイワ  
 確保 キョホ キョホ キョホ  
 結ぶ ムスブ ムスブ ムスブ

○地理科 第一學年……後

倫敦

テムズ河に跨る首府、人口四百八十万、世界都會中最  
 大人口を有す、一大農産市場、一大製造の都府。  
 世界商業の中心、大海港、各地より入り来るもの毎日百  
 万人、世界第一の都會、日本より一万二千海里、六  
 十日。  
 西比利亞鍊道を利用すれば十六七日にて達す。

都會

オックスフォード (ロンドンの西) 有名の大學。  
 ケンブリッジ (ロンドンの北)  
 バブール：國內第二の貿易港、世界棉花の大市場。  
 マンチエスター：第三の都會。ポーツマス：第一の軍港。  
 グラスゴー：造船業に名高し。カーヂフ：石炭の輸出港。  
 エザンバラ：學術盛大、風景佳絶の都會。

産物

商工業は 輸出入の年額(鍊、石炭、綿糸、綿布、麻布、硝子、機  
 世界第一) 我國の十倍(械類、造船、絹織物、毛織物等)。

政治

立憲世襲(ユウ)君主政治。我が國と攻守同盟。

三 第

字 解

半島 東に地中海、西に大西洋。南にシブラルタル海峡を隔て、亞弗利加洲。北に佛蘭西、ビスカヤ灣にのぞむ。イベリヤ半島の地。

○地理科 第一學年…後

位置

東…地中海。西…大西洋。南…シブラルタル海峡を隔て、亞弗利加洲。北…佛蘭西、ビスカヤ灣にのぞむ。イベリヤ半島の地。

地勢

北境…ピレネー山脈東西に走り。南方…シエラネバタ山脈横はる。國中處處に高峻なる山脈亘れり。一般高地。半島。大部西班牙。西は葡萄牙。

海岸

概して大屈曲にとぼし。シブラルタル(地中海の咽喉(ヨウ)第一の要害)

面積

西班牙…十二万四千八百方里。葡萄牙…三万四千方里。

人口

西班牙…二千万人。葡萄牙…五百五十万人。

氣候

西部北部は温和にして雨多し。東部海岸も概して温和、中央高原は寒暑の差多し。南部海岸は亞弗利加の熱風を受けて不快なり。

西班牙・葡萄牙

西海 地中海。大西洋。ドイロ、タボ、クアヂアナ等の大河。名海峽 地中海の北にある貿易港。堅固 砲臺 葡萄酒。農産物 穀物、葡萄、果物。通商 立憲君主國。沿革 西班牙の古昔航海を以て世界を歴したり。葡萄牙も航海國を以て自任したる國なり。

○地理科 第一學年…後

字解

島嶼(タロシヨ) 面積(オウケン) 産物(サンブツ) 養蚕(ヤウサン) 生糸(シヨウシ) 質(シツ) 美術(ビョウブツ) 彫刻(テウコク) 模範(モバン) 模範(モバン) 模範(モバン)

○地理科 第一學年……後

位置

歐羅巴の南部に突出せし長靴形の伊太利半島と、その南地中海上のシリヤ、サルヂニヤ等の島島より成る。  
 東：アドリヤ海を隔てて、東地中海及びギリシヤ。  
 南：アドリヤ海を隔てて、東地中海及びギリシヤ。  
 北：アルプ山脈によりオリストリヤ及び瑞西。  
 北西：アルプ山脈により、佛蘭西。

地勢

東北：ポイ河地方。ロンバルヂヤ平原。  
 南部：東西両面にかたじき、せまき平地あるのみ。

山脈

アルプ山：北西の國境をかざる。火山(ベスピアス山) エトナ山  
 アベニン山脈：西北より東南につらぬく。

河流

ポイ河(全國第一の大河)

人口

概して温和、歐羅巴中第一といふ。

チベル河にまたがる大都會、人口四十六万、昔は羅馬大帝國の首府たりしところ。

伊太利

中央(チュウウ) 大(ダイ) 遺物(イボツ) 建築(ケンチョウ) 遺物(イボツ) 建築(ケンチョウ) 遺物(イボツ) 建築(ケンチョウ)

都會

羅馬(ローマ) 世界美術の最大都市、繪畫、彫刻、建築に富む。

三大建築(サンサイケンチョウ) セントポール寺(セントポールジヤウ) 世界最大華麗の禮拜堂。

ネーア(ネーア) ナポリ(ナポリ) リナポリ(リナポリ) 風光明媚(フウカウメイメイ) なり、諺(ことわざ) にあるナボ

ベニス(ベニス) 貿易(カウブキ) の中心(チュウシン) 地中海(チュウカイ) 岸(キ) 。

マルタ(マルタ) 艦隊(ケンタイ) の根據(キョウコ) 地(チ) 英吉利(イギリス) に屬(ぞく) す。

エルバ(エルバ) 島(シマ) ナポレオン(ナポレオン) の流(なが) されし地(チ) 。

生糸(シヨウシ) 支那(シナ) 日本(ニッポン) と共に世界(セカイ) の三大産物(サンブツ) 。

絹織物(キヌオリモノ) 鏡器(キョウキ) 橄欖油(カンランアブ) 葡萄(ブドウ) 樂器(ガクキ) 硫黃(リウウ) 大理石(ダイリシ) 。

政治(セイジ) 立憲帝國(リツケンテイコク) 。

沿革(ケイコウ) 政治(セイジ) 文學(ガク) 美術(ビョウブツ) 工藝(コウギ) 早く開け、歴史上(レキシヤウ) 有名(有名) の國(クニ) 。

○地理科 第一學年……後

第

三

字解  
 對し 對し 對し  
 突出し 突出し 突出し  
 相連互し 相連互し 相連互し  
 中部の地 中部の地 中部の地  
 を占め 占め 占め  
 府の出入 府の出入 府の出入  
 門たるの關 門たるの關 門たるの關

位置 (東) 黒海、多島海。 (南) 地中海。  
 (西) ハンガリー、アドリヤ海。 (北) 露西亞、洪牙利。  
 地勢 (バルカン山脈中央を東西に走る、その以南は一般に高地。  
 北部は平野) ダニユープ河の流域地方。  
 河流 …… ダニユープ河 全長六百六十八里 半島中主要の農産地。  
 面積 …… 二万六千六百里。  
 人口 …… 千七百十三万人。  
 氣候 …… 北部は寒暑甚しく、南部は温和、雨多し。

位置 (歐羅巴の南東) 半島の中央部。  
 面積 …… 二万一千方里。  
 人口 …… 六百八万六千人。  
 土耳其 首府 (コンスタンチノブル) 土耳其の首府、黒海の關門。  
 古 府の周囲風景明媚なり。

バルカン半島諸國

古代の遺跡に 富みの殊に 有名に 獨立國に 領地 統治 實權 惹起せ

區劃

○地理科 第一學年……後

產物 …… 煙草、穀類、葡萄、阿片、石炭、銀、銅、革。  
 政治 …… 君主專制。  
 人種 …… 土耳其、希臘、アルパニヤ。

沿革 …… 亞細亞より起る。十六世紀の初を全盛時代とす。現今は國力ふるはず。

希臘 位置 …… バルカン半島の南部。  
 地勢 …… 平地乏しく山嶽かさなれり。海岸…延長の長さ世界比なし、屈曲多し。  
 面積 …… 四千方里、人口二百四十万人。  
 首府 …… アラネ 古代希臘文明の中心。  
 沿革 …… 歐羅巴中最も早く開けし國。

ルーマニヤ …… 立憲王國 面積 八千方里 人口 六百萬人  
 セルビア …… 立憲王國 面積 三千方里 人口 二百五十萬人  
 モンテネグロ …… 立憲侯國 面積 六百方里 人口 二十萬人

一一一



第四

字解  
 隔てて 対し  
 大陸 高原をな  
 大湖 急湍 輸道 赤  
 森林 降雨

○地理科 第一學年……後

位置

東…亞刺比亞半島、印度洋。西…大西洋。東大陸の西南、南…南太平洋。北…地中海を隔てて歐羅巴洲。世界第二の大陸。

地勢

全洲高 南部…四千尺 北部…千五百尺 東…アドラス山脈。南…キリマヌデヤロ山脈。

地勢

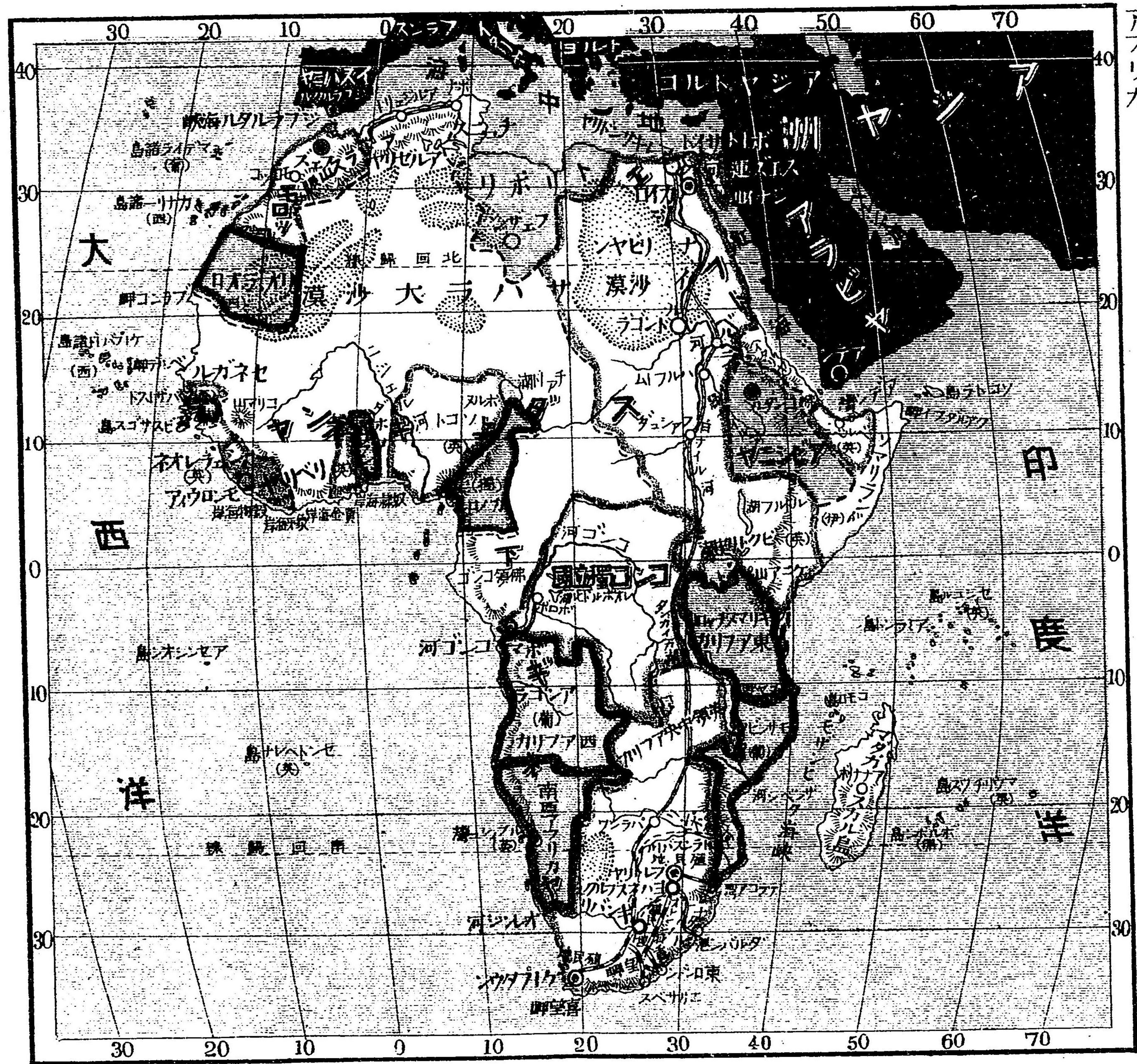
内地部

北、カハ 世界中最あつき地方、一年中夏のみ。アハツガール高原十二月より三月までその頂に雪を被はる。旅行者…磁石によりて方向を定む。オアンス…沙漠中の極樂。

南、カラハク沙漠。

海岸

北…シドラ灣、カラベス灣。南西…ギネア灣。北東…紅海。最南端…喜望峰。東方…グアルグファイ岬。



ア  
フ  
リ  
カ

大

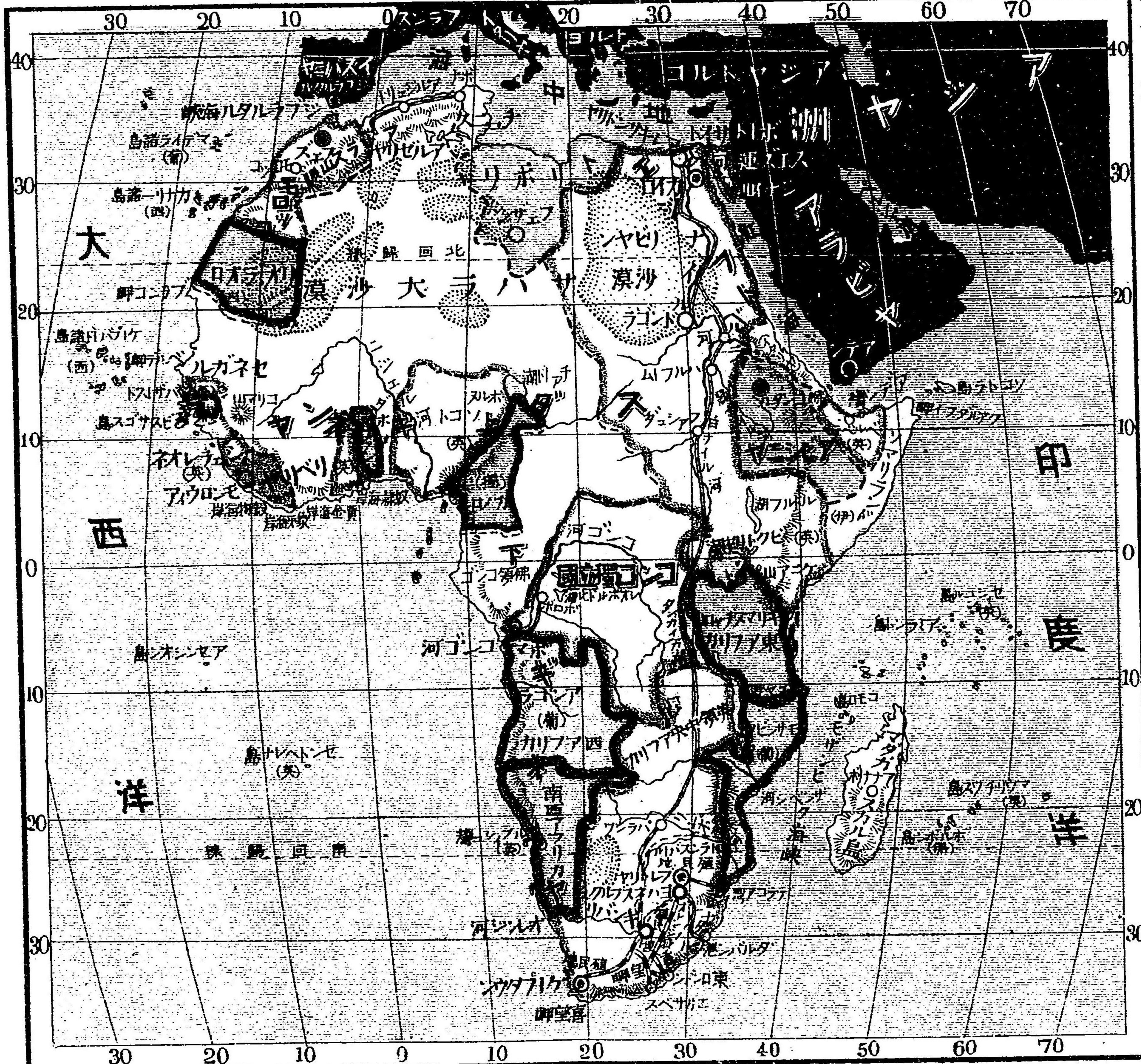
西

洋

印

度

洋



# 亞弗利加洲

沙漠 概 泉水 繁茂 隊商 從事 探險 主として 未開 状態 开拓 太

**湖水** 世界第二の大淡水湖：ビクトリア湖。タンガンイカ湖、ヌヤザ湖。

**河流** ナイル河：亞弗利加第一、長一千五百里。中部：コンゴ河。南部：オレンジ河。

**スエズ運河** 長さ約四十里、深さ二十八尺半、幅二百尺より三百尺。佛人レセツプ氏の設計。千八百六十九年十一月完成。工夫毎日二万五千人以上、費用合計二億圓以上。地中海のサイド港よりスエズに至る、通過時間十四時間。

**面積** 二百萬方里。人口：一億二千萬人。

**氣候** 一般に熱し、南端は温和—赤道の南北。

**産物** 綿、獅子(シ)、猿、駱駝(ラク)、駝鳥(ダウ)、シラフ、犀(サ)、鱷(ワ)、羊、象、金、金剛石、木材。

**人種** 亞弗利加人種(大部分) 歐羅巴人種(ホツテントット等)。

**宗教** 回教(北亞弗利加全部) 基督教(歐羅巴人)

○地理科 第一學年……後

# 洲加利弗亞

物産 農業 獨立國 流域 象牙等 殖民地 重要 突出 金剛石 産地 有名

○地理科 第一學年……後

アルゼリヤ：佛國殖民地中の重要な地。人口：四百四十万。  
 モロッコ……マホメット教の帝國の遺物として残れる獨立國。  
 リベリヤ……本洲西南隅にある黒人の小共和國。  
 コンゴ位置……本洲の中部。面積：十五万方里。人口：二千万。  
 獨立國（首府……ボマ）。政治……世界の中立國。日本の條約國。  
 英領 喜望峰 位置……亞弗利加の南端。面積……三万七千方里。  
 殖民地 首府……チープタウン。氣候……温和。  
 南領 產物……羊毛、駝鳥、金剛石（世界第一の産地）。  
 亞弗利加 位置……オレンツ殖民地の北東。面積……二万方里。  
 利加 位置……オレンツ河殖民地……喜望峰殖民地の北東。  
 マダガス 佛領 位置……亞弗利加南部の東方海中にあり。  
 カル島 面積……三万八千九百方里。  
 セントヘレナ島 位置……亞弗利加南部の西方。  
 ナポリオンの流されし地。

# 四 第

古 目 航 來 端 峻 河 文 肥 明 古 代 會 運 高 北 濫 實 權 爾 回 注

○地理科 第一學年……後

位置……ナイル河の下流、亞弗利加の東北隅。  
 地勢……ナイル河の三角洲地方の外は沙漠、草木産せず。  
 河流……ナイル河六月より九月まで大洪水。  
 面積……六万七千方里。人口……九百六十万。  
 實權 國 都 會 都 一國の首府、亞弗利加第一の都會、貿易港。  
 カイ 一國の首府、亞弗利加第一の都會、貿易港。  
 ツピラミ 花崗石にてたみ世界七奇の一、その數七  
 十餘、三千餘年前の建築、四面三角形。  
 ポートサイド港……スエズ運河の口、人工の築造。  
 氣候温和にして穀類、砂糖、煙草、豆類、綿等を産す。  
 位置……エジプトの東南。地勢……山脈國內にわたる。  
 面積……二万五千方里。人口……三百五十万。  
 首府……アヂスアベバ。政治……獨立の王國。  
 トリポリ……エジプトの西方。首府……トリポリ、貿易盛なり。  
 位置……北及東……地中海。西……アルゼリヤ。南……トリポリ。  
 面積……四万五千方里。人口……百五十万、佛蘭西の保護國。

字解

海峡(カイケツ) 陸の北部(西半球大) 太平洋(東) 北氷洋(北) 北氷洋(南) 南亞米利加洲(南) 亞細亞(東) 對す(西) 走(北) 峻(南) 沼(東) 湖(西) 流(北) 島嶼(南) 稀少(東) 交通(北)

○地理科 第一學年……後

位置

西半球大 陸の北部 東…大西洋 西…太平洋 北…北氷洋 南…南亞米利加洲 西南…ベーリング海峡を隔て亞細亞に對す。

地勢

太平洋(コルデン) 高地(ラ山脈) 阿ラスカ山脈…アラスカ半島 中央平原…ミシシッピ河の流域。 大西洋高地…アレガニー山脈。 墨西哥山脈…中部亞米利加の脊骨。

海岸

北海岸…ハドソン灣、バフィン灣 西北…アラスカ半島 西海岸…カリフォルニア半島 同名の灣。 南海岸…フロリダ半島、ユカタン半島(墨西哥灣) 東海岸…セントローレンス灣。 大西洋…ミシシッピ河(スベリオル湖に發し南流す。世界の第一長流、千七百里。)

五

北亞米

沙漠(シマコ) 野生(ハヤ) 獸類(ジュウレイ) 牧畜(ボクチュウ) 礦物(コウブツ) 豐富(フユウ) 探掘(タンクツ) 移住(イジュ) 子孫(シソン) 東部(トウブ) 富み(トミ) 稀(ヒ)

河流

北氷洋…マケンシ河、ネルソン河。 (セントローレンス河、五大湖の水相連る。)

島

西印度諸島…墨西哥灣の東方。 グリーンランド…世界第一の大島 南部に少數の住民。

湖水

スベリオル湖。 ミンガン湖。 オンタリオ湖。 ヒュロン湖。 エリー湖。

瀑布

ナイヤガラ瀑布…オンタリオ湖、エリー湖の間にあり。 二つに分る 一は蹄鎊瀑。 一は亞米利加瀑。

面積

約百六十万方里。

人口

一億一千万人。

○地理科 第一學年……後

利加洲

頻繁 頻りに横断 北岸 世界最寒地方の内 西岸 温和 東岸 やや寒し 要地 農産 麥、綿花、煙草、コーヒー、甘蔗、玉蜀黍 相通 水産 東西兩岸の北部に多し 發見 金、銀、銅、銻、石炭、石油 以來 工業 綿糸、時計等 殖民地 北亞米利加合衆國 形成 中央亞米利加 其の主 島嶼 ニューツアウレンドラント、西印度諸島 なるもの 墨 今より四百餘年前コロンブスの發見 西 歐羅巴各國の殖民地、後に後に各國獨立

地理科 第一學年……後

第五 加奈陀

字解 殆ど北 半住 民 漁業 盛況 支流 都會 不凍港 横断 道

地理科 第一學年……後

位置 東：大西洋。西太平洋、アラスカ。北亞米利加の北部。南：亞米利加合衆國。北：北氷洋。地勢 東部西部 高原地。中部 大平原。海岸 東海岸：セントローレンス灣、グリーンランド灣。北海岸：ハドソン灣、グリンランド灣。河流 セントローレンス河、マケイデー河、ネルソン河。面積 六十二万方里。人口 六百万人。氣候 西南 温和、その他寒氣つよし。都會 ハンクーパー：太平洋岸の新興の良港、横濱より(四千三百)オタワ：加奈陀領の首府、政治の中心。モントリオール：加奈陀第一の都府にして大西洋交通の要地。ハリファクス：大西洋岸唯一の不凍港。産物 小麥、玉蜀黍、鮭、羊、牛、木材、石炭、金。政治 英吉利及領地、總督の支配。位置 加奈陀の東方。世界三大漁場。面積 六千九百方里。

第

五

字解

中部一帯  
 大西  
 中央高地  
 西部高原  
 太平洋斜面  
 海岸  
 河流  
 湖

○地理科 第一學年……後

位置 北亞米利東…大西洋。西…太平洋。北…加奈陀。

大西  
 中央高地…ミシシッピ流域。

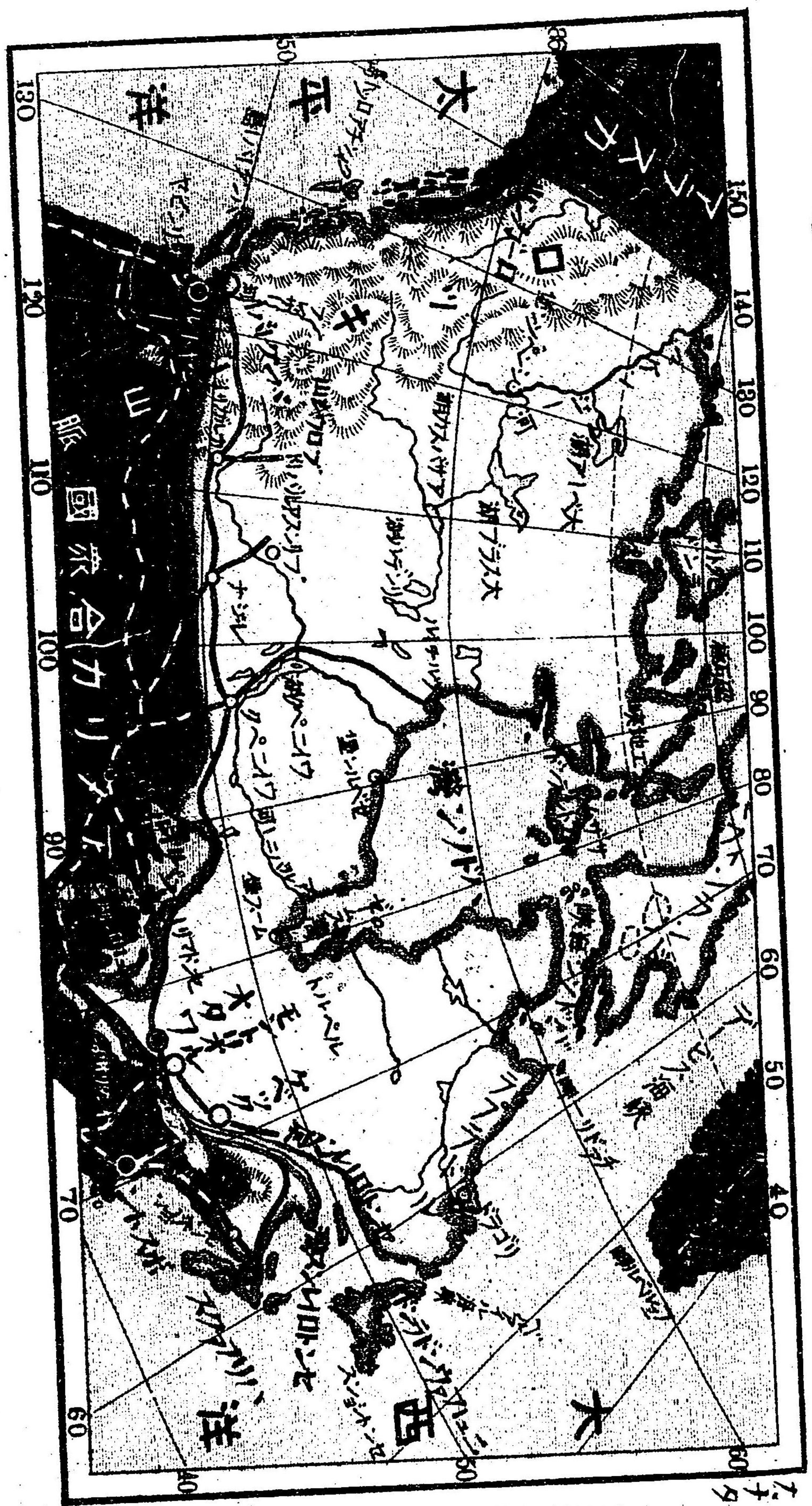
西部高原…ロッキーマウンテン。

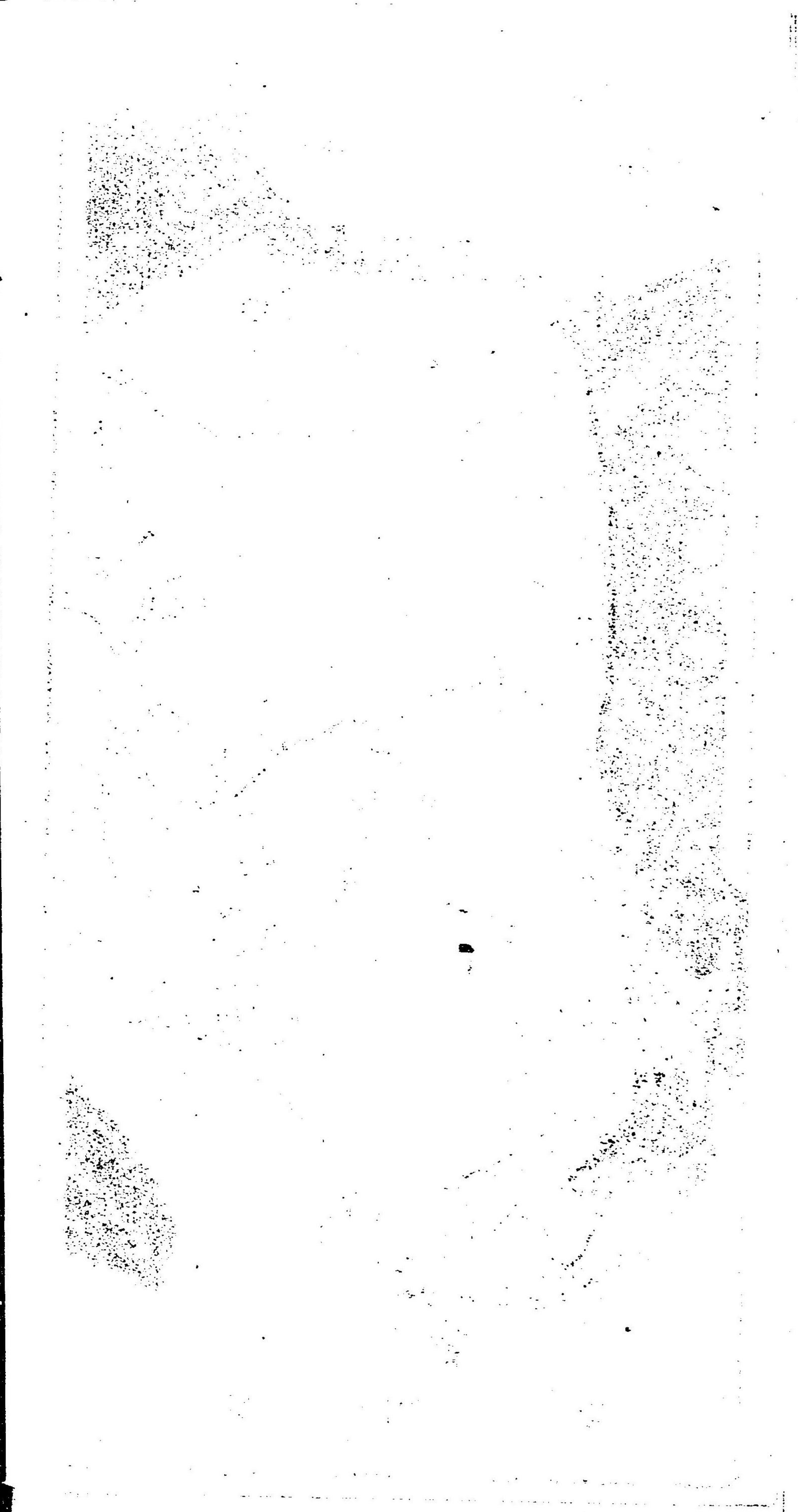
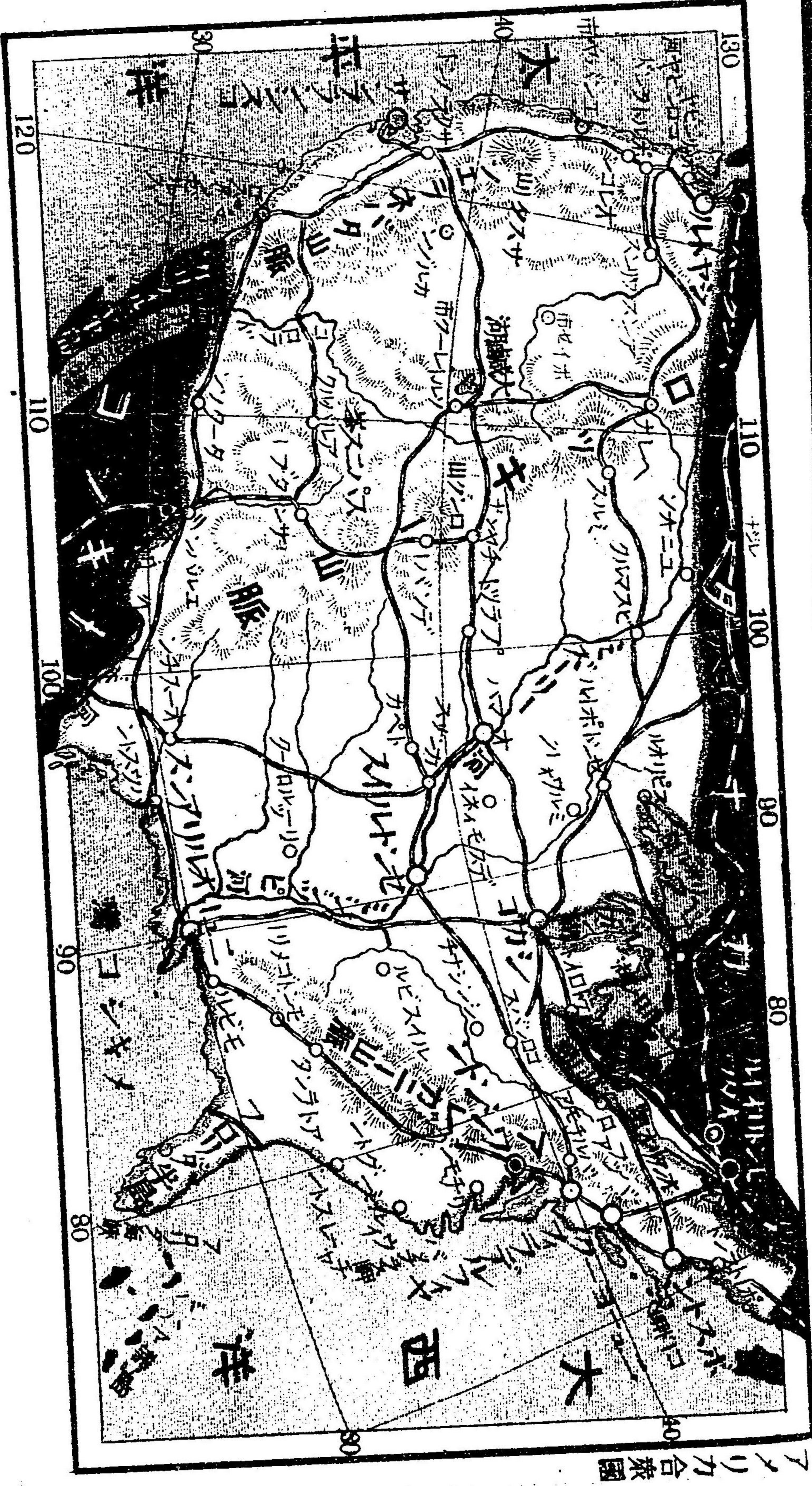
太平洋斜面…カスケード山脈の西側。

海岸…東南…フロリダ半島(墨西哥の口)

河流…ミシシッピ河(長さ千七百哩…世界第一の長流。流域二十万三千方里、大農産地。)

湖…スベリオル湖(五千二百方里)、シンガン湖(三千七百方里)、ヒューロン湖(三千八百方里)







# 亞米利加合衆國

先キの繁華  
盛んなる都  
會にきよき最  
も重要な學  
藝かんじんの  
藝かんじんの  
締結地  
麗はでにう接  
續點つなつた  
在留  
まど

エ  
ン  
タ  
リ  
オ  
湖  
中間  
ナイヤガ  
大島  
東アメリカ瀑  
西カナダ瀑  
世界第二の大瀑布  
高三十町間  
高二十町間  
幅八十町

面積：六十万方里。  
人口：八千四百万人。

住民  
人種：白人：六分の五を占む。  
黑人：アメリカンインディアン。  
自由平等主義、獨立進取の氣象。

區劃：四十六洲の同盟國。

華盛頓  
紐育の南西、市街清潔にして高く、商工業は盛なりと  
いふべからず。  
合衆國の首府、中央政府のある所、日本の大使館あり  
人口は二十四万といふ。

地理科 第一學年……後

第五 共和國の建設

地理科 第一學年……後

紐育 大西洋岸ハドソン河口にあり、世界第二の大都會なり。面積は世界第一、人口は三百五十万。

市俄古 鎮道にて東西兩洋に通じ、交通上極めて樞要(ハブ)の地なり、人口百十萬、明治二十六年にコロンプス世界博覽會を開きて名高し。

桑港 太平洋海岸の良港、人口三十万、世界屈指の港。横濱との間四千八百海里。

ファイヤテ 紐育の南西、第三の大都市にして石油の取引盛なることハ世界第一とす、人口百三十万。

シヤ 合衆國の北西隅。バンクーバーに近し。

セントルイス ミシシッピ河の中流にあり、通商貿易の一大中心、佛蘭西人の建設せし市街なり。

ボストン 紐育の東北、一大商港。

ニユーオールクス 棉花の輸出港。

亞米利加合衆國

建築物 太平洋岸より直ちに大西洋岸に達する長線路數條あり、一千九百一年には八万一千五百三哩に達せり。

中部 農産 麥 世界第一。棉花 世界第一。玉蜀黍、亞麻。家畜類。

下流 農産 金……一億七千万圓。石炭……二億九千万圓。其他(銅、銀)の産あり。

分領 鑛産 世界第一。石炭……一億九千万圓。石油……七百萬石。其他(銅、銀)の産あり。

戴冠 鑛産 世界第一。石炭……一億九千万圓。石油……七百萬石。其他(銅、銀)の産あり。

獨立 製産 時計、機械類、麥粉。

強國 政治 共和利 大統領 四年ごとに改選。

位置 北亞米利加の西北端。金産地 ユーゴン河の上流。露西亞より買ひたる地。

沿革 コロンプスの發見 八百五十八年前。百三十餘年前に獨立す。

○地理科 第一學年……後

西南に接

面す

種

温和

出

絡

地

る

う

ら

○地理科 第一學年……後

第五節

西南に接  
面す  
種  
温和  
出  
絡  
地  
る  
う  
ら

墨西哥

位置 東：墨西哥灣。西：太平洋。南：太平洋、中部諸國。北：亞米利加合衆國。地勢：一般に高原性。南部火山。海岸：良港乏し。南海岸：カリフォルニア半島。東海岸：ユカタン半島。地峽：テワンテペク。東西洋を連絡する鑛道を通ずる要地。河流：リオグランデルテルノルテ河。面積：十三万方里。人口：千四百万。氣候：高地は温和、低地は炎熱。都會：メキシコ。首府、人口三十三万、海面上七千尺の高地。アカプルコ。太平洋岸の開港場。産物 農産：砂糖、實綿、藍、珈琲、米。鑛産：銀（世界第二の名わり）、金、銅、鉄、寶石類。政治：獨立共和國。

墨西哥中央亞米利加諸國。西印度諸島

共和  
國  
領地  
地峽  
今  
大  
近  
年  
分  
領  
産

中央亞米利加

西印度諸島

位置 墨西哥の東南に連る細長き地方。地勢：一般に高原性。火山多く地震多し。面積、人口：墨西哥の四分の一。區劃 五小共和國。グアテマラ。ホンジュラス。サルバドル。ユスタリカ。和國。パナマ。パナマ地峽のあるところ。横斷運河工事中。英吉利領の一殖民地。産物：木材、甘蔗、玉蜀黍、珈琲、染料、香料。政体：獨立の共和國。位置：墨西哥灣口より東南に連る。島：キューバ。最も大なる島なり。元西班牙の領地、近年獨立せり、土地よく開けて農産盛なり。産物：砂糖、煙草を産す。他の諸島：英吉利、佛蘭西、亞米利加合衆國等の分領する所。

○地理科 第一學年……後

○地理科 第一學年……後

**南に連り** **面積** **大平原** **大河流** **有名植物** **森林** **産す**

**位置** 西半球大陸の南部  
 東…太平洋。西…太平洋。  
 南…太平洋。北…北亞米利加。

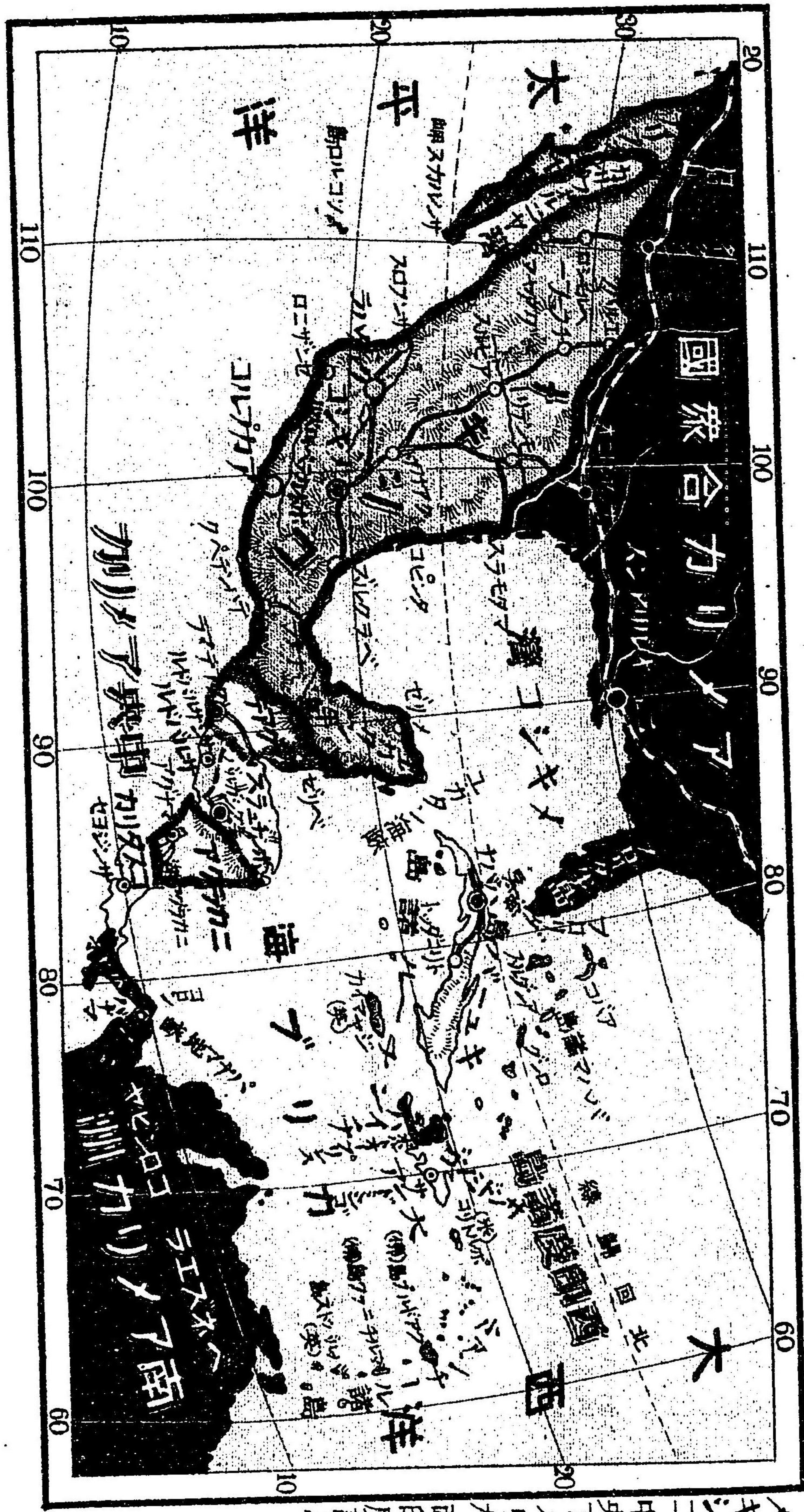
東部、高地…伯刺西爾山脈。

中央平原  
 オリノコ河流域…最小  
 アマゾン河流域…最大  
 ラプラタ河流域…中部

**地勢**

西部、高地…アンデス山脈  
 太平洋岸を南北に走る。  
 最高峰…アコングア峰(二万三千尺)  
 火山多し(最高チンボラツ)  
 東側…緩斜面。  
 西側…急斜面。

面積…百二十万方里。  
 人口…四千餘人。



メキシコ、中央アメリカ、西印度諸島

**第六**

# 南亞米加利洲

移住せし  
 子孫  
 今今  
 獨立  
 多  
 共和國  
 諸國  
 開拓  
 文明  
 諸國  
 注目

○地理科 第一學年……後

## 河流

アマゾン 世界第一大河  
 長さ一千三百七十五里。  
 河口幅二十三里、深六百六十尺。  
 流域四十五万三千五百方里。  
 ラフラタ河 長さ一千七百七十五里。  
 オリノコ河 長さ五百五十六里。

## 氣候

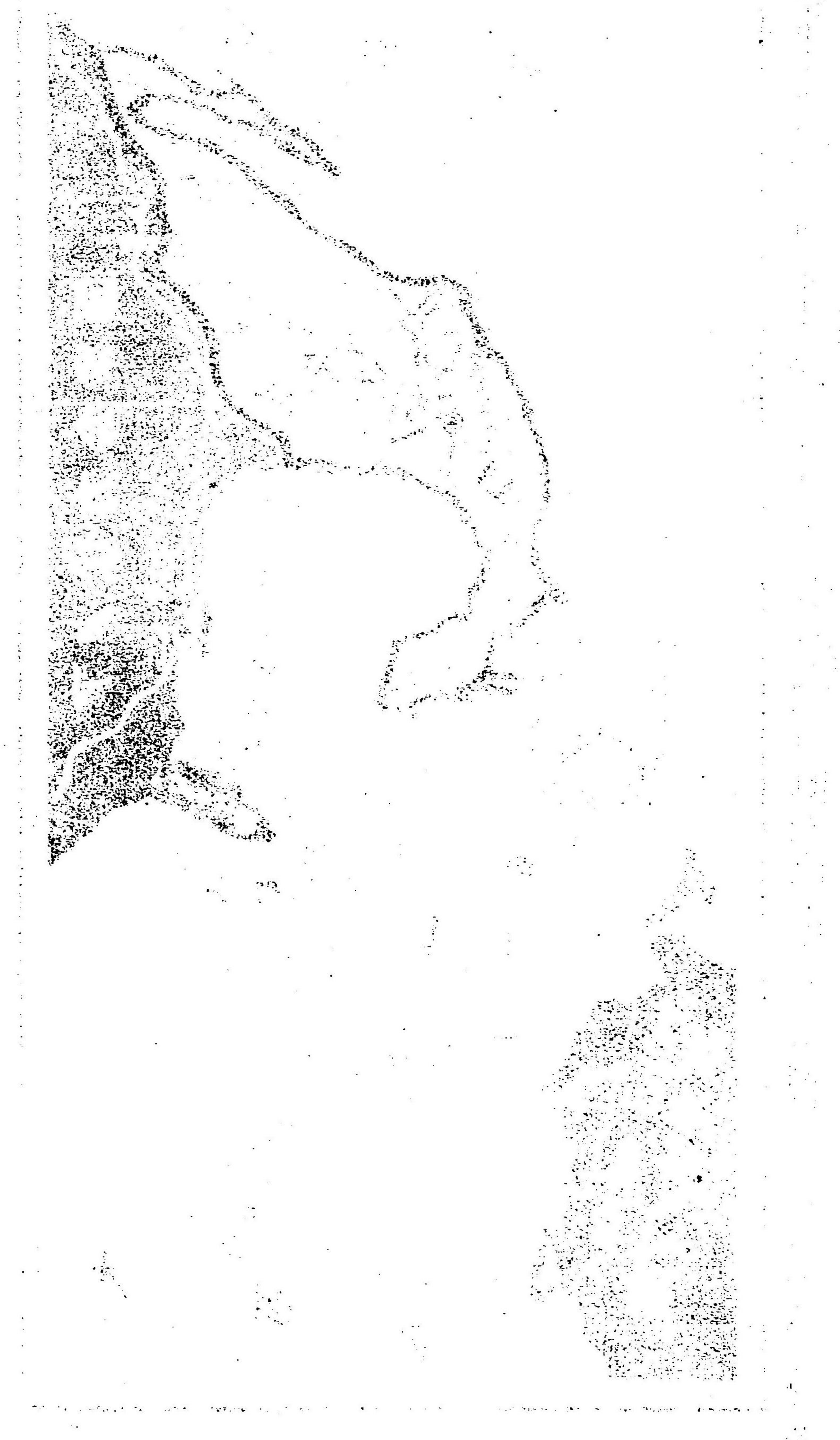
一般に炎熱はなはだし。  
 アンデス山 東側：雨多し。  
 西側：雨少し。

## 産物

植物 材木、キナ樹。  
 珈琲(伯刺西爾の産世界一の稱あり)  
 動物 (コンドル(金鷲)羊、大蛇。  
 鱔魚(ツ)鳥糞(フリン)肥料。  
 産物：金、銀、金剛石、硝石。

## 沿革

もとは多く西班牙、葡萄牙の領地なりしが、今より八九十年前  
 にいづれも獨立したり。



# 第六 南亞米利加洲

高カウチ  
 地いたか  
 東南に  
 接する  
 森林  
 甚だ  
 稀なり  
 産額  
 洋岸  
 港輸  
 出中  
 心著  
 首府

○地理科 第一學年……後

## 比哥亞倫

位置：本洲の北西隅、パナマ地峡にて北亞米利加に連る。  
 面積：七万五千方里。人口：四百万。  
 パナマ地峡（南岸：パナマ港。北岸：コロン港。  
 運河：太平洋大西洋の連絡をなさんとす。

## エベネラ

位置：南亞米利加の北部を占む。  
 面積：六万五千方里。人口：二百三十万餘。  
 首府：カラカス。

## ギヤナ

位置：ベネズエラの東。人口：四十万。

### 區劃

西部：英吉利領。  
 中部：和蘭陀領。  
 東部：佛蘭西領。

### 位置

南亞米利加の中部より東部の大部分。

### 地勢

北西：アンデス山脈  
 東：伯刺西爾山脈  
 中央部：アマゾン流域。



第六

山脈を境としのすま  
 西伯 爾刺  
 面積…五十二万二千六百方里。人口…二千万人。  
 氣候…北部沿岸…アマグン平野…暑氣強く濕氣多し。  
 内地…寒暑の差夥し。南東…温和。  
 首府…リオデシヤ(第一の開港場、人口四万五千)。  
 ネイロ(日本の公使館、總領事館あり)。  
 産物…良材…アマグン流域の平原。  
 珈琲…世界第一、砂糖、ゴム。  
 金…五大金山あり、銀、鉛、金剛石。  
 面積…一万六千方里。人口…三十四万餘。  
 首府…アソンシオン。  
 産物…米、煙草、茶、珈琲、牧畜。  
 位置…本洲の南部を占む、アンデス山脈を境とせり。  
 面積…十八万六千方里。人口…五百万人。  
 地勢…ハンパスの大平原その大部を占む。  
 首府…ブエノスアイレス…南亞米利加第一の都會。

○地理科 第一學年…後

南亞米加利洲

内地ナハシの 西方セイハウ  
 相並アヒナラ 首府シユフ  
 臨ノソ 赤道附近キョウダウフキン  
 高地カウチ 位置チ  
 温和オンワ

○地理科 第一學年……後

〔産物〕羊(世界第三産地) 小麦、亞麻、皮革。

智利 面積……四万八千方里。人口……三百万。

〔首府〕サンチアゴ。産物……鑛産物に富み硝石は本洲第一。

〔位置〕本洲西側の内地。人口……十二万人。

秘露 位置……エクアドルの南方。

〔首府〕リマ。本洲第一の港。産物……金、銀、銅、鉛、砂糖、毛、棉花、米、鳥糞等。

〔位置〕日本との條約國。

グワイ 位置……伯刺西爾の南。面積一万余方里。人口……百餘万。

〔首府〕モンテビデオ。大西洋岸の良港。氣候……温和。農業、牧畜に富む。

ドエクアル 位置……アマゾン河の上流。面積……二万方里。人口……百万。

〔首府〕キトー。海面上九千餘尺の地にあり、四時春の如し。産物……ココア(チョコレートの原料) キナ。

高等 算術科筆算表解 第一學年 後期



字解

單利 複利 利率 期間 利息 借入 借出 一回分 返濟 日歩 拂ふ 何 程 定期 預金 合計

○算術科筆算 第一學年……後

利息には單利法と複利法との二あり、ここには先づ單利の法より説くべし。

すべて利息の計算は、元金、利率、期限の三つによりてなし得べきものにして、利率には、年利と、月利と日歩との別あり。

一割……十分の一、百分の十パーセント即ち10%  
 一歩(又は一分と書く)百分の一即ち一パーセント1%

一厘十分の一十分の一パーセント即ち1%

何分何厘とはいへども、何朱何厘とは稱することなし。

元金高と利率と期限とを知りて利息高を求む。

利率が月利にて、期限がなるときは利率に十二月を乗じ年利として計算すべし。  
 利率が年利にして期間が月なるときは十二月にて割り月利に

法

或人。郵便貯金。下記。換算。翌年。幾月後。差ある。差引。純。但

單利法の原則

注意 變ずべし。期間が年と月と混合せるときは、便によりて月又は年に直し

一 元金と期間と利息とを知りて利率を求む。

二 月利日歩に計算す、但一月は三十日として算す。

三 日歩を月利に計算す、一月は三十日と定む。

四 元金高と利率と利息とを知りて期限を求む。

五 利息と期限と利率とを知りて元金高を求む。

六 元利令計高と利率と期間とを知りて元金を求む。

七 元利令計高と利率と期間とを知りて元金を求む。

○算術科筆算 第一學年……後

### 利 單

各等額 積め ば、月利 貸借 利率 元 利 於て

(1) 元高百九十圓を年利一割一步にて三 年間借るときはその利息何程を拂ふ べきや。

(2) 月利一パーセント二にて九十五圓を 十ヶ月借るときはその利息何程なる や。

(3) 年利率一割二分にて十一月一日より 習年二月二十八日までの間、金四百 圓を貸すときはその利息何ほどを得 べきや。

(4) 百五十圓を貸して二ヶ年間に二十七 圓の利子を得んには年利率何ほどと なるや。

(5) 二十圓を五ヶ月間借りし人あり、期

元高百九十圓(10割利率×期間)＝元金高

(1) 式 答:六十二圓七十錢  
 $190 \times 0.11 \times 3 = 62.70$

(2) 式 答:九圓十二錢  
 $95 \times 0.012 \times 8 = 9.12$

(3) 式 答:十六圓  
 $0.12 \div 12 \text{月} = 0.01$   
 $400 \times 0.01 \times (2 \text{月} \times 2) = 19$

(4) 式 答:九分  
 $27 \div 2 \div 150 = 0.09$

(5) 式 答:八厘

### 法

幾圓づつ 積めば 爲替 爲替 爲替 爲替 爲替

(5) 限に至りて金八十錢の利息を拂へり  
といふ、その月利率は何程なるや。

(6) 左の貸借金に對する利息は如何  
元金九十圓 三ヶ月 元  
元金七十圓 五ヶ月 元  
返濟金の日 十一月末日

(7) 返濟金額元利合計百七十五圓六十錢  
左の年利率を日歩に換算せよ、但一  
年は三百六拾五日とす。

(8) 左の日歩を年利に換算せよ。  
一錢四厘 一割六歩  
二錢一厘  
但し一年は三百六十五日とす。

(5) 式  $0.8 \text{圓} \div 5 \div 20 = 0.008$

(6) 式 答:月利一步二厘  
三月より十一月迄は9月  
五月より十一月迄は7月  
 $175.5 - (90 + 70) \div (90 \times 9 + 70 \times 7) = 0.012$

(7) 式 答:三錢強、四錢三厘  
八毛強、一錢六厘  
 $0.11 \times 100 \div 365 = 0.03$   
 $0.16 \times 100 \div 365 = 0.043$   
 $8 \times 0.0381 \times 10.0 \times 365 = 0.016$

(8) 式 答:五分一厘一毛  
七分六厘六毛五  
 $0.014 \times 365 \div 100 = 0.0511$

利 單  
引手形如何有價  
書留幾ら  
合通替  
要都普  
す

- (13) 四十一錢五厘を拂へりといふ、元金
- (12) 五十錢を得たりといふあり、その元
- (11) 若千の元金を年利一割にて二ヶ年半
- (10) 元金一千二百五十圓を、一ヶ月一
- (9) 元金百六十圓を、年利一割にて借り

式 答

- (13) 式 答...八十五圓
- (12) 式 答...二百圓
- (11) 式 答...二百圓
- (10) 式 答...一年九ヶ月
- (9) 式 答...一年半

法

證券引替  
券面金額  
所定金額  
期日  
三ヶ月  
東支拂  
期日  
現金  
額面

- (15) 一ヶ月の利率を八厘と定め、毎月
- (14) 元金三百圓を貸すに一年六ヶ月の期

- (15) 式 答...二圓
- (14) 式 答...八十五圓

### 單

### 利

計算 期 複利 受取 年 勘定 日 出 歩合 割引

一割六分八厘となる、これ毎月  
の預け金に對する利率の割合な  
り、故に式の如くせばその毎月  
の預け金高を得べし。

内國郵便爲替の種類と、爲替證書一枚の制限高は左の如し。

爲替	料爲替	爲替	爲替
二十圓	三十圓	四十圓	五十圓
六錢	八錢	十錢	十二錢
六錢	八錢	十錢	十二錢
三十錢	四十錢	五十錢	六十錢
三十錢	四十錢	五十錢	六十錢

(1) 普通郵便にて送るときは料金何を  
要すべきや。

(2) 金四十一圓五十錢を通常爲替とし  
書留郵便にて送るときは、料金併

(1) 答：六錢  
式：33=6

(2) 答：三十二錢  
式：22+10=32

### 法

繰入れ 次期 對し 年 期 濟 金 東 複利表 何程の

### 手形及其の割

手形とは有價證券の一にして、それと引替に手形面に記したる金  
高をその證券に記載したる期日に受取るべきものにして、商業取  
引には最も便利なるものなり、その手形には三種あり左の如し。

- 一、爲替手形 振出人と受取人と支拂人との三名之に關係す。
- 二、約束手形 振出人と受取人との二名これに關係す、割引をなすを得るものなり。
- 三、小切手：一覽拂に限るが故に割引をなさずして現金と引換ふ割引とは、その支拂期日以前に銀行に持ち行きて、何はどの金の高を引去りて現金に換ふるものなり、その割引高は通常、その券

(3) 答：六十五錢  
式：45+20=65  
二十錢は電信料なり

利 單

貯金 預金 拂戻 除 月數 應 來年 蓄 年 引 定期預

引面の金高を元金と見做し、支拂期日までを期限として、相當の割引歩合即ち日歩を引去りたるものとす、その計算法左の如し。  
 手形の金高に割引の歩合を乗じ、その日より支拂期日に至るまでの日數を乗じたるものを割引高とす。  
 故に手形の金高よりこの割引高を引去りたる、金高を受取るものとす。

- (1) 手形面の金高百五十圓にして割引の日は十月五日、支拂期日は十一月三十日にして割引歩合は二錢四厘なるとき、その割引高は何程なるや。
- (2) 額面の金高は三百圓にして割引の日は十二月二十日、支拂期日は二月二十八日なるあり、割引歩合を二錢七厘とせば割引高何程。

- (1) 答…二圓一錢六厘  
 式  $150 \times 56 \text{日} \times 0.0024 = 2.016$   
 五十六日は割引の日より支拂期までの日數支拂日は算せず
- (2) 答…三圓五十七錢  
 式  $300 \times 70 \text{日} \times 0.0117 = 24.57$

法

切換 満 期 特別 座預金 附 けす 部 食塩 素 目方 地價 田地 市

問題

- 左の如き手形あり、その手取高を問ふ。
- (3) 約束手形額面二百圓  
 支拂期日 明治四十二年 二月 十日  
 割引の日 割引の日は明治四十二年十一月二十九日  
 割引の歩合は百圓に對して一日一錢八厘
- (4) 左の如き證書の割引を求め、金高百九十八圓七十六錢を受取りたりといふ、その割引歩合を問ふ。  
 金高二百圓  
 支拂期日十二月三十一日  
 割引の日十一月三十日

式 答

- (3) 答 二圓六十二錢八厘  
 式  $200 \times 73 \text{日} \times 0.0118 = 17.128$   
 $8 + 100 = 2.628$   
 七十二日は割引の日より支拂日までの日數
- (4) 答…二錢  
 式  $200 - 198.76 = 1.24$   
 $24200 \times 31 \text{日} = 750200$   
 $200 \times 1.24 \times 100 = 24800$   
 $750200 \div 24800 = 30.25$   
 $30.25 \div 100 = 0.3025$   
 一三九

# 利復

街宅地 有する 地租  
 常特別非  
 法或  
 人月給  
 昇給所得  
 株所得

## 複利法

複利法は一に重利法ともいふ、ある期間毎にその利息を元金に加へて、これを次期の元金とするなり、次第に此の如くするが故に利子は単利法によるより多きを加ふるものとす。

複利法の計算法は左の如し。

$$\text{元金} \times (1 + \text{利率})^{\text{期数}} = \text{元利合計}$$

$$\text{元利合計} - \text{元金} = \text{利息}$$

この式中に(期間)として肩に小く書きしは、例へば三年間貸して一年毎に利子を元金に加ふるときは、三回となるべし、その三回を稱したるものにして、 $(1 + \text{利率})$ を三回自乗したるもの意なり、この自乗することを累(べき)ともいふ、二乗累とは二度自乗すること三乗累とは三度自乗すること、以下右の如くするの謂ひにして單に二乗又は三乗四乗等ともいふことあり。

その他は單利の法に倣ふべし。

左に一例を示すべし。

元金三百五十圓を年利一割にて、一年毎に利子を元金に繰入る

## 法

残金 配當 廻り 當  
 半期決 算  
 更に 追加 建て 保 險  
 歩合

算術科筆算 第一學年……後

るときは、四年目の末には元利何ほととなるや。

答: 350 × (1 + 0.1)<sup>4</sup> = 512.435圓

式: 元金 元金率 利率  
 1.331 × 1.1 = 1.4641, 350 × 1.4641 = 512.435圓

(1)	(2)
元金百五十圓を、年利九分の定 め、一年毎に利息を元金に 加ふるの約束を以て貸すときは	後分五厘にて貸借するあり、五年 の元金を問ふ。
式 答 150 × (1 + 0.09) <sup>3</sup> = 194.254	式 答 500 × (1 + 0.045) <sup>5</sup> = 623.091
答 百九十四圓二五錢四厘	答 三百十九圓〇七錢二厘

**複利**  
 附し 要する 資本金 商業を 営みしよる 得たり 諸費 引去れ 純益

**問題**

- (3) 割の定めにて半年目毎に利子を元金に繰入ることとせば二年半の後に、その元利金合せて何程となるべきや。
- (4) 元金四百五十圓を、年利八分の定めにて借り一年目毎にその利息を元金に加ふる約束なりとせば、二年九ヶ月目にはその元利何程なるべきや。
- (5) 元金六百圓を年利六朱の割にて一年目毎にその利息を元金に繰入ることとせば八ヶ年目の後に至りて、その元利金合して何程となるべきや。

**式答**

(3) 式  $250 \times (1 + 0.05)^5 = 312.5$   
 答 三百一十二圓五錢

(4) 式  $450 \times (1 + 0.08)^2 \times (1 + 0.06) = 556.371$   
 答 五百五十六圓三十七錢

(5) 式  $600 \times (1 + 0.06)^8 = 956.16$   
 答 九百五十六圓三十一錢九厘

**法**

蜜柑。腐敗。幾箇。幾何を得。附かざる。單利。幾年後。或人。振出。持ち行

- (6) 二箇年間貸したるに、一年毎に元金を元金に加ふるの約束をなしたり二年目の終りに元金三百三十七圓八錢を得たり、元金を問ふ。
- (7) 年利率六分の定めにて金若干圓を預け、半年目毎に利を元金に繰入るべし約束をなせば三年の後に至り五百圓の元利を得んに何ほどを預くべきや。
- (8) 元金一百圓に對して一年毎に利子を元金に繰込め、年利率を一分とし、期限を三箇年とするときはその差何ほどなるや。

(6) 式  $337.08 \div (1 + 0.06) = 300$   
 答 三百圓

(7) 式  $500 \div (1 + 0.03)^6 = 418.80$   
 答 四百十八圓八十錢

(8) 式  $100 \times (1 + 0.1)^3 = 133.1$   
 $100 \times 0.1 \times 3 = 30$   
 $133.1 - 30 = 103.1$   
 答 複利三圓十錢多し

利

複

算術科筆算 第一學年……後

○現金  
○繰入金  
○貯金  
○算期  
○海軍  
○死傷

○郵便  
○貯金  
○算期  
○海軍  
○死傷

金預と金貯

郵便貯金は一年の利率を五分四毛とす。毎年一回三月末日に利息を元金に繰込む。預入の月の端数は預からず、又十銭以下の端数に利子を附せず。銀行の預金には當座預り定期預りの二種あり、當座預りは何時にても引出すことを得、定期預りはその定めたる期限に引出すことを得るものとす。利率は時によりて上下することあり。

- (1) 本年七月より毎月金三圓づつ郵便貯金となさば、翌年三月の計算期に至り、その預金高何ほどとなるべきや。
- (2) 今年四月に始めて一圓五十銭を郵便貯金となし、その後毎月同額を預けたるに同年の十二月に

- (1) 答 六厘  
式 單利法問題第十五の例に依るべし
- (2) 答 十三圓六十八錢九厘  
式 前の例によるべし

法

算術科筆算 第一學年……後

○負傷  
○死者  
○歩合  
○死亡  
○傷重  
○傷輕  
○計す  
○我軍  
○於ける

題問

- (1) 残らず引き出すときは金何ほどを得べきや。
- (2) 去年の三月に金三十圓を郵便預金となしたるものより五ヶ年の後の計算期には元利合せて何ほどとなるや。
- (3) 金二百五十圓を年利五分六厘の定めに満一ヶ年定期預けとなさばその元利何ほどなるや。
- (4) 本年三月五日に金四百圓を定期預けとなし、期限十ヶ月とする時は利金何程、但し年利四分八厘は一日より十二月三十日まで預くる時は元利何ほどなるや。

式答

- (1) 答 三十八圓三十六錢  
式  $30 \times (1 + 0.0504) 5 = 38.362$
- (2) 答 二百六十四圓  
式  $250 \times (1 + 0.056) = 264$
- (3) 答 十六圓  
式  $400 \times \frac{0.048}{12} \times 10 = 16$
- (4) 答 八十一錢  
式  $\frac{50}{100} \times \frac{18}{1000} \times 90 = 81$
- (5) 答 八十一錢  
式  $\frac{50}{100} \times \frac{18}{1000} \times 90 = 81$
- (6) 答 八十一錢  
式  $\frac{50}{100} \times \frac{18}{1000} \times 90 = 81$



### 比

**字解** 比は二つの数の間にある関係を示す。例として、甲の数が乙の数の二倍であるとき、甲と乙の比は2:1と表す。このとき、甲の数を2、乙の数を1とすると、甲の数は乙の数の2倍であることがわかる。また、乙の数を2、甲の数を1とすると、乙の数は甲の数の2倍であることがわかる。したがって、比は二つの数の間にどのような関係があるかを表すものである。

比とは、甲の数は乙の数の何倍になるか若くは何分の何程なるかといふ、その二つの数の関係を甲の数の乙の数の比に對する比と稱し、乙數にて甲數を割るをいふ、例へ

甲數 乙數 乙數に對する比

(1) 6 3  $\frac{6}{3} = 2$

(2) 9 6  $\frac{9}{6} = 1\frac{1}{2}$

即ち甲數の乙數に對する割合を知るべし平たくいへば六は三の二倍にして二の九圓は六圓の一倍二分の一なるを知るが如し甲の數が乙の數に對する割合を、乙の數が丙の數に對するを知りて甲の數が丙の數に對する割合を求めんとするときは、左の例によるべし。

例 甲乙の比 乙丙の比 甲丙の比 即ち  $2 \times 4 = 8$

解 甲乙の比  $2:1$  乙丙の比  $4:2$  丙乙の比  $2:1$  同し

式によれば  $\frac{2}{1} \times \frac{4}{2} = \frac{8}{1}$  にて即ち  $8 =$  甲丙の比なるを知るべし

### 例

表しあら等 異 種 或 値 任意 缺ける 補へる 働 備 木綿 織 終る 修繕

### 例比正

正比例とは一方が二倍三倍になるときは、他の方もまた二倍三倍となることにて、例へば一本の筆が三錢なるときは二本の筆は六錢となるが如くその本數が二倍になるとより、金高もまた二倍になるが如し。

例 醬油三升の價七十五錢なるときは、同じ醬油五升の價は何は

答 一圓二十五錢

解 五升は三升の  $\frac{5}{3}$  なり、故にその價は七十五錢の三分の五

なれば  $75 \times \frac{5}{3} =$  一圓二十五錢たるを知るべし。

七十五錢を三升にて割り、一升の價を求めて五升を乗するも理は一なり。

正比例算式は左の例によるものとす。

式 醬油の量(甲) 3升 5升

その價(乙) 75錢 25錢

$$\frac{3}{75} = \frac{5}{x} \Rightarrow x = \frac{75 \times 5}{3} = 125 \text{ 錢}$$

比

要する切 距離 種運貨物 柑率速借地 直徑 周

例比正

- (1) 大工を雇ひて七日間に五圓二間の賃錢は何程なるや。
- (2) 縮緬友染七尺の價は三圓〇一錢なりといふ、同じ割合の縮緬二丈八尺を買ふときはその價は何となるや。
- (3) 一時間に一里八町を行くとせば五十哩の道を行くには何時を要すべきや。
- (4) 二百斤の運賃が一圓二十錢なりといふときは七貫二百匁の運賃は何ほどを要すべきものなるや。

- 答
- (1) 答…七圓五十錢  
式  $7:525 \quad x=750$
  - (2) 答…十二圓四錢  
式  $7:301 \quad x=1204$
  - (3) 答…十七時弱  
式  $1:08.1 \quad x=17$   
 $14.75 \times 50 : x$   
里數を町數に通す
  - (4) 答…二十七錢  
式  $(200 \times 160) : 12 : x$   
 $7200 \quad x=27$

例

殆んど 等し 圓形 馬場 周圍 晝夜 割合 後 行

題問

- (5) 一坪につき二十三圓の割にて某の地所を買ふべき約束をなせしにその地は間口七間奥行十一間ありといふ、賣買何程
- (6) 七十五圓を借りて一年間に九圓七十五錢の利息を拂ひたりといふ同じ利率にて三百圓を借し時の一ヶ月の利息を問ふ
- (7) 三斤につき六十六錢の砂糖は四半斤につき何程なるか。
- (8) 圓周と圓徑との比は三尺一寸四寸と一尺とに等し圓徑二尺五寸の盤の周邊は何程か。
- (9) 職工三日にして二丈八尺を織る時は五反織るには何日を要す

- 式
- (5) 答…千七百七十一圓  
式  $1 : 23 \quad x=1771$   
 $(7 \times 11) : x$
  - (6) 答…三圓二十五錢  
式  $75:975 \quad x=13$   
 $330 : x$
  - (7) 答…五錢五厘  
式  $3:66 \quad x=5.5$   
 $1 : x$
  - (8) 答…七尺八寸五分  
式  $1:3.14 \quad x=785$   
 $2.5 : x$
  - (9) 答…十五日  
式  $28 : 15 \quad x=15$   
 $28 \times 5 : x$

字解 反比例 なるやりの要す 織上げ 耕す 枚 乗れば 自轉車 俵 毎回 果 額 支

反比例例

反比例とは正比例の反對にして、即ち一方が二倍三倍となるときは正比例の如く他の一方も二倍三倍とならずして、却て二分一又は三分の一となるものをいふ。

その例と式とを示すこと左の如し。

八人にてなすときは十五間にて出來得る事業あり、これを十人にて成さば何日にて終るべきや。 答十……一日

$$\frac{8}{10} = \frac{15 \times 1}{x} = 12H$$

(1) 大工が受負工事をなすにわたり五千人を使用して三十日間になりす豫定なりしにその期日を二十日間短縮せば何人を使用すべきや。

(1) 答……七十五人

$$\frac{30}{20} = \frac{50}{x} = 75$$

例

へ得べき 糧 小遣 錢 貫ひ 平均 節約 貯蓄 持株 干日 仕七げ 職工

反比例例問題

- (1) 一日に十五枚づつ書くときは八日に寫し終るべき書物を十日間に寫さんとして一日何枚づつ寫すべきや。
- (2) 長さ九間幅十二間長方形の地ありこれと同じ面積にして長さを十八間にせんにはその幅は何程なるや。
- (3) 兵士六百四十八人を若干日の間一日六合の割にて支へ得べき糧米ありしに俄に二百十六人増したり一日何程の割にせば同じ日數を支へ得べきや。
- (4) 十五づつ三十人に分配すべき柿を四十五人に分けんに一人何程

答式

(1) 答……十二枚

$$\frac{8}{10} = \frac{15 \times 1}{x} = 12$$

(2) 答……六間

$$\frac{9 \cdot 12}{18} = \frac{9 \times 12}{18} = 6$$

(3) 答……四合五勺

$$\frac{648 \cdot 6}{216} = 4.5$$

(4) 答……十箇

$$\frac{30 \cdot 15}{45} = 10$$

(5) 答……

$$\frac{30 \times 15}{45} = 10$$

比

日事要ヨになん うける きんの りる 乗車海詰ツ字サ  
チ事すオウん する あ んの ヌカ 〇 〇 〇 〇  
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
若干 距離 幾人 出成 里度 影 字 解

問題例比反例比正

- (1) 八日間には十反を織る工女あり、十三日間には何丈を織るや。
- (2) 三メートルは一丈より一寸短しといふ、五丈五尺は幾メートルなるや。
- (3) 四斗俵千二百六十俵を残らず四斗二升入たせば何俵となるや。
- (4) 茶五十斤を一斤につき八錢づつ、の利をえて賣りたると同も高の利を、四十斤を賣りて得んとするには、一斤何程の利を得るや。
- (5) 間口十間奥行十二間の地面ありこれと同じ面積にて奥行を八間となさんには、その間口は何間となすべきや。

式答

- (1) 答：四十五丈六尺  
式  $8:10 \times \frac{28}{28}$   
 $13: x$  反比
- (2) 答：十七メートル  
式 九十九分の二十三
- (3) 答：千二百俵  
式  $4:1260$  反比  
 $42: x$
- (4) 答：十錢  
式  $50:8$   
 $40: x$   
 $\frac{50 \times 8}{40} =$
- (5) 答：十五間  
式  $12:10$   
 $8: x$   
 $\frac{12 \times 10}{8} = 15$

例

字 解  
按分 對應 幾何 子部 配夫 金配 配當

例比分按

按分比例とは、ある一數を二つ以上の等差ある數の比例によりて分配することをいふ。

例へば、一圓を二と三と五とに比例する分部に分配するときをいふ。その運用は使用すること甚だ多し。

この算法は、後の等差の數を合せたるものを公分母とし、その各數を分子とするとその分の數を、前の一數に乘するものとす。

前の例によりて説くとすは。

$2+3+5=10$  これを公分母とす。而して  $2 = \frac{2}{10}$ 、 $3 = \frac{3}{10}$ 、 $5 = \frac{5}{10}$

例  $1:1 \times \frac{2}{10} = 0.2$ 、 $1 \times \frac{1}{10} = 0.1$ 、 $1 \times \frac{5}{10} = 0.5$

即ち  $1:10$ 、 $2:10$ 、 $5:10$  なることを知るべし。

この各分數を合すときは  $1$  となることを知るべし。

(1) 金五百圓を三子に分配せんとす。長子二百四十圓、次子百六十圓、三子百圓とするときは、三子の得る所各何

答：長子二百四十圓、次子百六十圓、三子百圓

式  $12+8+5=25$   
 $500 \times \frac{12}{25} = 240$

**比**  
 分載の...  
 開業後...  
 のち...  
 に...  
 その...  
 を...  
 廉にて...  
 る...  
 その...  
 る...  
 に...  
 得...  
 高...  
 賃...  
 何...

按分比例例問題

(2) 東西南北四村の共同にて道路を修繕し金三千七百六十圓を負擔し各村の戸數に應じてその出費を定めんとせば、各村の戸數を定むるとせよ、東村は戸數三百二十五戸、西村は戸數二百七十八戸、北村は戸數二百九十八戸、南村は戸數二百八十八戸とす。

(3) 男子十二人と女子九人を備ひて賃金を合せて十圓三十二錢を拂ひたり、男女各人の賃金は七と五との如しといふ、然るときは男女各一人について得る所の賃金は、何程のつづなるべきや。

答式

(2) 東...千三百圓  
 西...五百五十六圓  
 南...千百五十二圓  
 北...七百九十二圓  
 $325 + 139 + 278 + 193 = 940$   
 $3760 \times \frac{325}{940} = 1300$   
 ...東村

(4) 男...五十六錢  
 女...四十錢  
 $7 \times 12 = 84$   
 $5 \times 9 = 45$   
 $84 + 45 = 129$   
 $1032 \times \frac{129}{7} = 56...$   
 ...男子

高等  
 小學

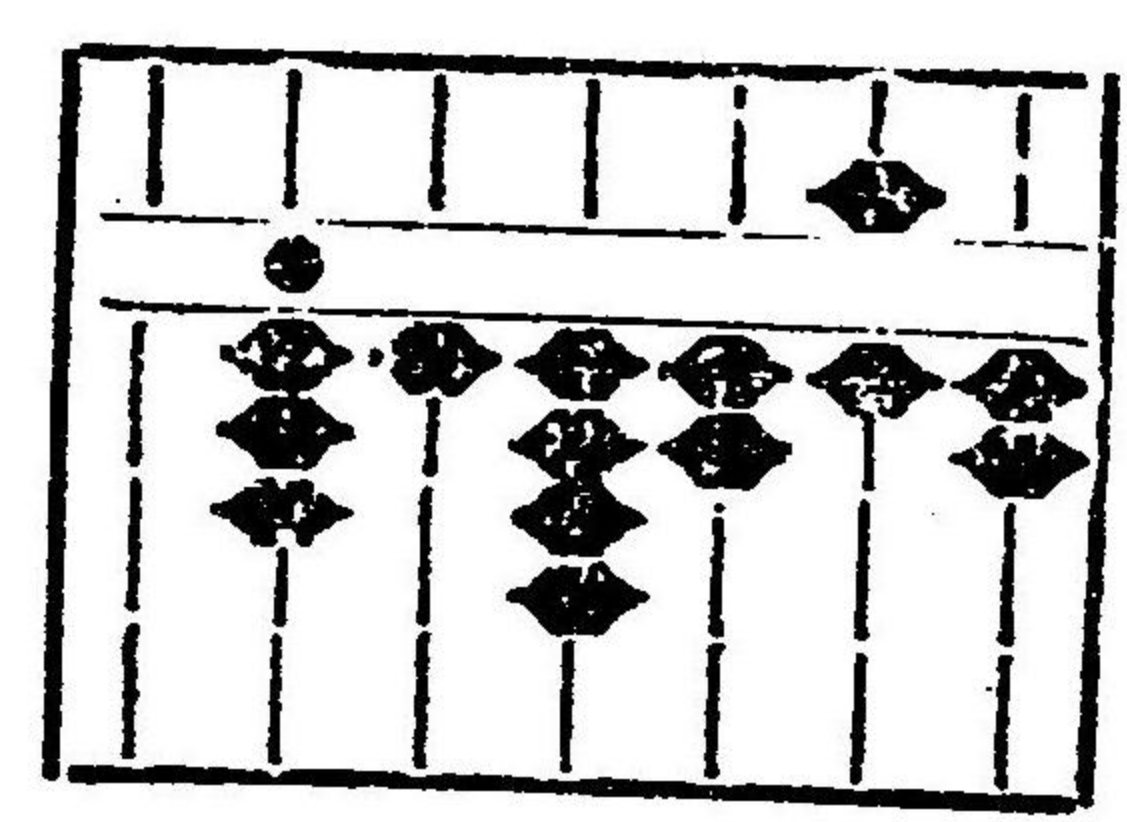
算術科珠算表解

第一學年  
 後期

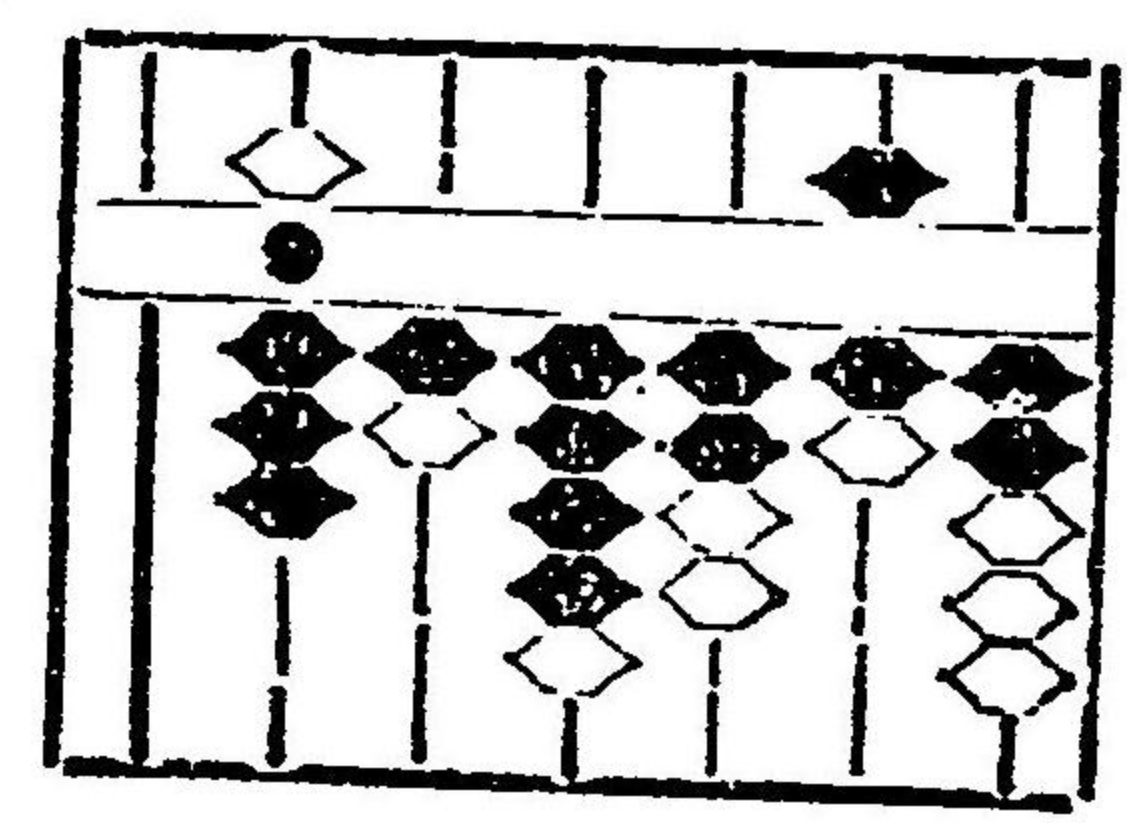
○諸等加法

諸

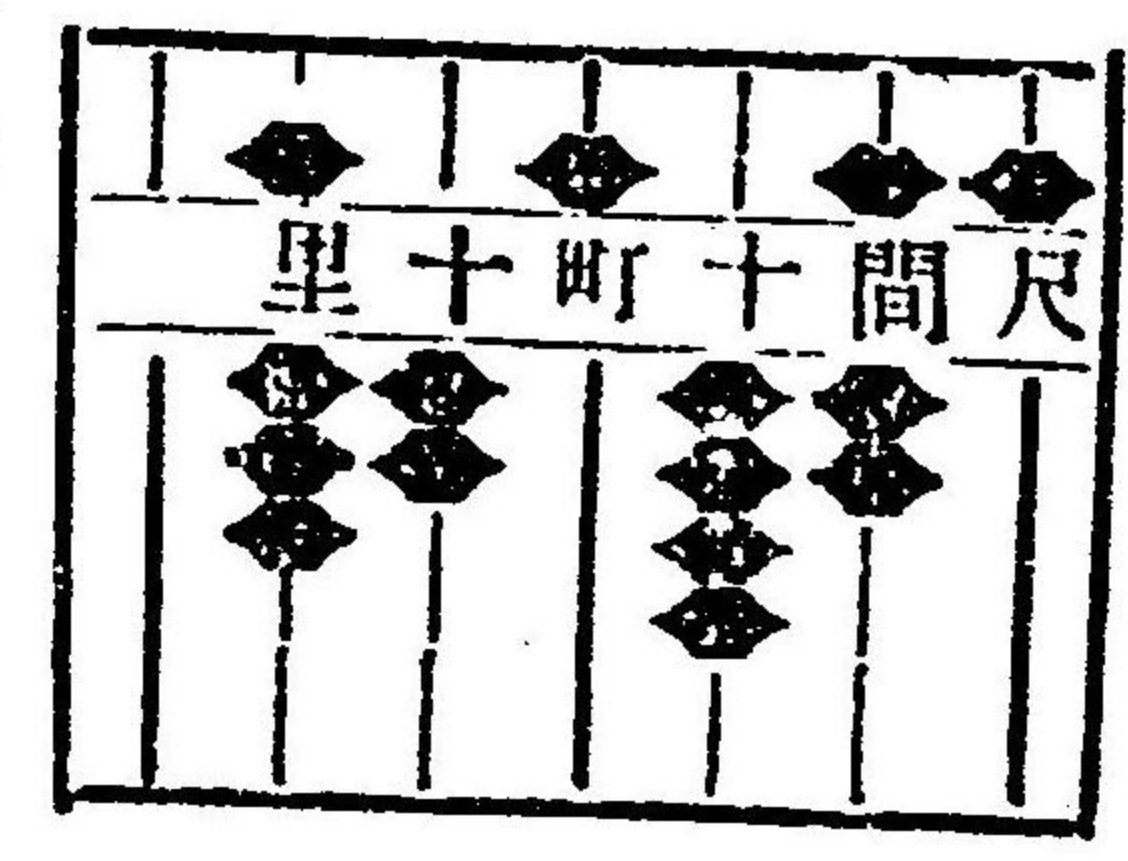
諸等の加法には、その加へしときに、一單位の數が上の位に繰り上るべきこと  
多し、この場合にはその都度(〇)これを繰り上ぐべきものとす。  
例：三里十四町二十六間二尺に五里十一町二十一間三尺を加ふるときは如何。  
答：八里二十五町四十七間五尺



かくの  
如く先  
づ布算



次の數  
を加ふ  
るとき  
は此の  
如くな  
る即ち



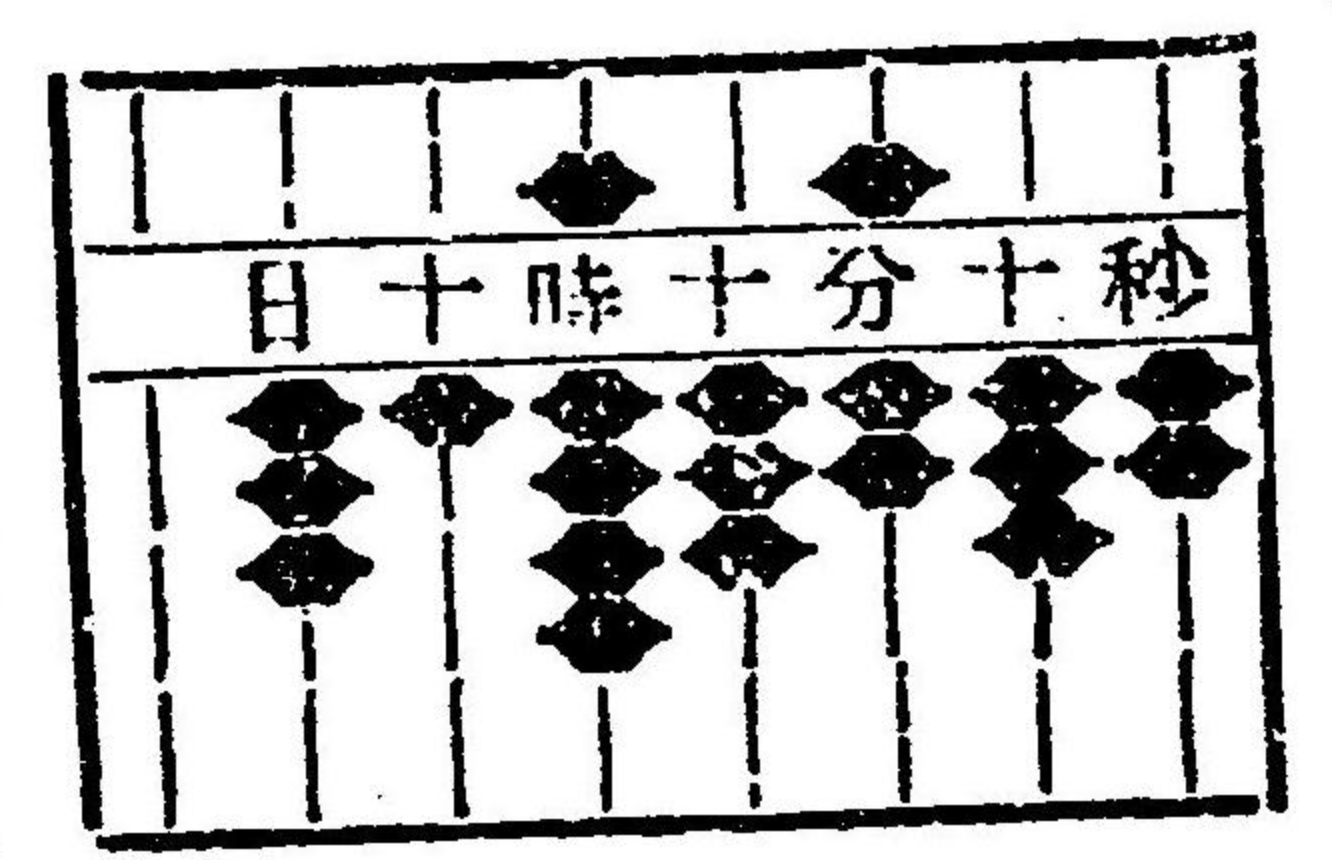
となる  
なり。

等

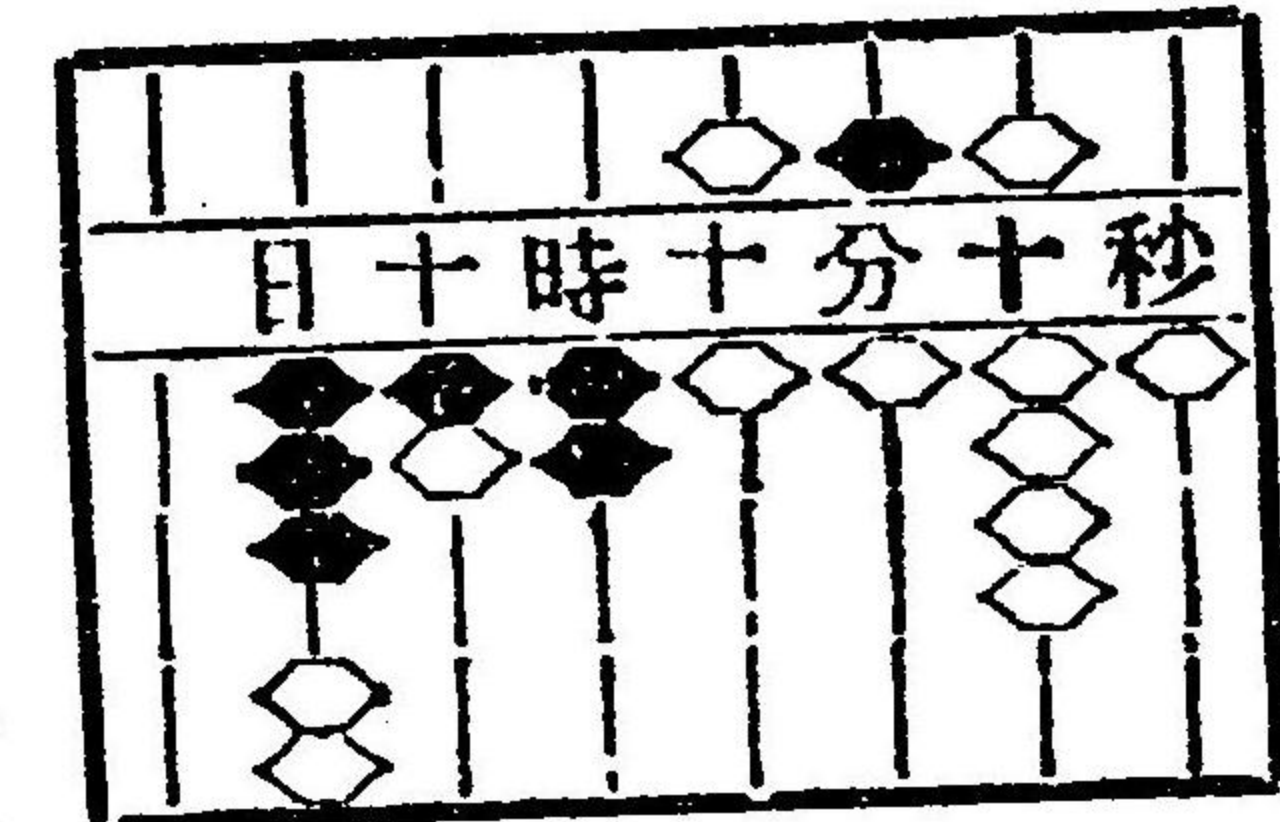
これは上に繰りあがる數なきがために、極めて平易なるものなれども、若し、  
町數が三十六町以上になり、間數が六十間以上となるが如きことあらばこれを  
里又は町に繰り上げざるべからず、その例は次の如し。

加

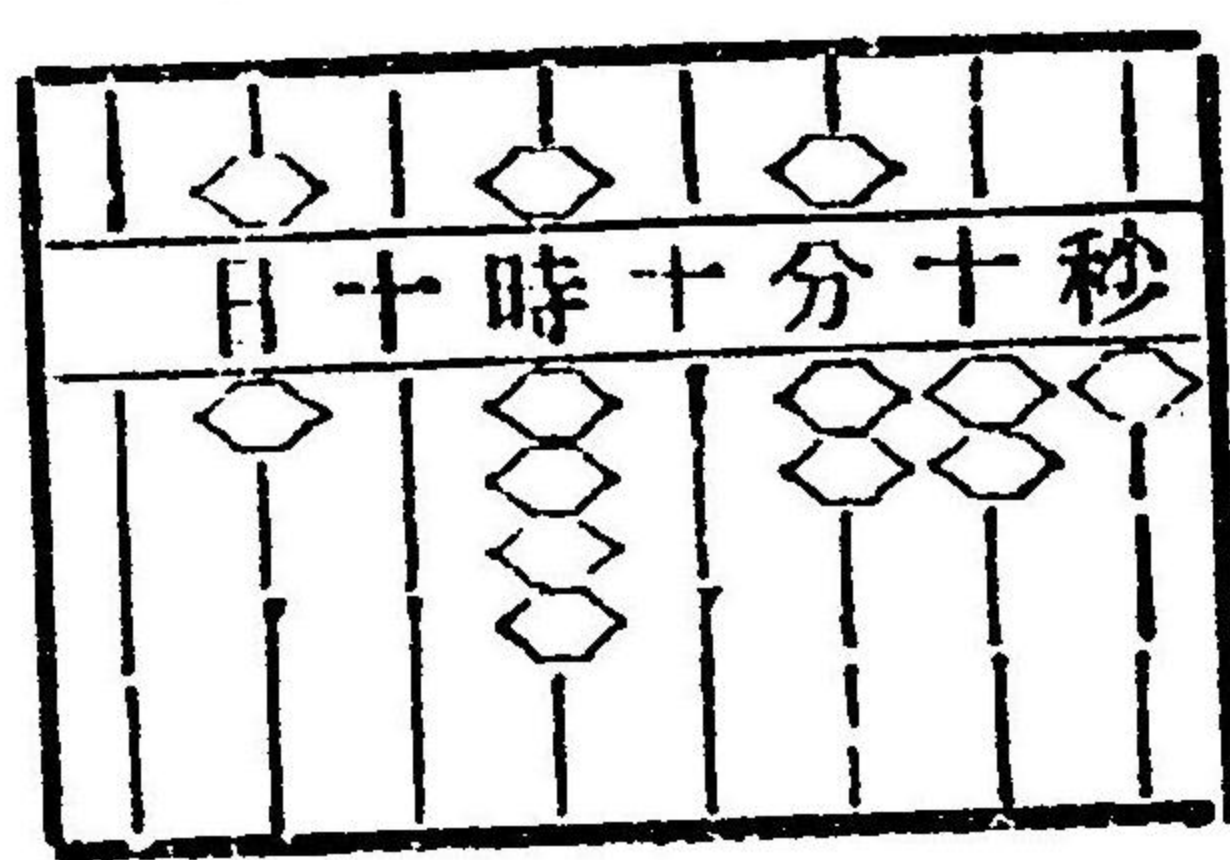
例：三日十九時三十七分四十二秒と二日十三時二十九分三十九秒との和は如  
何。  
答：……六日九時七分二十一秒



に二日  
三十三時  
三十九分  
九秒を加  
れば



となる、一日は二十四時な  
れば三十二時となり一日に  
直に二十四時をとり一日に  
に二十四時をとり一日に  
れば二十四時をとり一日に  
一は六十分をとり一分は  
も六十分をとり一分は  
り六十分をとり一分は



法

これを諸等の加法において上の單法に繰り上ぐべきの例とす、すべて十進法な  
らざるもの加法は皆この例によるべし、而してその都度に上の位に繰り上げ  
ざるときは、後に至りて大なるあやまりを生ずることあるものなり、尙は次の  
加減法を參看すべし。

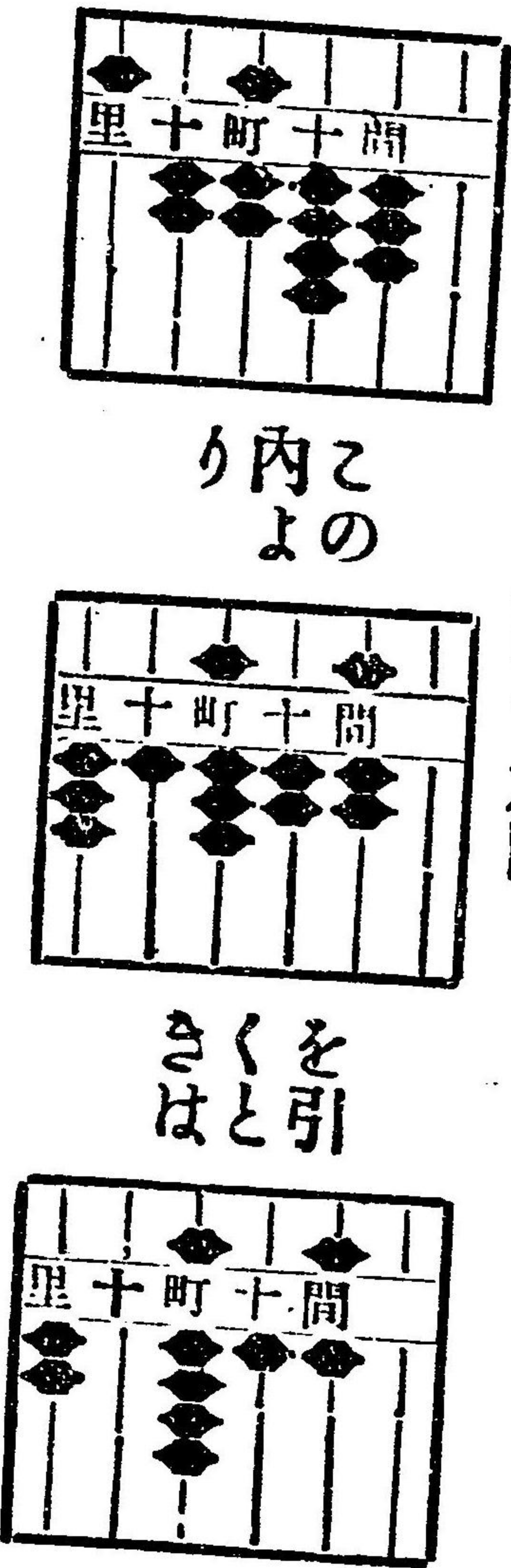
諸

○諸等減法

諸等の減法も、被減數より減數をそのまゝに減することを得るときは、別にむつかしきことなれども、例へば十町より五町をひくに普通の減法と同じけり。ど一町より三十五間を減するに、百の内より三十五を減するが如くすることを得ず、何となれば一町は六十間より成るものなれば、一町より三十五間を減するには六十間より減せざるべからざるが如し、これ諸等の減法において注意を要するところなりとす。

例…五里二十七町四十三間より三里十八町二十七間を減せば如何。

答…二里九町十六間



この内のりよ

を引るときは

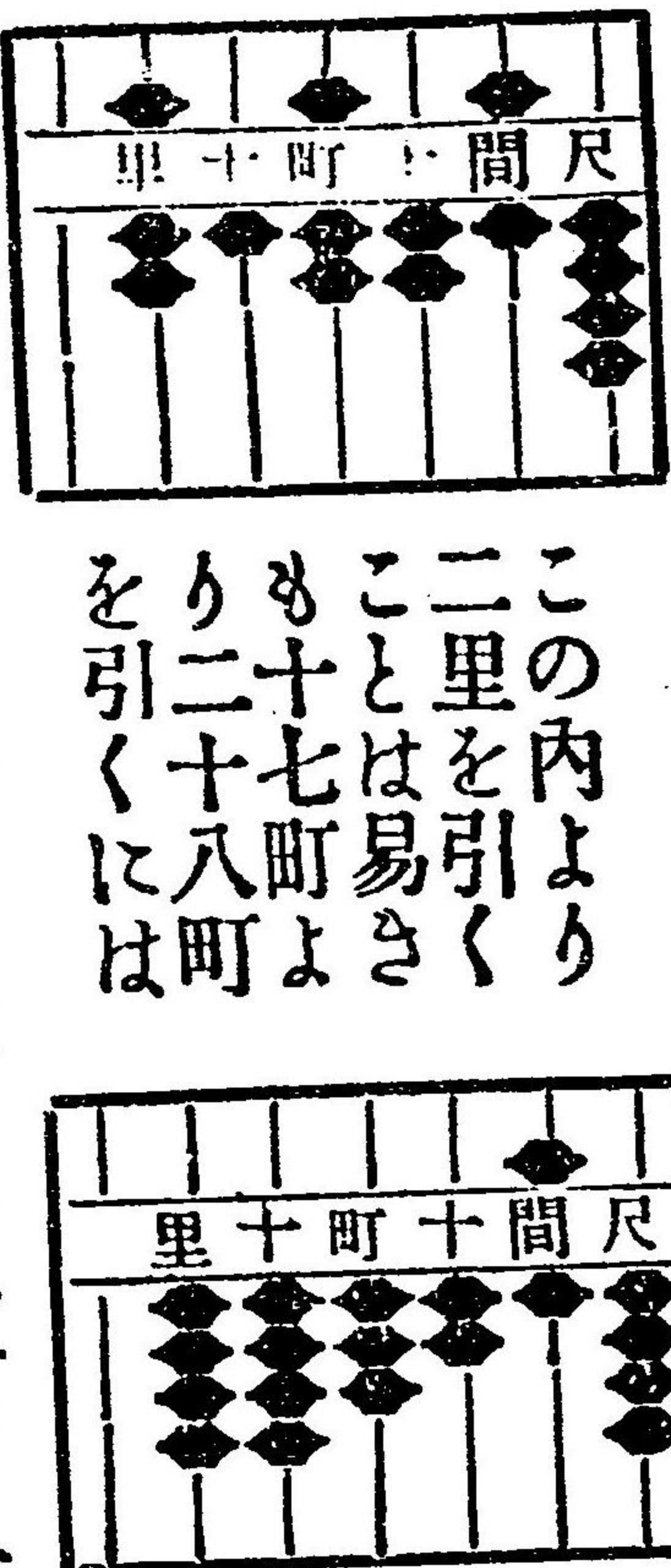
となるべし、これは別にくり下げることなくして他の十進法の減法とは異なることなし。

減

例…七里十七町二十六間四尺より二里二十八町三十七間五尺を減すれば何は

どとなるや。

答…四里二十四町四十八間五尺



この内より二里を引くことは易きも十七町より二十八町を引くには

とし、すなはち七里より二里を引き、残り五里の内一里をとりて三十町に、これを次の単位たる十町に、これを引くなり、さすれば四十町二十八町となる、しかり、これに引かれぬため、十六間より三十七間は引かれぬため

法

一町をとりて二十四町とし、この一町を六十間にかへて二十六間に加へ八十六間としてその内より三十七間を引くべし、すなはち四里二十四町四十九間となる、然れども次の單位の四尺より五尺を引くを得ざるため、これも四十九間を四十八間とし四尺の上に六尺を加へてその内五尺を減すべし、即ち答數四里二十四町四十八間五尺となるなり。

○算術科珠算 第一學年……後

高等  
小學  
理科  
表解

第一學年  
後期

諸等加減問題

$$\text{五} \left\{ \begin{array}{l} \text{町} \text{段} \text{畝} \text{步} \\ 8 \quad 7 \quad 6 \quad 13 \\ +2 \quad 9 \quad 8 \quad 21 \end{array} \right. - \left\{ \begin{array}{l} \text{里} \text{町} \text{間} \text{尺} \\ 3 \quad 28 \quad 32 \quad 3 \\ +5 \quad 19 \quad 29 \quad 4 \end{array} \right.$$

$$\text{六} \left\{ \begin{array}{l} 9 \quad 0 \quad 8 \quad 21 \\ +2 \quad 9 \quad 3 \quad 12 \\ -8 \quad 7 \quad 9 \quad 23 \end{array} \right. = \left\{ \begin{array}{l} 4 \quad 19 \quad 48 \quad 3 \\ +5 \quad 28 \quad 39 \quad 4 \\ -7 \quad 23 \quad 51 \quad 5 \end{array} \right.$$

$$\text{七} \left\{ \begin{array}{l} \text{碼} \quad \text{呎} \quad \text{吋} \\ 6 \quad 1 \quad 8 \\ +5 \quad 2 \quad 9 \end{array} \right. \equiv \left\{ \begin{array}{l} \text{日} \quad \text{時} \quad \text{分} \quad \text{秒} \\ 4 \quad 11 \quad 51 \quad 43 \\ +7 \quad 19 \quad 35 \quad 24 \end{array} \right.$$

$$\text{八} \left\{ \begin{array}{l} 3 \quad 2 \quad 7 \\ +11 \quad 1 \quad 10 \\ -8 \quad 1 \quad 9 \end{array} \right. \quad \text{四} \left\{ \begin{array}{l} 11 \quad 11 \quad 11 \quad 11 \\ -9 \quad 19 \quad 38 \quad 42 \\ +2 \quad 0 \quad 8 \quad 9 \end{array} \right.$$

	答		答
五	11町7段5畝4步	—	9里12町2間1尺
六	3町2段2畝10步	二	2里24町36間2尺
七	12碼1呎5吋	三	12日7時27分7秒
八	6碼2呎8吋	四	3日15時10分38秒

○算術科珠算 第一學年……後



### 唧

#### 一、其理

ポンプは前學期において示したる排氣機(キキ)の理によるものにしてこれをすべて氣體器械といふ、ともに空氣の壓力によりて活用するものとす。

#### 二、構造

其の構造は、活塞と瓣(びん)と、その底に通せる長さ管によりて製したるものにして、作用はその種類によりて異なりといへども、要するにいづれの種類にても、その大體の理は同じことなり、先づその種類によりてこれを示さん。

#### 吸上ポンプ

活塞を上ぐるときは、筒の下部は全くカラとなりて、その瓣はち、水はと外氣の壓力のためにおしあげられ、一方の瓣とひらきて筒の下部にみち、つぎに活塞をおし下ぐるときは、その瓣は閉ちて前の瓣がひらき、活塞の上の方にうつり、ふたたび引き上るときは、ひらきし瓣が閉ちて水ははじめて一方の口より流れ出るなり、而してこの間たえず活塞の上下をつづくるが故に、水は間斷なくその口より流出すものとす、その理解は次の消火用ポンプの圖を見れば知らるべし。

### 筒

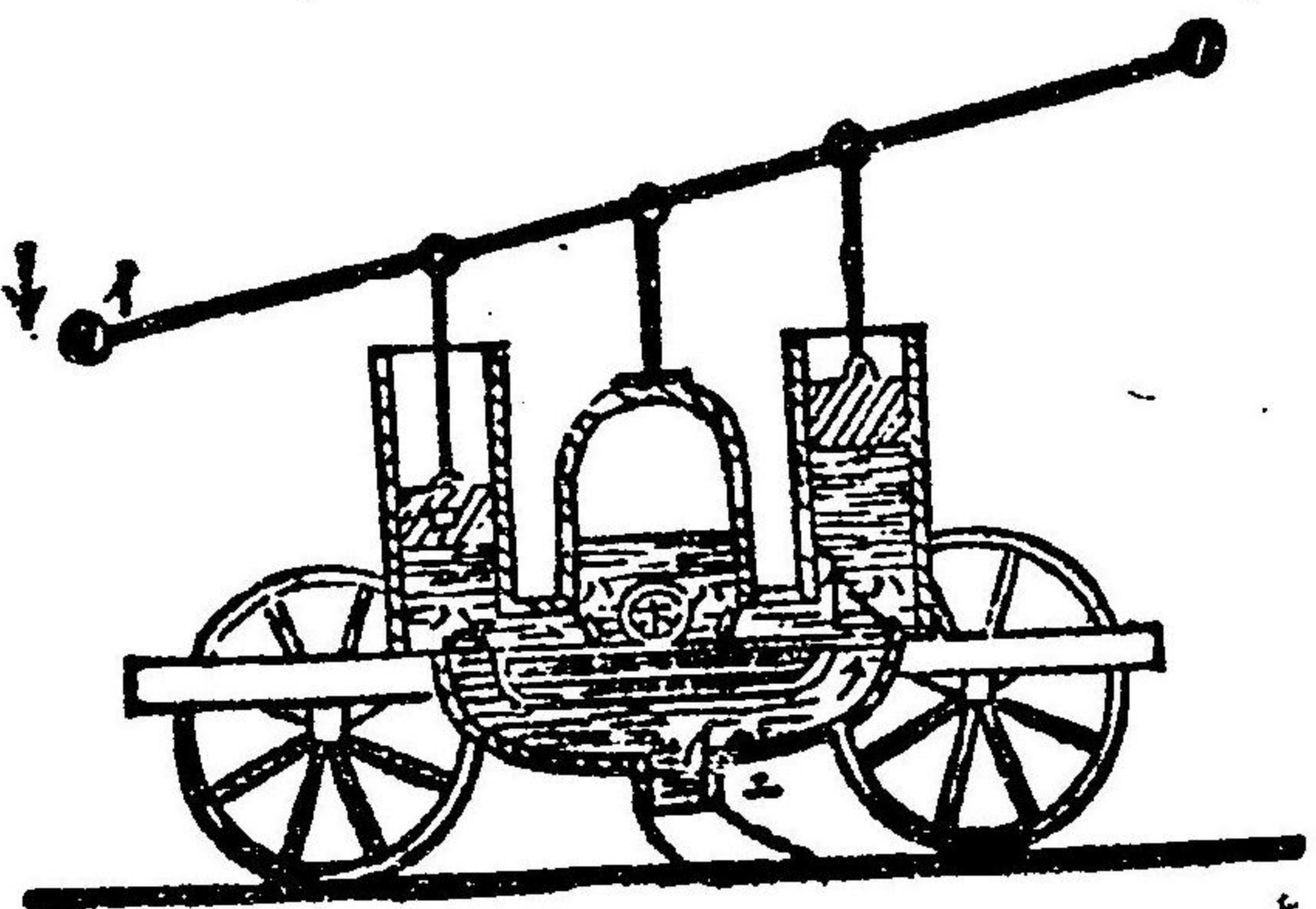
#### 三、種類と作用

#### 押し上げポンプ

このポンプもその理においては前と異なることなけれども、唯活塞に開閉(カイ)するの瓣なきを異なりとす、世間にある龍吐水(リキウスイ)のごときはこの理によれるなり。

#### 消火用ポンプ

圖中のイはこれを動かす柄にして口は活塞、ハはともに瓣なり、ニは水に通する管にして、ホは金属にて製せし筒にて、これに管をはめ水を噴出せしむべく作り。この構造によりて製し、イの柄を擧ぐるときは、筒の中に入り、左方の底の瓣が閉ち、右の満ちし筒の中に入るべし、而して柄の左の壓力によりてホの筒より水を噴出せしむるなり。



# 音

## 一、音波

例へば一の長さ簾(スジ)をつり下げ、その一方手の端をもち、これを水平に振動すれば、その振動はだんだんと他の端に向つて進行するを見るべし、かくの如く一列にある多くの物體又は分子の一部における振動が、順次に他の部に傳はりゆく運動を名づけて音波といふなり。

空氣 例へば太鼓をうてばその皮が振動するため、その皮に觸れたる空氣も共に動きて空中に疎密の波を生ずるなり、而してその波は、いづれの方向にも同様に波及して人の耳に入り、鼓膜(カゴ)をうごかして音の感覺を生ぜしむ。

## 二、音の波及

液體 井水中に鈴を入れてこれをふるに、能くその音を聞き、且つその波の水面に生ずるを見、又水面に近くおよぐ魚類が外に於ける強き音の發するるとき水底にのかるゝ如きも、皆音波の水中に傳はる證なり。

固體中 長さ木材の一方の端に耳をあつれば、他の端における振る音を聽くを得、これ固體の音を傳達するの證なり。

# 波

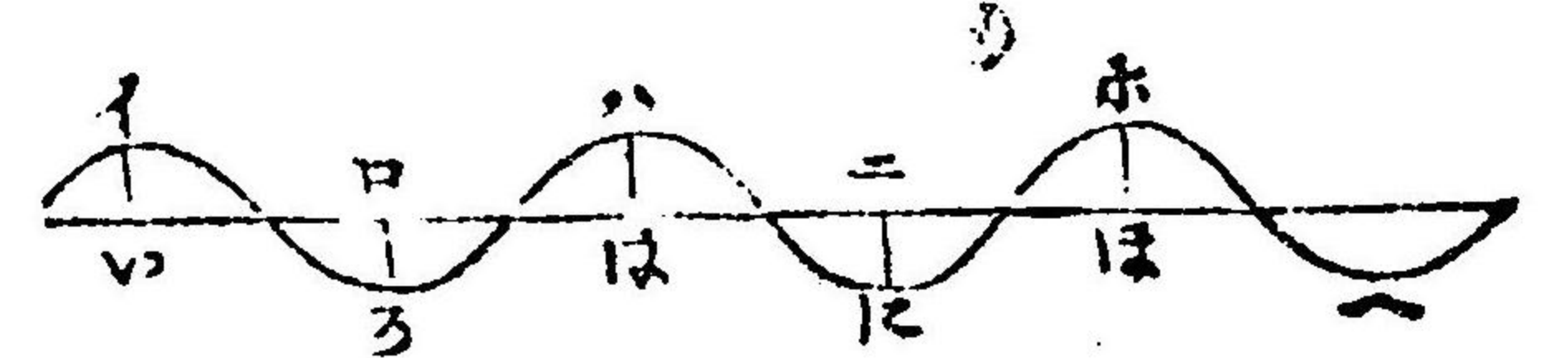
## 三、音波の二種

### 高低波

下圖にあるは音波の高低を示したるものにして、イハホの如きは波の高きものにして山といひるに、等の高きものは波の谷といふ、而してイといひ、ロとろ、ハとはその如き振動の路程を振幅(アン)といひ、イハホ等の如く相隣りせるものを波長といふ、而して各分子が一振するに要する時間を週期といふ。

### 疎密波

假りに黄銅(カネ)にてつくりしハネにて二十個ばかりの鉛の球をつなぎ合せて一列となし、その球を二本の銅線にてつるし一方の端の球を押し、その次の球に近づければ、ハネの力により球と球とが密接して密なる波及をおこし、これに反して一方の端なる球を引き上ぐるときは各球に傳達して疎なる波及をおこすべし、此の如く交互に疎密を生ずる波を疎密波と名づく、而して一つの濃部と次の濃部との距離或は疎部と疎部との距離を波長と名づく。



### 音

#### 一、反射

黄銅製のハネの一方の端をのばし、或はちぢめんに、そののび又は縮(チヂ)みは、他の端に達すれば、そののび又はちぢみは、ふたゝび手の方にもどり来るべし、すなはち音は壁のごとき面にあたれば、その面よりもどり来るものなり、これを音の反射といふ。

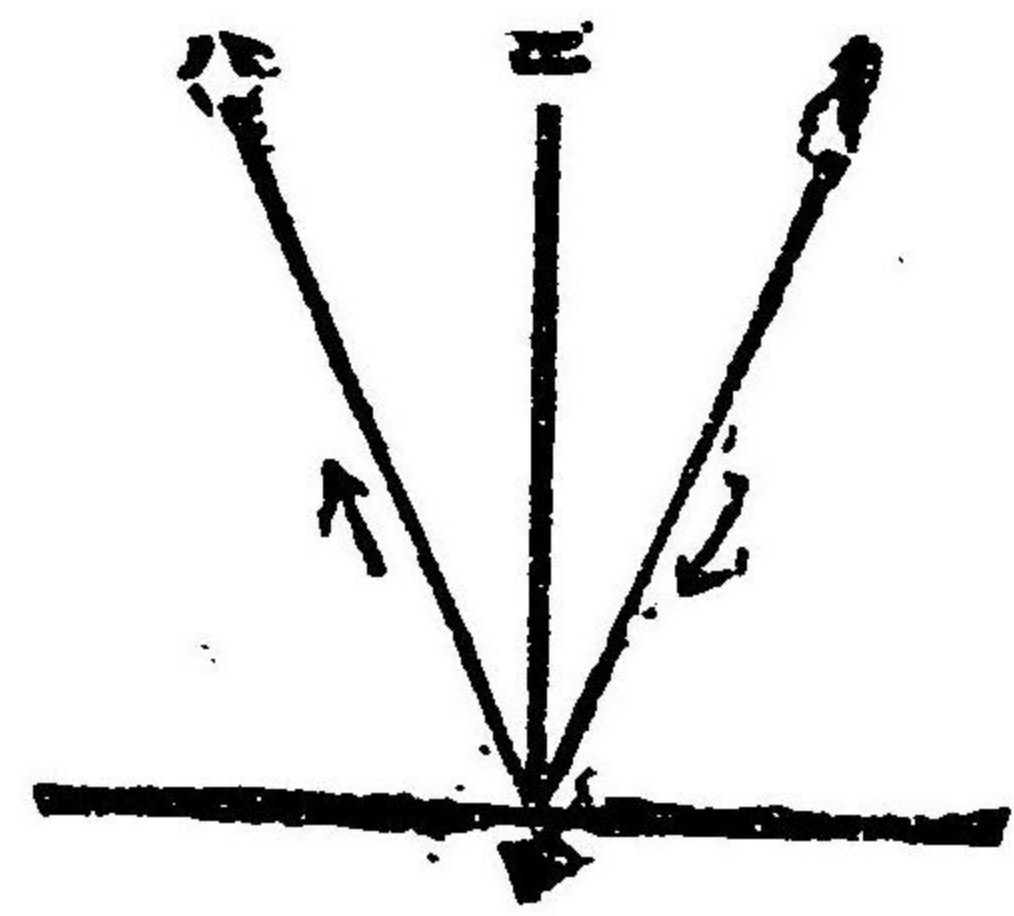
#### 二、規則

音が反射する面に、垂直に投射(シヤウ)するときは、また垂直に反射するものなり。

### 反

#### 三、同解

下圖の如くイロ間に斜に投射するときは、ロハの如き方向によつて反射すべし、すなはち投射の角度と反射の角度とは相等しきものとす。



### 射

#### 四、山彦

大なる室内又は山間等において音聲を發するときは、この音聲は室内の四方の壁(カ)又は山嶽より反射して、はじめて音聲を發したる人が、ふたたびその音聲と同じ音聲を聞き得べし、すなはち己れのいひしことを彼方にてそれをまねていふが如く聞ゆるもの、これを山彦といふ、また反射の理に外ならざるなり。

### 音の強さ高さ及び音色

#### 一、音の強さ

強き音とは、その振幅が大きくして濃(コ)くあつく、及つうすくまばらなる度の大きいなる音波は、耳の鼓膜(コ)を刺激(キツ)するものなるがゆゑに、これを強き音といふなり、これによりて次の法則を生ずるものとす、而してその強さと距離との規則もこれによつて知らる。

#### 二、其の規則

1、音の強さは振幅の平方に比例す。  
2、音の強さは距離の平方に反比例す。

#### 三、音の高さ

一秒時毎における振動数が多くして、鼓膜を刺激することの頻りなる音はわれわれにするととき感覺を與(ア)ふるものなり、これを調子(チヨ)の高き音といふ、即ち振動数の多きものは、振動数の少きものより調子高くして、例へば甲より乙が二倍振動するときは、二倍だけその音の高きものなり。

#### 四、音色

通例の發音體は主音と倍音(ハイ)とあり、高低の感覺を與ふる振動は主音と名づくるものにして、倍音とはその二倍三倍等の振動数の音を混するものをいふ、此倍音が吾人に音色の感覺を與ふるものなり、樂器(キョウ)がその音色に差異あるは、倍音の差異によるものとす。

# 磁

## 一、磁氣體

天然に存する酸化鐵の一種は、鐵を引く性をもつものにして、これを天然磁石と名づけ、この鐵質は磁氣性を帶ふといふ、又鋼鐵にて作りたる磁石あり、これを人造磁石と名づく。

## 二、磁石の極

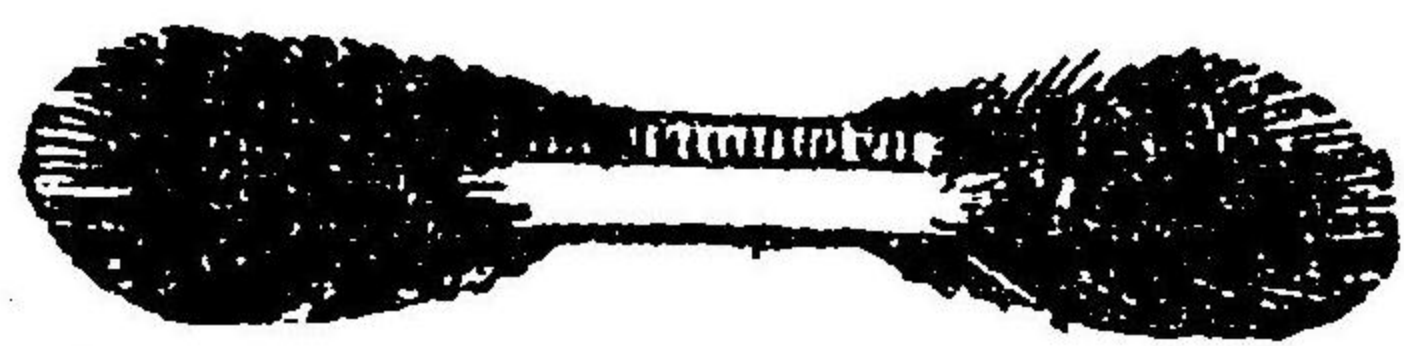
下に示したる圖は磁石の極を示せしものにして、一つの磁石を鐵屑(テツ)の中に入れば、その鐵屑は磁石の兩端の近くも最も多くつき、中央に至るほどだんだんと減じて、正中には少しもつかざるを示せり、この磁石力の最もつきよきところを極といふなり。

## 三、兩極性質

一つの磁針を糸にて水平に垂れ下げたる時は、ほとんと南北の方向を取りてとまるべし、その南に向ふ極は指南極北に向ふ極は指北極といふなり。

## 四、圖解

二つのA Rなる磁針を取り、その兩極を近づくるに、指北極たるNと指北極たるNとは、たがひにはねつけ、指南極たるSと指南極たるSとは、たがひにはしりぞくるを見る、而して指北極と指南極とは前とは反對にて、よく引くものとす。



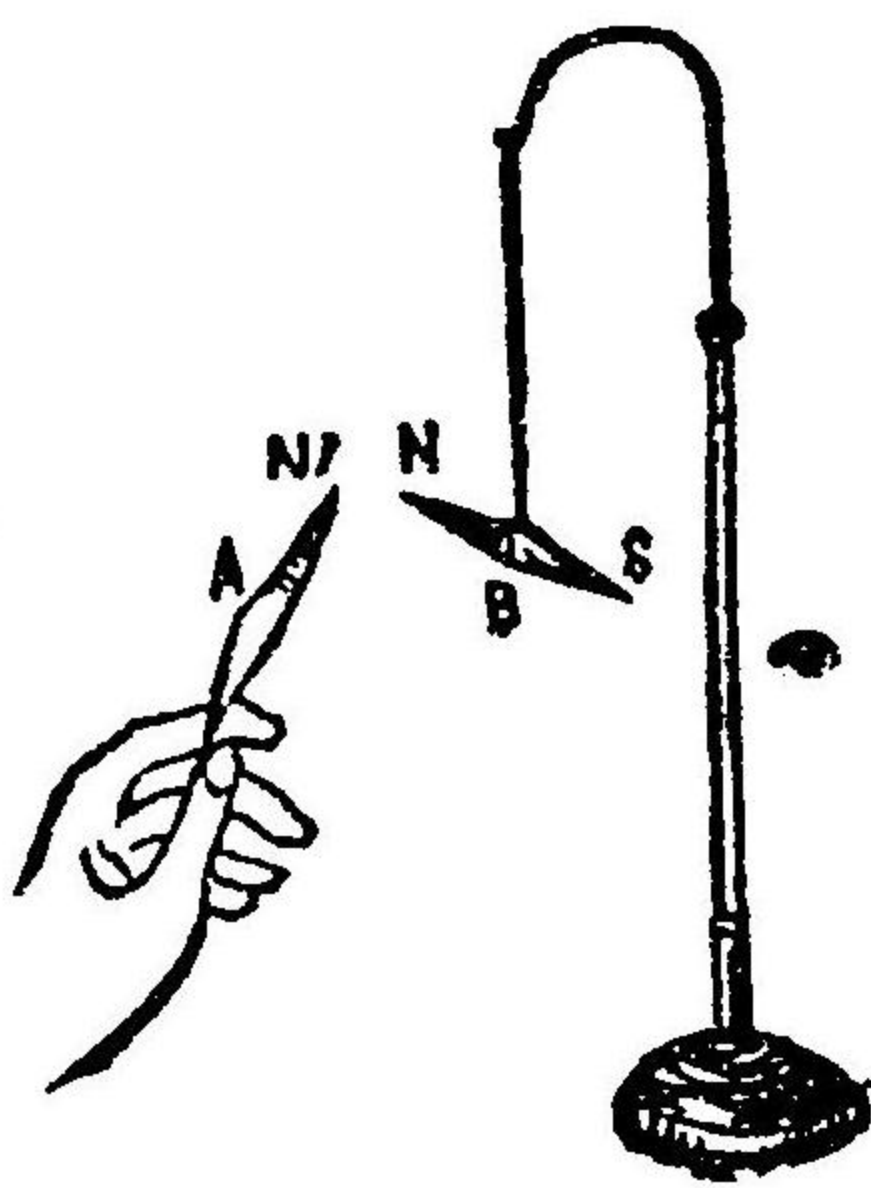
# 石

## 五、規則

1、同種の極は互にしりぞけ、異種の極は互に引く。  
2、一つの磁石の兩極のつきよさは等し。  
而して磁石のしりぞけ又は引く力は距離の平方に反比例するものとす。

## 六、磁石の感應

一つの磁石の指北極に、軟鐵(テツ)の一端をちかづけるときは、軟鐵はただちにすひつくべし、而して他の一端に他の磁石を近づけるときは、その端は北極なることを示すものとす。  
これは磁石の指北極が軟鐵に作用して、指北極にちかき端に異種の指南極を生じ、他の端には同種の指北極を生じ、たるなりこれを感應によりて磁性を生せりとす。



## 七、分子

磁石の各分子は各一箇の磁石にして、同性の極をそなへたる端は皆同じ方向に列するものとす、而してその中央においては異種の作用互に中和して磁石の性を呈せざるものなり。